文部科学省

ー多様な新ニーズに対応する
「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランー

《京都大学拠点》

高度がん医療を先導するがん医療人養成

外部評価報告書(令和元年度)

京都大学
三重大学
滋賀医科大学
大阪医科大学
京都薬科大学

〈京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学連携〉

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

「高度がん医療を先導するがん医療人養成」

事業推進責任者

京都大学大学院医学研究科　教授

武　藤　　学

ごあいさつ

現在のわが国は、世界に類を見ない超高齢社会を迎えるとともに生産人口の減少、少子化と社会構造が大きく変わりつつあります。一方、科学技術の進歩もめざましく、医療の分野でも新技術が次々生み出され、新しい医療の提供が様々な分野で行われるようになっています。わが国が今後も健全な社会を維持するためには、国民の健康長寿は必須であり、安心して暮らせるようにしなければなりません。なかでも、わが国の死因の第一位である「がん」の医療に関しては、最先端の医療技術を活用しながら、ライフステージに合わせた多様な新しいニーズに対応できる医療人の育成が求められています。

本事業では、京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学において、ひとりひとりのがん患者に、より精密な医療を提供するプレシジョンメディシンを実現する「がんゲノム医療」、これまで対策が不十分であった「希少がんや小児がん」、そして「様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療」に対応できる医療人の育成を目指します。

具体的には、がんゲノム医療では、がん組織におけるゲノム変化を理解し治療に結びつけるがん薬物療法専門医の育成に加え、家族性腫瘍などのゲノム情報にも対応できる臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーの育成を行います。希少がん、小児がんにおいては、これまで原因が不明だった病態の解明と病態に基づいた新規医療開発ができる研究者と医療人を育成します。さらに、現在のがん医療は、社会構造の変化にも大きく影響されており、様々なライフステージと新しいニーズに合わせたがん医療の提供が必要になってきています。例えば、高齢者に対するがん医療のあり方、腎障害や肝障害などの合併症をもつがん患者への治療、からだに優しい低侵襲な治療開発などが大きな課題になっています。特に、ロボット手術や高精度放射線治療など最先端の治療を担う人材は不足しており、その育成は喫緊の課題であります。さらに、がんと診断された時から心身のケアを含む緩和医療を担える人材を育成する必要があります。

私達は、このようながんの専門的教育を実践することによって、幅広い領域の医療人の育成とがん医療の発展に貢献し、健康な社会つくりの一躍を担いたいと考えています。

京都大学コーディネーター

大学院医学研究科　教授

溝　脇　尚　志

本教育プログラムの主眼は、プレシジョンメディシンを実現する「ゲノム医療」、これまで対策が不十分であった「希少がんや小児がん」、そして「様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療」に対応できる医療人の育成であります。京都大学におきましては、前２期のがんプロフェッショナル養成プログラムにおいて築いてまいりました基盤の上に本教育プログラムを整備することにより、幅広く高度な臨床能力を身につけ先導的にがん研究を推進できる医療人の養成を行います。また、ゲノム医療、ロボット手術や高精度放射線治療などの最先端医療に加えて、家族性腫瘍などに対応できる臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラー、がんの診断時から緩和医療を担える人材等、幅広い医療人を養成するために、９つのコースを開設いたしております。本プログラムの実施におきましては、連携５大学との交流を通して、本学のプログラムが対応しきれていない内容についても相補的に学べる環境を提供いたします。また、海外の先端的施設における研修の機会も設けております。

本教育プログラムによって、我が国の将来の医療を中核となって担える人材を養成していきたいと考えております。

三重大学コーディネーター

がんセンター長

中　瀬　一　則

三重大学では、第３期のがんプロである「がん専門職医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランの大学院の教育コースとして、従来までの腫瘍内科専門医、放射線治療専門医、乳腺外科専門医、婦人科腫瘍専門医、がん専門薬剤師、がん看護専門看護師の養成コースに加えて、新たに、小児がん専門医の養成コースを開設しました。三重大学医学部附属病院は小児がん拠点病院に指定されていますので、小児がんのすべてに対応した研修が可能となっています。これらの大学院コースでは、がん研究による学位の取得とともに、がん専門職の資格取得を目指した指導教育を行い、優れたリサーチマインドを持ち、ライフステージやゲノム情報に応じた個別化医療を適切に実施できる高度がん医療人の育成を進める予定です。また、インテンシブコースにおいても、ゲノム医療を推進できる医師養成コース、ライフステージ・地域特性に応じたがん治療を提供する医師養成コース、ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる多職種人材養成コース、地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コースを開設して、講演会、セミナー形式による研修を行うことにより、地域におけるがん医療の総合的な向上を目指します。

滋賀医科大学コーディネーター

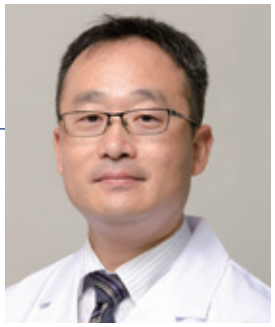
臨床腫瘍学講座　教授

醍　醐　弥太郎

滋賀医科大学大学院医学系研究科・医学専攻では、多彩な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プランにおいて、過去 10 年間のがんプロフェッショナル養成事業の実績と最新の社会的ニーズを踏まえ、先進的がん医療開発、がんゲノム医療、ライフステージに応じたがん集学的治療（薬物療法、外科療法、放射線療法、緩和ケア、支持療法）、小児がん治療に精通した医療人材を養成することを目的とした４つのがん専門医療人コースと３つのインテンシブコースを新たに設けました。

いずれのコースにおいても最先端の基礎・臨床腫瘍学とその学際領域を教育するとともに、がんの基礎研究からトランスレーショナルリサーチにつながる研究手法の指導と先進医療制度や医師主導治験等を通じたがん先進医療開発の On the Job Training（OJT）を行い、標準治療から先進的医療、創薬研究までを推進して包括的・全人的がん医療を指導的立場で実践できる専門医療人材を養成します。また、行政、地域医療機関、国内外の卓越した大学院・研究機関・がん専門病院群とのネットワークや本学の特色ある教育・研究基盤を活用し、地域と世界で活躍する人材を輩出して医療、福祉の発展に貢献することを目指します。

大阪医科大学コーディネーター



化学療法センター長

後　藤　昌　弘

大阪医科大学では平成 19 年度から実施された「高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成」プログラム、さらに平成 24 年度からの「次代を担うがん研究者・医療人養成」プログラムで化学療法専門医、放射線治療医、がん手術療法専門医養成コースを設置し成果を上げてきました。今回の「高度がん医療を先導するがん医療人養成」プログラムでは、それぞれの専門医育成プログラムをさらに発展させることを目的に「ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース 」、「希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース」、「婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース」の３つの新コースを設立しました。それぞれのコースでの養成分野は「ライフステージ」、「希少がん」、「ゲノム」と異なりますが、いずれもがん専門医療人の育成には欠くことのできない分野です。それぞれの領域における学位の取得とともに、領域横断的な講演会・研修会参加の機会を積極的に提供し、新たなニーズに柔軟に対応できる優れた人材を育成するとともに、国内外での短期研修・発表の機会を通して視野の広い医療人の育成を目指します。

京都薬科大学コーディネーター

生命薬科学系　病態生理学分野　教授

芦　原　英　司

京都薬科大学では、薬学の未来を拓く“Science（科学）、Art（技術）、Humanity（人間性）のバランスのとれた薬剤師”の育成を目指した６年制薬学教育を推進するとともに、学部教育に連動する大学院博士課程では、医療現場、企業、行政といったあらゆる医療現場においてリーダーとなる博士号を有した薬剤師を育成することを目的に教育を進めております。

本学は、「ライフステージに応じた個別化がん治療において全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース」を設けました。大学附属病院および基幹病院での連携プログラム、在宅支援診療所との連携プログラムの２つの教育プログラムを企画し、がん薬物療法の高度な専門知識と基礎的または臨床的薬学研究能力を有し、テーラーメイド医療を実践できる薬剤師の養成、および地域包括ケアシステムにおけるがん薬物治療の指導的役割を果たし、高度で先進的な在宅医療を提供できる薬剤師の養成を主眼として、進めていきます。さらに、がん専門薬剤師（指導薬剤師）を目指す大学院生や薬剤師を対象としたキャリアパスセミナーを開催し、がん医療チームの一員として、『現場で科学する』薬剤師の養成を目指します。

文部科学省

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

《高度がん医療を先導するがん医療人養成》

外部評価報告書

（令和元年度）

京都大学

三重大学

滋賀医科大学

大阪医科大学

京都薬科大学

文部科学省 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

高度がん医療を先導するがん医療人養成

「外部評価報告書（令和元年度）」

1. 外部評価実施方針について

・外部評価は、評価委員による書面評価とする。
・評価委員については、6名の委員を選任する。
・評価項目については、「申請書」（H29年7月提出）に記載した達成目標・評価指標の分析評価をするため、「事業評価ガイドライン」（H24.3.29 がんプロ養成推進委員会）を基本として評価指標の適切性や達成状況などの、事業の実施状況を把握するため独自の評価項目をする。

2. 評価項目について

「外部評価項目」 3 ～

3.「高度がん医療を先導するがん医療人養成」について

「連携する大学」、「事業の概要」、「事業取組の実績」、
「事業取組の具体的成果」、「事業の概念図」、 5 ～
「各大学の教育プログラム・コース」

4.「令和元年度　取組状況等」

「令和元年度　取組状況等」 10 ～

資料　1　「受入目標人数・入学者数・在学者数」 49 ～
資料　2　「資格取得者数一覧」 50 ～
資料　3　「がんプロ履修生調査（要望・改善点）」 52 ～
資料　4　「がんに特化した講座の設置状況」 56 ～
資料　5　「セミナー・シンポジウム等の開催状況」 57 ～
資料　6　「インテンシブコース実施事業」 60 ～
資料　7　「医療チームの整備体制」 63 ～
資料　8　「キャンサーボードの体制」 65 ～
資料　9　「プロトコル作成への関与状況」 71 ～
資料　10　「国際学会・英文誌への発表一覧（京都大学）」 74 ～
資料　11　「国内学会・雑誌への発表一覧（京都大学）」 79 ～
資料　12　「海外学会・シンポジウム等参加状況」 89 ～
資料　13　「国内学会・シンポジウム等加状況」 91 ～
資料　14　「海外合同教育セミナー」 99 ～
資料　15　「学生短期研修プログラム」 108 ～

5. 評価について

「評価結果表」 115 ～

「講　　評」 116 ～

6. 外部評価委員について

がん・感染症センター　都立駒込病院 放射線診療科（治療部）	部長	唐澤 克之
名古屋大学　医学部附属病院 化学療法部	部長・教授	安藤 雄一
川崎医科大学　総合医療センター	病院長・特任教授	猶本 良夫
神戸大学　医学部附属病院 薬剤部	部長・教授	矢野 育子
大阪大学　医学系研究科 保健学専攻 看護実践開発科学講座	教授	荒尾 晴惠
特定非営利法人 PanCAN Japan	理事長	眞島 喜幸

7. 評価実施日程について

令和2年 8月 1日　～　令和2年 8月24日

外 部 評 価 項 目

【教育プログラムコース】

1 各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み

2 がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか

3 コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか

4 がんに特化した講座（平成24年度以降の新設講座）の活動状況

5 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数

6 医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、新たな整備数

7 多職種が共同で参加できるキャンサーボード等の整備数

8 医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績

9 コース履修者の医療チーム・キャンサーボードの開催数、期間等

10 院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績

11 コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数

12 コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数

13 コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数

14 コース履修者の国際学会等への参加者数

15 コース履修者が国内学会等への参加者数

【シンポジウムやセミナー等の実施】

16 地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数

17 社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）

18 インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況

【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】

19 コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み

20 国際交流プログラムの実施数

21 海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数

【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】

22 がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数

23 多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況

24 がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対する
フォローアップ研修会等の実施状況

25 各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進

【事業の運営体制（実施、評価、連携）】

26 連携5大学での事業責任体制、各大学の取り組み事業の実施体制

27 外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、
プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか

28 連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況

29 連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数

30 連携5大学　コース履修者の ｅ－learning 受講登録率

31 新たな ｅ－learning　講義科目の提供の取組みについて

32 主幹大学での事業支援事務組織体制

【事業の普及】

33 本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか

34 県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて

35 ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み

36 テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、
県内の医療の質向上への取組み

37 がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み

38 がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況

39 新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況

（別添Ｄ）

「高度がん医療を先導するがん医療人養成」について

連携する大学

京都大学、 三重大学、 滋賀医科大学、 大阪医科大学、京都薬科大学

事業の概要

我が国は世界に類を見ない超高齢化社会を迎えるとともに生産人口の減少、少子化と社会構造が大きく変わりつつある。一方、科学技術の進歩もめざましく、医療の分野でも新技術が次々生み出されている。我が国が今後も健全な社会を維持するためにも国民の健康長寿は必須であり、中でも我が国の死因の第一位であるがん医療に関しては、最先端の医療技術を活用しながら、ライフステージに合わせた多様な新ニーズに対応できる医療人の育成が求められている。

本事業では、京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学において、プレシジョンメディシンを実現する「ゲノム医療」、これまで対策が不十分であった「希少がんや小児がん」、そして「様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療」に対応できる医療人の育成を目指す。

ゲノム医療では、ゲノム情報を理解し治療に結びつける医療人の育成に加え、家族性腫瘍などに対応できる臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーの育成を行う。希少がん、小児がんにおいては、病態解明および新規医療開発を担う医療人を育成する。現在のがん医療は、社会構造の変化にも大きく影響されており、様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療の提供が必要になってきた。特に、ロボット手術や高精度放射線治療など最先端の治療を担う人材に加え、がんの診断時から緩和医療を担える人材を育成し、幅広い領域の医療人育成とがん医療の発展に貢献する。

令和元年度　事業取組の実績

高度がん医療を先導する医療人の育成を目指すための取り組みとして、「ゲノム医療従事者の養成」6 コース、「希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成」5 コース、「ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成」13 コース、全 24 の多様な教育プログラムコースを平成 29 年度に開設した。令和元年度のがんプロ履修生の受入目標人数 37 名のところ、受入実績は 45 名であり、受入目標人数に対して 8 名上回るがんプロ履修者は確保した。

高度がん医療を先導する医療人養成基盤の強化に向け、5 大学が連携し、各大学の特色を活かした多様な教育プログラムを構築するため、人材交流、多職種交流、国際交流を推進する事業を実施した。

国際交流・人材交流プログラムでは、フランス国パリおいて「5 大学連携海外合同教育セミナー WIN 2019」を企画し、教員 2 名、大学院生 6 名が「Work　shop in Paris」、「WIN2019 Symposium」に参加し、国際学会等での研究成果発表の機会や海外のがん研究者とのディスカッションの場を提供した。

人材・多職種交流プログラムでは、連携 5 大学の学生短期研修プログラム、医療フォーラムを企画実施し、京都大学拠点だけでなく大阪大学・近畿大学拠点との近畿地区 3 拠点合同フォーラム等を開催した。また、地域のがん診療拠点と連携した多職種交流プログラムとして、癌化学療法研究会、緩和ケアセミナー、高精度放射線ワークショップ、三島圏域がん研究会等の地域医療機関・団体と連携した人材交流・多職種交流プログラムを実施した。

専用ホームページにより、広報活動の実施、地域医療貢献のための各種フォーラムや公開講座等の開催情報を含め、新たに活動報告もできるように更新し、拠点活動を積極的に公開した。

これらの取組事業全体を統括する 5 大学連携「事業推進運営委員会」を 3 回開催して、基本計画の協議・決定、評価を行い、本事業の円滑な推進に取り組んだ。

令和元年度　事業取組の具体的成果

高度がん医療を先導する医療人の育成を目指すための取り組みとして、引き続き、「ゲノム医療従事者の養成」6 コース、「希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成」5 コース、「ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成」13 コース、全 24 の多様な教育プログラムコースを開設し、45 名のがんプロ履修者を受け入れた。

教育プログラムコースでは、各大学の特色を生かして、長年積み重ねてきた教育インフラを基に、ゲノム医療の臨床実装、希少がんと小児がん、さまざまな社会環境における医療や多岐にわたる併存症への取組等、多分野にまたがる総合的な医療を意識して、各領域においてバランスを踏まえ、また、遺伝性腫瘍、AYA がんなど複数臓器、長期間のフォローアップが必要な課題に対して、診療科・職種横断的な人材育成が可能な教育プログラムコースを提供することができた。これにより、履修する学生には、幅広い領域からがんプロフェッショナルとしての教育を教授することができた。

高度がん医療を先導する医療人養成基盤の強化に向け、5 大学が連携して人材交流、多職種交流、国際交流を行う中で、各大学の特色を生かした多様な教育プログラムを構築することができた。

国際交流・人材交流・多職種交流プログラムでは、フランス王国パリにおいて 5 大学連携海外合同教育セミナー WIN 2019」を実施し、「Work shop in Paris」、「WIN2019 Symposium」への参加、研究成果発表を行い、海外最先端の Precision Medicine の革新と世界規模で展開されるがん研究の情報収集を行うと共に、がんプロ履修生自身が海外の研究者を前に意見交換する機会を提供し、がんプロ事業の推進を行った。さらに、履修生が国際学会に参加するだけでなく、研究成果発表を前提とする学生に対して経費支援を行い、学修研究意欲の向上を図った。

人材・多職種交流プログラムでは、連携 5 大学からがんプロ履修生 18 名を選抜し、三重大学での 2 日間の「学生短期研修」を実施した。この研修では、研修生が一同に会した共通研修の後、「ゲノム医療コース」、「放射線コース」、「緩和ケアコース」の 3 コースに研修生が分かれ、講義だけの座学ではなく、履修生同士でのフリーディスカッション、多職種が協働する医療現場での治療見学、事例検討、ラボ見学、病棟回診等のコース別研修を受け、がんプロ教育を受ける履修生同士の共通意識の向上を図った。

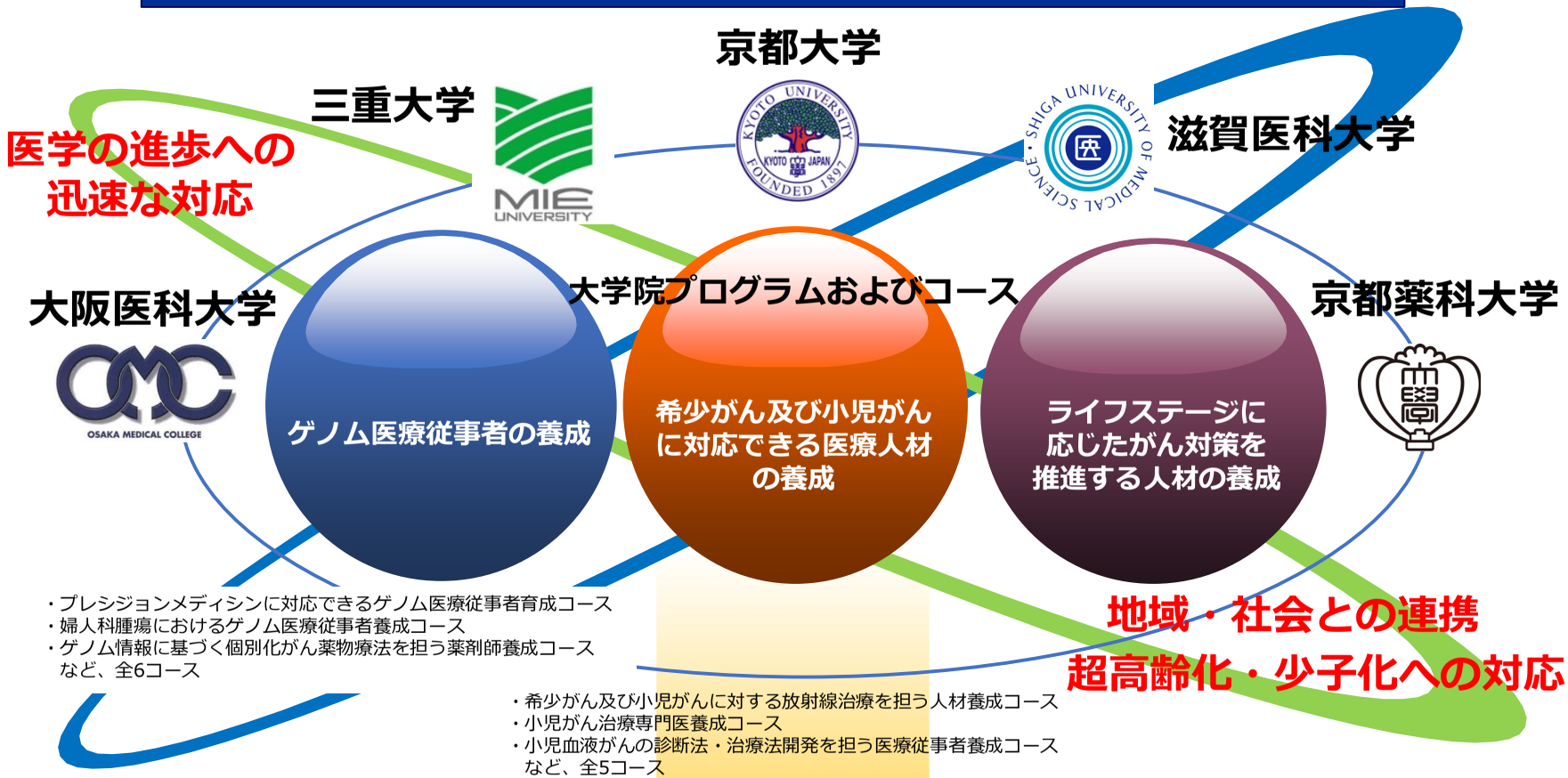
また、連携 5 大学での「5 大学連携医療フォーラム」の開催、京都大学拠点だけでなく大阪大学・近畿大学拠点の「近畿地区 3 拠点合同フォーラム」への講演者派遣等の積極的に取り組むことで、連携大学・他拠点間の交流を実施することができた。

地域のがん診療拠点と連携した多職種交流プログラムとして、癌化学療法研究会、緩和ケアセミナー、高精度放射線ワークショップ、三島圏域がん研究会等の実施により、地域医療機関・団体との実践教育、多職種教育を実施することができた。さらに、他拠点が開催するシンポジウムであるが、本拠点の履修生による研究成果発表の推薦を行い、他拠点との人材交流を行った。また、各大学のがん相談支援センターががん患者や家族からの意見を集約して、教育内容に反映するシステムを取り入れることで、がん患者の視点に立てるがんプロフェッショナルとしての教育を行うことができた。

社会への普及活動としては、がんプロ専用ホームページのサイト項目に引き続き「5 大学連携医療フォーラム」の内容を映像により公開し、サイト項目「活動報告」では、公開シンポジウムへの参加報告の概要、がんプロ事業の取組状況を掲載した。これにより、拠点としての取組事業活動の可視化を図り、履修者及び地域医療関係者をはじめ社会から、拠点としてがんプロ活動の理解を得ることができた。掲載情報は京大拠点だけでなく、他拠点との公開講座や近畿地区 3 拠点とのフォーラムも掲載し、他拠点交流や多職種交流教育を図ることができた。

これらの取組事業全体を統括する 5 大学連携「事業推進運営委員会」を 3 回開催して、基本計画の協議・決定、評価を行い、がん教育プログラム事業の円滑な推進を図ることができた。

高度がん医療を先導するがん医療人養成プログラム



多様なニーズに対応できるがん専門医療人の輩出と教育プログラムの確立

（医師、薬剤師、看護師、医学物理士、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー、データサイエンティストなど）

各大学の教育プログラム・コース

コ ー ス 名	養成する専門分野
京都大学	
プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	ゲノム
婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	希少がん・小児がん
希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	ライフステージ
がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	ライフステージ
ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	ライフステージ
（インテンシブ・コース）	
がん免疫療法と新規分子標的薬・生物製剤治療を担う医療人育成コース（インテンシブ）	ライフステージ
高度放射線治療を担う人材養成コース(インテンシブ)	ライフステージ
地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース(インテンシブ)	ライフステージ
様々なニーズに対応できるがん化学療法チーム養成コース(インテンシブ)	ライフステージ
家族性腫瘍(遺伝子乳がん卵巣がん症候群やリンチ症候群など)に対応できる医療人育成コース(インテンシブ)	ゲノム
ビックデータ医科学を担う人材育成コース(インテンシブ)	ゲノム
社会と交流できるがん相談支援者育成コース(インテンシブ)	ゲノム
三重大学	
婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
小児がん治療専門医養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	ライフステージ
ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師養成コース	ライフステージ
ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	ライフステージ
地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	ライフステージ
（インテンシブ・コース）	
ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成（インテンシブ）	ゲノム
ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる人材育成コース（インテンシブ）	ライフステージ
ライフステージ・地域特性に応じたがん治療を提供するがん治療医養成コース（インテンシブ）	ライフステージ
地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コース（インテンシブ）	その他
滋賀医科大学	
ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	ゲノム
先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	ライフステージ
（インテンシブ・コース）	
ライフステージに応じた包括的・全人的がん医療を担う医療従事者養成コース（インテンシブ）	ライフステージ
ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース（インテンシブ）	ゲノム
ライフステージに応じた集学的医療における放射線治療を担う医療従事者養成コース（インテンシブ）	ライフステージ
大阪医科大学	
婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	ゲノム
希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース	希少がん・小児がん
ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	ライフステージ
京都薬科大学	
ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	ライフステージ

令和元年度　取組状況等

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
【教育プログラムコース】				
	1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み	事業期間中（5年間）　達成目標 （ゲノム医療従事者の養成）　40人 （希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成）　40人 （ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成）　99人 合計　179人　を受入目標人数とする。 令和元年度取組状況 拠点全体における令和元年度がんプロ履修生実績者数は 45人 であり、受入目標人数 37人 に対して、8名上回るがんプロ履修生を受け入れをした。 各大学における令和元年度取組状況 京都大学: 令和元年度は、4/5の新入生オリエンテーションにおいて、多様な新ニーズに対する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン『高度がん医療を先導するがん医療人養成』の取組概要、がん教育の重要性を説明のうえ、がんプロ履修生の獲得に努めた。これにより、受入目標人数20名に対して入学実績人数30名で、10名上回るがんプロ履修生を受け入れた。 三重大学: 令和元年度については、入学者の確保をするために、大学院HPでの広報活動に加え、近隣の大学および病院等への募集要項送付、三重県内のがん関連の研修会、セミナー等で各コースの紹介を行い、婦人科腫瘍医養成コースに1名、放射線腫瘍医養成コースに1名、乳癌診療を担う人材養成コースに2名、腫瘍内科医養成コースに1名、看護師養成コースに1名の合計6名が入学した。 滋賀医科大学: 令和元年度については、受入れ目標数に達するよう、各講演会・セミナーにおいて本事業及びコースの説明を行った。 大阪医科大学: 各コースとして入学者1名、大学全体として入学者3名を充足するため、ホームページや入試要項などで広報活動を実施し、婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース1名 、希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース1名、ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース1名 の入学者で計画どおり当初のコースすべての入学生を受け入れることができた。なお、今後も充足するための広報活動等を実施する。 京都薬科大学: 大学ホームページおよび大学院パンフレット等による広報活動をはじめ、本学5～6年次生に対して、学内で大学院説明会を実施している。説明会では大学院進学の意義、「臨床腫瘍薬学」の重要性、ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース（がんプロコース）等の説明を行い、大学院進学を促進している。 令和元年度は、受入目標1人に対して入学実績人数は2人であり、受入目標人数を達成した。	（資料1） 受入目標人数、入学者数・在学者人数
	2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか	事業期間中（5年間）　達成目標 専門医資格取得者数 100名を目標とする。 令和元年度取組状況 拠点全体として、35名の専門医の資格を取得した。	（資料2） 資格取得者数一覧

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			各大学における令和元年度取組状況 京都大学: 引き続いて、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた講習会を行うとともに、がんプロ学生が希望する専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援し専門医取得指導を行っている。 (プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)の取得に必須となる造血器、呼吸器、消化管、乳房領域の症例について、本人の希望に応じてフレキシブルに経験が積めるよう各診療科と連携を取り研修を行っている。またがん薬物療法専門医取得や更新に必要な臨床腫瘍学会の教育セミナー及び学会参加を支援し、受験のために必須となる病歴要約については専門医資格を有する指導教官が添削・指導を行っている。学会発表や論文執筆に関して指導を行っている。 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 当コース参加の大学院生には、婦人科腫瘍専門医取得にむけて、大学病院において症例の経験を積ませている。 さらに、学会発表や論文執筆の指導を行っている。 また、クリニカルシークエンスカンファレンスやゲノム関連研究会への積極的な参加を促している。 毎年コース修了生が婦人科腫瘍専門医を取得できるように取り組んでいる。 今年度は1人合格した。 (小児・AYA世代コース) 大学病院での担当症例、日々の病棟ミーティングと毎週の血液腫瘍カンファへの出席、さらに毎月の関連病院との症例検討会を通じ、専門分野の経験を積ませている。また、整形外科や脳外科など連携する成人各科とのカンファレンスを通じ、他科との連携を実践している。学会発表、論文執筆を義務付けており、これらの指導を通じて小児血液がん専門医取得へ、サポートを行なっている。 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療・医学物理士養成コース) 早朝に各臓器の放射線治療に関する勉強会(放射線治療科モーニングレクチャー)、水曜日午後2時-5時に医学物理に関する特別授業を行い、放射線治療専門医試験・医学物理士認定試験に向けて理解を深めるような取り組みを行っている。 日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会、欧州放射線腫瘍学会、米国放射線腫瘍学会、米国医学物理学会など国内外の放射線治療関係の学会だけでなく、日本癌治療学会、日本乳癌学会、日本肺癌学会、日本泌尿器腫瘍学会など、各臓器別のがん治療の知識取得に役立つ学会での発表の機会を設けた。 また、医学物理士取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援した。 (外科治療・集学的診療コース) 領域別、疾患別、診断治療法ごとの各種専門医資格の取得に向けて、必要な経験、特に症例経験の集積等に十分配慮し、研修プログラム・勉強会を実施した。 (リハビリテーションスタッフコース) 毎週ゼミを行う事で研究、臨床、がんサバイバーに対する社会活動に関する指導を行い、安全で、専門的な知識を持った研究活動、臨床活動、社会活動を促した。これらの内容を学会発表、他大学での授業で行うなどのアウトリーチ、教育活動を行った。 (がん専門薬剤師養成コース) 日本医療薬学会がん専門薬剤師・日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師・日本臨床腫瘍薬学会外来がん治療認定薬剤師の認定講習会を行うなど、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた取組みを行っている。今年度は2月29日に京都大学薬学部記念講堂にて企画をし、108名の事前参加登録があったが、コロナウィルス感染拡大の懸念から中止となった。また、がんプロ後援セミナーや勉強会などを企画し、がんプロ履修生が最新のがん薬物療法に関する知識を習得できるよう取り組んでいる。今年度は1月16日(参加者45名)および2月7日(参加者72名)に京都市内にて開催し、多くのがんプロ履修生も参加した。 さらに、症例検討会を定期的に開催し、最新の文献紹介を通してがん専門薬剤師資格の取得に必要な専門知識を習得するとともに、臨床現場で活躍する薬剤師や医師と討議する機会を定期的に設けている。 (緩和ケアコース) 「身体症状のアセスメントとマネジメント」、「精神症状のアセスメントとマネジメント」、「緩和ケアにおける学際的アプローチ」に関する講義を系統的に行った。関連学会への参加・発表や論文執筆の支援を行った。また、緩和ケアの知識取得に役立つ教育セミナーや研修会への参加を積極的に支援した。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			三重大学： 各コースのコーディネーターが責任を持って、研修カリキュラムに従った、コース履修者の指導・教育を行っており、受験に必要な各領域の受け持ち患者数が確保できるように、適切な患者の割り当てを行った。 また、専門医取得のための学会主催の教育セミナーに参加するための支援を積極的に行った。 さらに、大学内で開催する専門医取得に有用ながん治療セミナーは、がんプロ推奨セミナーとして、大学院の単位取得の対象セミナーとして認定した。 看護師養成コースでは、三重専門看護師会と協働しCNSコース修了生をフォローアップしている。ここでは、CNS認定のための準備や、継続的な教育を行い、がんプロ大学院修了後も継続して学ぶ仕組みを創っている。 滋賀医科大学： 履修案内において、それぞれのコースにおいて取得が見込まれる学会資格等の概要、資格名・資格要件・取得にむけてのプロセス（入学前・在学中・修了後）を掲載している。また、令和元年度においては、医師・医療スタッフ等を対象にがん専門医療人の育成に向けたセミナーを27回開催した。 大阪医科大学： 専門知識向上に向けて、コースでは外部講師を招いて年1回2名による講演会を行い、取得への支援を行っている。 京都薬科大学： 「がん専門薬剤師」認定を受けるために、資格取得へ向けた指導を行っている。2019年6月22日には第3回 がん専門薬剤師を目指すためのキャリアパスセミナーを開催した。資格取得条件である「一般社団法人　日本医療薬学会」（5年間の入会が必要）への入会を促している。	
	3	コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか	令和元年度取組状況 京都大学： 引き続いて、コース履修者の満足度を満たす取り組みとして、履修生へ「がんプロへの要望・改善点について」の調査を行い、調査結果をホームページにおいて公表した。（がんプロ事業の継続を望むとの回答が多く寄せられている。） （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 京都大学病院が主催するエキスパートパネル（毎週火曜17時半～）への見学参加を積極的に受け入れている。またゲノム医療の最新の世界的動向を知るため、5大学履修生を対象とした海外研修を計画、パリで開催されたworld innovative networking (WIN) consortiumの国際学会に2名の指導教員と6名のがんプロ履修生を参加させた。さらに現地では参加者による英語でのワークショップも開催し、意見交換を行った。 （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） 婦人科腫瘍における研究指導を行い、その成果報告のために、国内外の学会発表と論文作成の指導を行っている。さらに、婦人科腫瘍専門医取得のために、手術指導、症例カンファレンスを行っている。 また、がんゲノム医療への理解のために、クリニカルシークエンスカンファレンスやがん遺伝関連カンファレンスや勉強会へ参加しやすいような環境整備をした （小児・AYA世代コース） 小児血液がん専門医取得に向けた症例の経験と関連する国内外の学会での発表を行っている。まt、希望に沿った研究テーマを設定し、進捗を報告するカンファレンスでの議論や論文作成指導を行っている。 （希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース） 希望に添った研究テーマ、国内、国外学会における研究発表機会の提供し各学会の放射線治療セミナーへの参加を促した。講座内での定期的な進捗報告会の開催を行った。 （医学物理士養成コース） 履修者の希望に添った研究テーマを設定し、研究発表機会の提供した。放射線腫瘍医コースと連携し、講座内での定期的な進捗報告会の開催し、放射線腫瘍学・医学物理学教員らのコメントをフィードバックした。 （外科治療・集学的診療コース） 学会、研究会、海外研修等への参加を積極的に推進、最先端の研究を遂行できるように環境を整備、産学連携研究にも参加させている。	（資料3） がんプロ履修生調査（要望・改善点）

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(リハビリテーションスタッフコース) 履修者と指導教員によるゼミ活動「Rehabilitation Unit for Cancer Survivor」を週1回開催している。 (がん専門薬剤師養成コース) 現場における問題点を発見し、自分で解決するための能力を向上させるために、がんプロ大学院生１人１人にリバース・トランスレーショナルリサーチを目指した研究テーマを持たせ、そうした活動を通して医師および薬剤師と積極的に討議する機会を設けている。学会参加・発表やがんプロ協賛セミナーへの参加を通して、がんプロ大学院生のがん薬物療法および関連領域における知識や研究能力のスキルアップのための機会を積極的に設けている。今年度はがんプロ履修生が米国にて研究成果の発表を行い（SfN2019@シカゴ、2019.10.19-23）、日本国内だけでなく、海外で活躍する臨床家ならびに研究者との意見交換を行った。 さらに知識や技能の習得および問題点を把握するために、がんプロ大学院生と指導教員や病院薬剤師が常に情報交換できる環境を整備している。新たに抗がん剤副作用のバイオマーカーの探索・臨床研究における有用性の実証、抗がん剤の副作用低減薬の探索を行い、現在、海外学術誌へ投稿を行なっている。また、がんプロ履修生が、研究成果の一部を取りまとめ、総説として発表した（日本薬理学雑誌、2019年11月、第154巻5号P.241-P.244）。 (緩和ケアコース) 定期的にミーティングを行い、情報交換、研究計画の進行状況の確認・支援を行っている。 三重大学: 他大学の講義を、e-learnigで受講可能とし、毎月、病院全体で開催されるTumor Boardや、がん関連診療科で開催されるがん医療についての講演会やセミナーをがんプロ推奨セミナーに認定し、臨床的なスキルを身につける教育を積極的に行っている。また、手術ビデオなどのe-learnig教材も作成し、いつでも受講できるよう満足度を満たすための取り組みを継続して行った。 また、看護師養成コースの講義では、非常勤講師として、全国的に活躍されている看護実践者・研究者、がん看護専門看護師を招いた講義をおこない、大学院セミナーとしても他専攻大学院生に公開した。 滋賀医科大学: ・コースのカリキュラムについて、研究者養成コースについては、様々な分野の科目を設定しており、幅広い分野の人材を育成できるよう設定している。 ・がんプロ主催のシンポジウム、国際ジョイントセミナーおよび国内・国際学術集会での成果発表等を積極的に支援し、コース履修者の成果について第三者の評価を受ける機会を設け履修意欲の向上に努めている。 ・コース履修者がより能動的に学び、考察できるよう演習・実習形式の科目を設けている。 ・コースのカリキュラムについて、研究者養成コースについては、様々な分野の科目を設定しており、幅広い分野の人材を育成できるよう設定している。 ・多様ながん医療の動向に対応するインテンシブコース主催セミナーを19回開催した。 ・次世代シークエンサー、マイクロアレイ、バイオマーカー解析装置、多分子迅速解析装置、超高感度分子解析装置などの機器を用いて、がんプロコース在籍の大学院生にトレーニングを行い、各自の研究に活用している。 ・年々高度化するがん研究の解析装置の研修体制をさらに充実させるとともに、国内連携大学にも大学院生を派遣して人材交流を行っている。 ・がんプロ主催のシンポジウム、国際ジョイントセミナーおよび国内・国際学術集会での成果発表等を積極的に支援し、コース履修者の成果について第三者の評価を受ける機会を設け履修意欲の向上に努めている。 大阪医科大学: 各コースカンファレンスや症例検討会において、履修生に対して個別で指導行っている。 京都薬科大学: 教育研究環境整備に努めるほか、指導教員とがんプロコース履修学生の意見交換会を定期的に実施している。	
	4	がんに特化した講座（平成24年度以降の新設講座）の活動状況	令和元年度取組状況 がんに特化した講座の設置については、平成24年度に京都大学、三重大学、滋賀医科大学の3大学が設置し、令和元年度には大阪医科大学が設置して、活発な教育・研究を推進している。	（資料4） がんに特化した講座の設置状況

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			各大学における令和元年度取組状況 京都大学： 平成24年9月に当初計画どおり、「腫瘍薬物治療学講座（分野）」を設置、がんプロ経費にて特定助教を採用している。本講座は、アカデミアにおけるがんセンターの機能的運用の支援を行うとともに 1）専門的かつ先進的ながん診療の実践と教育 2）治験・臨床試験などの臨床開発の実践と教育 3）がんに関連する基礎研究 4）基礎研究を臨床に応用するTranslational　Oncology 5）次世代の医療開発に繋げるキャンサーバイオバンクおよびがんクリニカルシークエンス事業 等を展開し、専門的な教育を推進している。 三重大学： 平成24年5月に「放射線腫瘍学講座」を設置し、放射線治療医の育成および診療・研究に取り組んでいる。放射線腫瘍医養成コースにはこれまで7名の入学があるが、令和元年度は新たに1名が入学し、1名がコースを修了した。 附属病院において放射線治療および先進医療開発に取り組むとともに、地域病院と連携して放射線治療の啓蒙をはかるためにセミナーや市民公開講座を開催した。 滋賀医科大学： 平成24年10月に、大学の正規講座として「臨床腫瘍学講座」が設置され、腫瘍学講義を学部および大学院で担当している。また、附属病院腫瘍内科および腫瘍センターを運営し、がん診療活動と先進医療開発に従事している。 さらに、地域病院と連携したセミナーや市民公開講座等を複数回実施している。 また、同講座より滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「滋賀県がん対策推進計画」の改定や「滋賀県がん対策の推進に関する条例」の策定・推進に引続き取り組んでいる。 臨床腫瘍学講座を設置し、附属病院腫瘍内科、腫瘍センターおよび大学附属先端がん研究センターを統括し、がん拠点病院、がんゲノム医療連携病院、滋賀県がん診療連携協議会および滋賀県がん対策推進協議会の運営を行うとともに、がんプロ事業コーディネートと統括を行っている。 ・教授1名、講師1名、特任講師4名、特任助教1名（臨床腫瘍学講座・腫瘍内科および腫瘍センター）を配置し、活発な教育研究活動を実施している。 大阪医科大学： 令和元年8月に放射線医学教室を「放射線診断学教室」と「放射線腫瘍学教室」に発展的に改組し、個別の教室として教授を配置し開設した。 「放射線腫瘍学教室」は、がんの放射線治療を中心に診療、研究、教育を実施している。 研究テーマとして ・膀胱癌の進達度診断とバルーン閉塞下動脈内抗がん剤注入法(BOAI) ・頭頸部癌、脳腫瘍に対する強度変調放射線治療（IMRT）を用いた集学的治療 ・早期肺癌に対する定位放射線治療 ・乳癌に対する短期照射 ・前立腺癌に対する強度変調放射線治療（IMRT） ・各種臓器に対する小線源治療 ・再発悪性髄膜腫に対するBNCT（ホウ素中性子捕捉療法）の臨床治験 が挙げられる。 また、「放射線腫瘍学教室」は、附属病院に設置された「がん医療総合センター」と連携しており、同センターが開催する患者様とのセミナーや市民公開講座の運営支援を行う。	
	5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	令和元年度取組状況 教員の指導技術向上等のため、教育研究者、看護師等を含めた医療関係者、がんプロ履修生を参加対象者としてフォーラム・シンポジウム、特別講演を実施している。 また、インテンシブコースにおいては、自大学教職員だけでなく、他大学教職員も含めて、指導技術向上、医療技術向上のため、「専門薬剤師研修」等を開催している。 上記以外にも各コース毎に、週1回程度の合同カンファレンスを行い、教員の指導技術、医療技術の向上に取り組むと共に、がん医療に関するセミナー、講演会等に積極的に参加した。 なお、令和2年2月以降は、新型コロナウイルス感染症の懸念からセミナー等の開催中止や延期となり、また、教員・履修生の国内移動の自粛によりセミナー等への参加ができなくなった。	（資料5） セミナー・シンポジウム等の開催状況 （資料6） インテンシブコース実施事業

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			京都大学: 引き続いて、教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントへの取り組みとして、講演会、セミナー、研修会等を開催、また、各疾患別の症例カンファレンス、キャンサーボードの実施、さらに特定の病態に特化した疾患横断的な診療ボードを設置し積極的にFDに取り組んだ。 (プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) 京都大学はprecision medicine研究の国際コンソーシアムであるworld innovative networking (WIN) に参加している。WINの国際学会には世界からprecision medicine研究の第一人者が集まるため、ゲノム医療の世界的動向に関する最新の情報収集が可能であるが、本学からは2名のがんプロ教員を参加させた。 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 当教員が積極的に指導医講習会に参加し、指導医の体制を整えている。また、日本産科婦人科学会にて開催される、指導医講習会に参加している。定期的なミーティングを開催し、指導法の改善点を模索する。 ①毎週の病理カンファレンス(婦人科腫瘍医と病理医、20名参加)、 ②毎週の画像カンファレンス(婦人科腫瘍医と放射線診断医、20名参加)、 ③毎週の放射線治療カンファレンス(婦人科腫瘍医と放射線治療医、6名参加)を行っている。また症例に応じ、2週に1度程度、 ④外科カンファレンスや、⑤泌尿器科カンファレンスに婦人科腫瘍医も参加して症例検討会を行うとともにFDに取り組んでいる。 ⑥クリニカルシークエンスカンファレンスにて最新のゲノム医学知識、情報を更新している。 (小児・AYA世代コース) ①毎朝の症例検討カンファレンス ②毎週の小児血液がんカンファレンス、骨軟部腫瘍カンファレンス ③1～2ヶ月に1回の脳腫瘍カンファレンス、造血細胞移植カンファレンス、病理カンファレンス、小児外科カンファレンス ④全国組織である日本小児がん研究グループや関連学会における発表や委員会活動 以上を通して、FDに取り組んでいる。 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) スタッフ全員が指導医講習会に参加し、指導医の体制を整えている。また、日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会にて開催される、研修指導者講習会に教員医師が全員参加している。定期的なミーティングを開催し、指導法の改善点を模索している。 脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス、頭頸部癌ユニットカンファレンス、食道癌ユニットカンファレンス、胃癌/GISTユニットカンファレンス、肺癌・縦隔腫瘍ユニットカンファレンス、乳癌ユニットカンファンレンス、膵癌ユニットカンファレンス、大腸癌ユニットカンファレンス、前立腺癌ユニットカンファレンス、小児癌ユニットカンファレンス、原発不明癌/希少癌ユニットカンファレンス、血液腫瘍カンファレンス、骨転移キャンサーボード等、各ユニットカンファレンス・キャンサーボードへの参画を行っている。 (外科治療・集学的診療コース) がんプロFDのため学生や教員の発表や情報収集をサポートした。 ・上方乳癌研究会(5/11)多数 ・第30回KBCCC レギュラー会議(5/11)多数 ・第75回京滋乳癌研究会(9/7)43名 ・第31回KBCCC レギュラー会議(9/7)多数 ・Derek Radisky Mayo clinic cancer center 勉強会(2/14)10名 (医学物理士養成コース) ①放射線腫瘍医、診療放射線技師、看護師、医学物理士合同の症例検討会(約30名)に毎週2日参加し、放射線治療の臨床の現状把握及び課題の抽出を行っている。この検討会にはがんプロ学生も参加している。 ②医学物理士に認定されている教員を対象に、今後資格更新の際に必須となる学会主催の教育セミナーおよび学会やシンポジウムへの参加のサポートを行った。 日本医学物理学会:3名 日本放射線腫瘍学会:3名 米国医学物理学会:1名 アジア放射線腫瘍組織連合(FARO):1名 欧州放射線腫瘍学会スクール:1名 国際定位照射学会:1名 バリアンシンポジウム:1名 (リハビリテーションスタッフコース) 緩和ケア学会のセミナーに参加し、学外からの指導も受けている。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			（がん専門薬剤師養成コース） 指導教員は指導能力向上のために講演会・セミナー（ex. 1月16日 Cancer Total seminar for Pharmacist、京都教育文化センター：参加者45名、2月7日 2025年に向けた薬剤師業務研究会、 The Thousand Kyoto：参加者72名など）の主催・参加を通して、FDに取り組んでいる。 また、がんプロ学生についても、勉強会やセミナーへの参加を励行し、がん薬物療法における必要な専門知識やがん薬物療法についての最新知見の習得を目的として、国際学会などに参加して情報交換を行うことを支援している（2019.10.19-23、SfN2019@シカゴ）。さらに、勉強会にて、指導教員、がんプロ学生およびがん専門薬剤師で月に数回ディスカッションする機会を設けている。第93回日本薬学会年会@横浜、日本薬学会第140回年会@京都、第２３回滋賀県がん薬物療法カンファレンス@滋賀などでもシンポジウムや招待講演を行うことが予定されていたが、いずれもコロナウィルス感染拡大の懸念から誌上開催あるいは延期となっている。 （緩和ケアコース） 指導教員は指導能力向上のために日本緩和医療学会（6月21～22日）と日本ホスピス緩和ケア協会（7月13～14日）に参加したり、緩和ケア研修会を主催（9月14日と11月30日）したりして、FDに取り組んだ。また、欧州緩和ケア学会（5月23～25日にドイツ・ベルリンで開催）と国際Whole Person Care学会（10月17～19日にカナダ・モントリオールで開催）に参加して最新の知見と収集し、教育・研修法について学び、それを履修者に還元するようにした。さらに緩和医療研究会を定期的に開催して、情報交換の機会を持った。 三重大学： 医師コースでは、病院全体のTumor Board(月1回)、骨転移合同カンファランス(月1回)のほかに、緩和ケアセミナー（年3回）、緩和ケアフォローアップ研修会（年1回）、早期からの緩和ケアを考える会（年1回）、がんチーム医療研究会（年1回）、医科歯科連携人材養成研修会（年1回）などの診療科横断的なセミナー、研修会を定期的に開催するとともに、各がん関連診療科で開催される症例検討会、カンファレンスやがん医療に関するセミナー、講演会に積極的に参加し、教員の指導能力向上のためのFDに取り組んだ。 看護コースでは、大学院FDを2回予定していたが、COVID-19感染拡大の影響で9月に1回のみ実施した。テーマは「個人対応が必要な学生への指導」であり、9月27日に開催した（看護学専攻25名、医学系研究科3名、大学院生2名、計30名参加）。 大学院生が、専攻分野以外の教員の研究を知る機会とするために、教員の研究活動を発表する機会を設け、それらの研究についての質疑を通して、大学院生と教員が歓談する「研究交流会」を継続して行っている。今年度は9月12日に開催し教員18名、大学院生16名が参加した。 滋賀医科大学： 各教員等の知識修得の機会として、病診連携フォーラムや勉強会を開催 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・腫瘍センター講演会　3回（10月9日/94名、10月30日/45名、2月19日/39名） 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・「第3回医薬品安全使用研修会（重要性を増すがんサバイバーシップ・ケアと腫瘍循環器学～医療安全と EBM を核としたチーム医療および地域医療連携 ～）」 （R2/1/29/34名） 大阪医科大学： 三島医療圏がん診療ネットワーク協議会　参加者101名　2回開催、 三島圏域がん研究会　参加者272名　2回開催、 市民公開講座　参加者122名　がん関係1回開催、 がん患者サロン　ひだまり　年4回　192名、 第7回市民公開セミナー　11/2開催　82名参加、第2回緩和ケアセンター勉強会　10/9　参加者64名 京都薬科大学： 教員の指導能力向上等のため、主にがんプロコース履修学生が受講する「特論講義」において、外部招へい講師による特別講義として実施している。 1)「生命分子科学特論1／薬学研究者養成セミナー」（6月4日、参加者76名） 2)「第3回 がん専門薬剤師を目指すためのキャリアパスセミナー」（6月22日、参加者99名）	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	6	医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、新たな整備数	令和元年度取組状況 京都大学： 放射線治療科は、治療に関わるすべての癌腫においてカンファレンスを開催し、チーム医療を実践している。 化学療法においても、がん種ごとに関連する専門診療科、腫瘍内科、薬剤部、看護部など診療科、職種横断的なカンファレンスを開催するとともにチーム医療を実践している。 緩和ケアに関しても、緩和ケア専門医、精神科医、看護師、薬剤師、作業療法士、メディカルソーシャルワーカーによる多職種専門の緩和ケアチームを形成し、チーム医療を実践している。 三重大学： 緩和ケアセンター内に緩和ケアチームが整備されており、センター長、常勤の身体症状に携わる医師を配置し、精神科医、麻酔科医、鍼灸師、薬剤師、看護師、作業療法士、臨床心理士等も緩和ケアチームに加わり、多角的な緩和ケア活動が可能な体制になっている。 三重大学に入院して治療を行うがん患者に対して、歯科口腔外科医、歯科衛生士のチームによる治療前の口腔ケアの実施を行う体制を整備している。 また、令元年度に小児科、腫瘍内科、産婦人科、緩和ケア、小児トータルケアセンターからなる集学的診療体制を整備し、AYAがんチームを新たに設置した。 滋賀医科大学： 附属病院腫瘍内科、腫瘍センター化学療法室・緩和ケアチーム、化学療法チームを設置して運用している。 大阪医科大学： 多職種による緩和チームの編成かなされており、定例会を開催している。	（資料7） 医療チームの整備体制
	7	多職種が共同で参加できるキャンサーボード等の整備数	令和元年度取組状況 京都大学： がんを専門とする内科医・外科医・放射線治療医、あるいは病理診断医・放射線診断医・各種医療スタッフの多職種が参集する「キャンサーボードの体制」（資料8）のとおり、①脳腫瘍・小児脳腫瘍ユニットカンファレンス～㉑胆道がんユニットカンファレンスが活動している。 三重大学： 大学病院内の多職種（医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、臨床心理士、ソーシャルワーカー等）の参加が可能なTumor Board、また、骨転移合同カンファレンスを開催した。 滋賀医科大学： ・全科キャンサーボードを行う際には、できるだけ多くの関連科・部門の医療関係者に出席の依頼を行い、十分に多方面から質の高い検討ができるように心がけている。 大阪医科大学： 緩和ケアチーム、がん相談支援センターも多職種で編成されて活動している。	（資料8） キャンサーボードの体制
	8	医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績	令和元年度取組状況 京都大学： 医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組として、診療科横断的なキャンサーボードを開催し、診療の質の向上を図り、診療科および職種横断的な合同カンファレンスを定期的に開催し、診療の質の向上と情報の共有を図っている。	（資料8） キャンサーボードの体制

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) がん遺伝子パネル検査の結果について臨床的解釈を行う多職種のメンバーで構成されるエキスパートパネルを毎週火曜17時半から実施している。本コース履修の大学院生の参加も推奨している。 京大病院では、関連する診療科が合同で症例検討を行うユニット制を各癌腫ごとに開催して、治療方針を決めているが、各ユニットには大学院生も参加している。 外来化学療法を安全かつ円滑に運用するため、医師、看護師、薬剤師、SWなどによる診療科・職種横断的なチーム医療会議を毎月開催し、安全管理、実務管理を行っている。 また、京大がんセンターにおけるがん薬物治療を安全に実施するため、がん診療に関連するすべての診療科、薬剤部、看護部、医療安全部、病理部、緩和ケアチームなどによる会議を隔月で開催し、医療の質の向上に努めている。 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 医療チーム：医師と看護師により、婦人科がん患者に関するカンファレンスを行っている。また緩和医療の方針について、メディカルソーシャルワーカーも含めたカンファレンスを行っている。 キャンサーボード：婦人科医、病理医による病理カンファレンスを行っている。婦人科医、放射線診断医による画像カンファレンスを行っている。婦人科医、放射線治療医による放射線治療カンファレンスを行っている。婦人科医、腫瘍内科医による化学療法、ゲノム医療についての治療カンファレンスを行っている。 (婦人科コース) 毎週水曜日に研修医・修練医・医員・スタッフによる臨床カンファレンスおよび画像カンファレンスを行い、診療の質の向上に取り組んでいる。がんプロコース生には積極的にカンファレンスにて出席・発言するように指導している。 (小児・AYA世代コース) 小児科内でのカンファレンスにとどまらず、整形外科、脳外科、放射線治療科、病理診断科、血液内科、小児外科との定例的キャンサーボードに加え、必要に応じて成人診療科とのキャンサーボードを行なって質の向上を図っている。 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) 脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス、原発不明癌/希少癌ユニットカンファレンスをはじめ、各がん診療ユニットの診療、カンファレンスを通じて、単科だけの診療方針でなく、multidisciplinaryな診療方針について検討する機会を提供している。がんプロコース生には積極的にカンファレンスにて発言するように指導し、主体的に放射線治療科の方針を決定する能力を養成する。 (外科治療・集学的診療コース) 専門の異なる各種の専門家が一同に会するように設定するとともに、国内外の他大学、がん診療専門施設の医療チームを訪問、ボードの見学、意見交換を実施、また、雑誌、学会等のキャンサーボードへの参加を推進している。 (リハビリテーションスタッフコース) 各履修者の研究分野に応じて京大病院のがん診療カンファレンス等（がんサポートチームのカンファレンス等）に参加（2週に1回程度） （がん専門薬剤師養成コース) 腫瘍内科が主催するがん遺伝子パネル検査に関するエキスパートパネルに参加し、情報収拾を行なっている。 (緩和ケアコース) 緩和ケアチーム依頼を受けた事例検討会を週1回開催し、医師、看護師、薬剤師、作業療法士、MSWなどによる多職種横断的なアセスメントとケアの実践を行い、質の向上を目指している。 (医学物理士養成コース) 放射線治療装置の品質管理を定期的に実施し、その結果を3カ月に1度開催される放射線治療品質管理委員会で報告している。 三重大学: 毎月1回開催される、がんセンターの各部門のリーダーと三重県健康福祉部の担当者で構成されるリーダー会議で、緩和ケアチーム、口腔ケアチームの活動状況やTumor Board、骨転移合同カンファレンスの運営状況が報告され、質の向上に向けた協議を行っている。また、緩和ケアチームの定例会が毎月1回開催され、活動内容についての問題点を把握し、解決に向けての協議を行った。 滋賀医科大学: ・全科キャンサーボードを行う際には、できるだけ多くの関連科・部門の医療関係者に出席の依頼を行い、十分に多方面から質の高い検討ができるように心がけている。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			大阪医科大学: 緩和ケアチームの定例会が毎週開催されている。がん相談支援センターも多職種で編成されて活動している。	
	9	コース履修者の医療チーム・キャンサーボードの開催数、期間等	令和元年度取組状況 京都大学: 実施件数　674件 各コースにおいては、多くの合同カンファレンス等の取り組みが行なわれている。 (プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) エキスパートパネル(腫瘍内科、病理医、臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラー、バイオインフォマティシャン、担当医、薬剤師、看護師、検査技師、週1回)、 胃癌・GISTユニット(腫瘍内科医、消化管外科、隔週)、 大腸がんユニット(腫瘍内科医、消化管外科、放射線治療科、肝胆膵移植外科、毎週1回)、 膵がんユニット((腫瘍内科医、消化器内科、肝胆膵移植外科、放射線診断科、放射線治療科、毎週1回)、 食道がんユニット((腫瘍内科医、消化管外科、放射線治療科、頭頸部外科、毎週1回) 胆道ユニット((腫瘍内科医、肝胆膵移植外科、消化器内科、放射線治療科、毎週1回)、 原発不明がん・希少がんユニット(腫瘍内科、血液内科、病理診断科、放射線診断科など、隔週)、 NETユニット(腫瘍内科、消化管外科、肝胆膵外科、放射線診断科、病理診断科、内分泌・糖尿病科、など、隔週) メラノーマユニット(腫瘍内科、皮膚科、月1回) (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) 医師と看護師によるカンファレンス;毎週1回月曜日午後。緩和医療の方針についてのカンファレンス;適時(2週間に1回程度)。キャンサーボード;病理カンファレンス毎週1回(月の朝)。画像カンファレンス毎週1回(水曜日の夕方)。放射線治療カンファレンス毎週1回(金曜日の夕方)。以上を行っている。 (小児・AYA世代コース) ①全症例検討カンファレンス　(小児科血液グループ、毎朝) ②小児血液がんカンファレンス(小児科血液グループ、週2回) ③骨軟部腫瘍カンファレンス(小児科血液グループ、整形外科腫瘍グループ、毎週) ③小児脳腫瘍カンファレンス(小児科血液グループ、脳外科腫瘍グループ、放射線診断科、1～2ヶ月に一度) ④造血細胞移植カンファレンス(小児科血液グループ、血液内科、2ヶ月に一度) ⑤病理カンファレンス(小児科血液グループ、病理診断科、2ヶ月に一度) ⑥関連病院症例検討会(小児科血液腫瘍グループ、毎月) ⑦CAR-Tミーティング(国内小児科キムリア参加全施設、毎月) (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) 脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス(毎週火曜日)、頭頸部癌ユニットカンファレンス(毎週木曜日)、食道癌ユニットカンファレンス(毎週水曜日)、肺癌・縦隔腫瘍ユニットカンファレンス(毎週木曜日)、乳癌ユニットカンファンレンス(毎週水曜日)、膵癌ユニットカンファレンス(毎週金曜日)、大腸癌ユニットカンファレンス(毎週火曜日)、前立腺癌ユニットカンファレンス(毎週水曜日)、小児癌ユニットカンファレンス(毎月1回火曜日)、原発不明癌/希少癌ユニットカンファレンス(不定期)、血液腫瘍カンファレンス(隔週火曜日)、骨転移キャンサーボード(第3火曜日)等、各ユニットカンファレンス・キャンサーボードへの参画 　具体的には、各疾患の初診の段階で放射線治療科医師が主科の先生方と共に診察を行い、当日に治療方針について検討し、適正な治療方針を決定する。 　この制度により症例の治療方針が速やかに適切に決定され、時間的なロスがなくなり、医療者、患者ともに大きなメリットがある。 　また、治療中、治療後においても主科の先生方とともに外来をすることで、治療方針の変更、再発のチェック、再発後の救済治療などの方針決定も速やかにされるため、京大病院のがん治療の質向上のために貢献している。 (医学物理士養成コース) 医療チーム:　放射線治療医師・診療放射線技師・医学物理士・看護師で定期的に会議を開き，診療の問題点，安全が確保されているか，などを討論する会議を設けている。 病院主催の放射線品質管理委員会に参加しており，医学物理士が副議長を務めている。 キャンサーボード:　放射線治療科医師・診療放射線技師・医学物理士カンファレンス(毎週月曜日)，放射線治療科マンデーミーティング(毎週月曜日)，医学物理グループカンファレンス(毎週水曜日)，前立腺IMRTカンファレンス(毎週水曜日)，放射線治療症例検討会(毎週月・火曜日)	(資料8) キャンサーボードの体制

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(外科治療・集学的診療コース) 症例カンファレンス 研究カンファレンス　など各専門性に応じて開催 (リハビリテーションスタッフコース) 履修者が専門性に応じて、京都大学医学部附属病院で実際にがん患者のリハビリテーション治療に携わらせ、各がん腫ごとの合同カンファレンスやがんサポートチームなどのカンファレンスに参加させることで、チーム医療の実際を学ばせる。 (緩和ケアコース) 緩和ケアチームのカンファレンスを毎週1回木曜日昼に開催。 三重大学: 病院全体のTumor Board(月1回)、骨転移合同カンファレンス(月1回)のほかに、乳癌治療検討会(月2回)、婦人科カンファレンス(毎週1回)、耳鼻科カンファレンス(毎週1回)、脳神経外科カンファレンス(毎週1回)、呼吸器カンファレンス(月2回)、食道カンファレンス(月1回)、産婦人科症例検討会(毎週1回)歯科口腔外科・放射線治療科合同カンファレンス(毎週1回)、乳腺疾患術後検討会(月2回)、血液腫瘍内科全体症例検討会(毎週1回)、血液内科検討会(毎週1回)、乳房再建検討会(月1回)、乳腺疾患カンファレンス(2ヶ月に1回)、がんゲノム医療エキスパートパネル、小児がん検討会(週1回)、小児造血細胞移植カンファレンス(週2回)、小児造血細胞移植前カンファレンス(不定期)を開催している。 滋賀医科大学: ・附属病院腫瘍センターに教育・研修部門を設置し、コース履修者の医療チーム、キャンサーボードへの参加を許可している。令和元年度は6回程度、コース履修者が参加している。 大阪医科大学: がん医療総合センターとして月2回程度開催している。	
	10	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	令和元年度取組状況 京都大学: 令和元年度提出件数 【院内がん登録】 国立がん研究センターへ　3,602件 【全国がん登録】 京都府医師会へ　3,602件 【院内がん登録データを利用した各種QI研究に参加】 ・『小児がん拠点病院等の連携による移行期を含めた小児がん医療提供体制整備に関する研究』代表者　松本　公一(国立成育医療研究センター) ・『QI症例研究』国立研究開発法人　国立がん研究センターがん対策情報センターがん臨床情報部 三重大学: 三重大学がんセンター内で、院内がん登録と三重県の地域がん登録業務を実施しており、令和元年度の院内がん登録件数は2,757件で、データはすべて地域がん登録データと連携して活用された。 滋賀医科大学: ・附属病院腫瘍センターにがん登録部門を設置している。 ・がん登録の活用に向けた手順書を設けて院内活用を図っている。 大阪医科大学: 2018年度　　院内がん登録件数　3221件	
	11	コース履修者が関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数	令和元年度取組状況 京都大学: 45件のがんプロ履修生によるプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与が達成され、当初目標を上回る効果・成果が出ている。 三重大学: 令和元年度コース履修者が関与した件数:1件 滋賀医科大学: ・関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数:10件	(資料9) プロトコル作成への関与状況

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	12	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	令和元年度取組状況 がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものであると考えており、がん医療のグローバル展開を見据え、英文による教育研究成果発表を推進している。これにより、履修生の教育研究意欲の向上を図った。 拠点全体として、88件の国際学会、英文誌への発表をした。 各大学における令和元年度取組状況 京都大学: 「がんプロ養成管理委員会」において、履修生自身が海外において研究成果を発表させるため、国際学会への積極的な参加を推進するための旅費等を予算化し発表推進への体制を構築している。 英文研究発表件数は、65件（学会発表 26件、論文発表　39件） 　うち筆頭発表数は、39件　（学会発表 20件、論文発表 19件） 三重大学: 国際学会、英文誌への研究論文発表数　6件 滋賀医科大学: 国際学会、英文誌への研究論文発表数:7件 大阪医科大学: 国際学会、英文誌への研究論文発表数　　2件 京都薬科大学: 各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、国際学会・英文誌への成果発表を促している。 国際学会研究発表 5件（うち筆頭 4件） 英文誌への論文発表3件（うち筆頭 1件）	（資料10） 国際学会、英文誌への発表一覧
	13	コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数	令和元年度取組状況 がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものであると考えており、国内学会・和文誌での研究発表を推進させるため、指導教員の推薦の下、論文名、国内学会・和文誌名、研究成果等を記載させ、国内学会・和文誌への発表を推し進めている。これにより、履修生の教育研究意欲の向上を図った。 拠点全体として、190件の国内学会、和文誌への発表があった。 各大学における令和元年度取組状況 京都大学: 「がんプロ養成管理委員会」において、履修生自身が国内において研究成果を発表させるため、国内学会への積極的な参加を推進するための旅費等を予算化し発表推進への体制を構築している。 研究発表件数は、　84件（学会発表 79件、論文発表 5件） うち筆頭発表数は、64件（学会発表 61件、論文発表 3件） 三重大学: 学会への研究論文の発表については、各コースのコーディネーターが責任を持って、指導・教育に当たり、学会発表を積極的に奨励支援を行った。 国内学会発表件数　29件 滋賀医科大学: 国内学会、和文誌への研究論文発表数:19件 大阪医科大学: 国内、和文誌への研究論文発表数　15件	（資料11） 国内学会、雑誌等への発表一覧

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			京都薬科大学: 各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、学会での成果発表を促している。 国内学会研究会発表 43件（うち筆頭 17件）	
	14	コース履修者の国際学会等への参加者数	令和元年度取組状況 がん医療のグローバル展開を見据え、国際学会等へのがんプロ履修生の参加を推進しており、拠点全体として34名の参加者となった。 なお、令和2年2月末からの新型コロナウイルス感染リスクを低減させるため、渡航自粛等措置を行い学会等への参加を取りやめた。 各大学における令和元年度取組状況 京都大学: 「がんプロ養成管理委員会」において、海外腫瘍学会に参加するだけでなく英文研究発表・研究情報交換を前提とする学生に対して旅費等を予算化し経費支援する体制を構築している。 国際学会等への参加者数は、21名 三重大学: 国際学会等への参加者数　6人 滋賀医科大学: 国際学会等への参加者数:3名 大阪医科大学: 国際学会等への参加者数　2名 京都薬科大学: 国際学会等への参加者数　2名	（資料12） 海外学会・シンポジウム等参加状況
	15	コース履修者が国内学会等への参加者数	令和元年度取組状況 がんプロ履修生が専門的知識を収集できる国内腫瘍学会への積極的な学会参加を推進しており、拠点全体として 173名の参加者となった。 なお、令和2年2月末からの新型コロナウイルス感染リスクを低減させるため、国内の移動自粛等措置を行い学会等への参加を取りやめた。 各大学における令和元年度取組状況 京都大学: 「がんプロ養成管理委員会」において、国内学会へのがんプロ履修生の積極的な参加と研究成果発表を推進するための旅費等を予算化し助成支援する体制を構築している。 国内学会等への参加者数は、107名 三重大学: 国内学会等への参加について、各コースのコーディネーターがサポートし、旅費等の経済的な支援を行った。 国内学会等への参加者数　24人 滋賀医科大学: 国内学会等への参加者数:16名 大阪医科大学: 国内学会等への参加者数　14名 京都薬科大学: 国内学会等への参加者数　12名	（資料13） 国内学会・シンポジウム等参加状況

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
【シンポジウムやセミナー等の実施】				
	16	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	事業期間中（5年間） 達成目標 本事業に係るシンポジウムやセミナー等の実施数240件、参加者14,400人を目標とする。 令和元年度取組状況 各種団体（地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、患者団体等）との連携した取り組みを推進した。 各大学における令和元年度取組状況 京都大学： 京都大学では、地域貢献のためインテンシブコース（7コース）事業を運用しており、さらに地域医療機関等の各種団体とも連携した取組み推進している。 （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 2019年12月16日、がんゲノム医療のためのエキスパートカンファランスを開催。京大のがんゲノム連携拠点病院3施設から医師・薬剤師・看護師・検査技師のチームで参加頂き、模擬症例を対象としたエキスパートパネルを開催した。 がん薬物療法に携わる医師、看護師、薬剤師を対象に、がんゲノム医療のレベルアップを目的とする研修としてがんチーム医療研修を2020年3月に開催する予定であったが、Covid-19 pandemicのため延期となった。 （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） 2020年2月1日日本癌治療学会がん治療講習会（アップデートコース）で婦人科腫瘍、ゲノムとがん免疫について講演し意見交換を行った。 （小児・AYA世代コース） 令和元年8/31 京大小児臨床症例研究会 令和元年11/9 小児がん拠点病院看護研修 令和2年2/8 京都大学小児血液腫瘍研究会 （希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース・医学物理士養成コース） 市中病院を対象に、より有用性の高い知識と技術の修得を目的としたセミナーを2回開催し、参加施設に対して最新の知見に基づいた放射線治療法を提示した。 令和元年10月12日　第48回京都放射線腫瘍研究会（74名） 令和2年2月15日　第49回京都放射線腫瘍研究会（85名） （リハビリテーションスタッフコース） チャイルドケモハウスで実施されるAYA世代向けイベントの運営に参加し、AYA世代の健康増進、就職支援に寄与した。 （緩和ケアコース） 緩和ケア病棟のある医療機関の医師と事例検討を月2回に行っている（参加者は15～20名）。 （がん専門薬剤師養成コース） 令和2年年1月16日に Cancer Total seminar for Pharmacist、京都教育文化センター：参加者45名、2月7日 2025年に向けた薬剤師業務研究会、 The Thousand Kyoto：参加者72名をがんプロ後援として開催した。 また毎年、京都府下の地域がん医療における病院−薬局−在宅の連携を強化するとともに、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的に、京都府薬剤師会・京都府病院薬剤師会と共催実施してきた「地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース」を、今期事業から「第3回 地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース」（インテンシブコース）として企画した(令和2年2月29日)。108名の薬剤師、がんプロ履修生の事前参加登録があったが、コロナウィルス感染拡大の懸念から中止となった。また、連携大学とのつながりを強化することを目的として、令和2年2月1日に京都大学医学部附属病院薬剤部研修室にて、薬剤師養成コース会議を開催した。京都大学、京都薬科大学、三重大学、滋賀医科大学から25名の参加があり、年次活動の進捗報告と情報交換、ならびにがんプロ履修生に対する「がん患者に寄り添った薬剤師養成の教育」のあり方について議論を行った。	（資料5） セミナー・シンポジウム等の開催状況 （資料6） インテンシブコース実施事業

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			三重大学: MIE Lung Cancer Forum を4月4日に開催（33名参加） 第11回三重メディカル・オンコロジー・フォーラムを6月7日に開催（52名参加） 前立腺癌治療　特別講演会を6月13日に開催（37名参加） 第13回　三重がん看護フォーラムを7月6日に開催（70名参加） 第28回　三重県産婦人科腫瘍研究会を7月18日に開催（43名参加） 骨髄腫セミナー in MIE を7月19日に開催（22名参加） 三重肺癌研究会を7月27日に開催（22名参加） 第2回　三重がん・生殖医療セミナーを8月3日に開催（101名参加） 第26回　三重リンパ腫フォーラムを9月3日に開催（46名参加） がん就労支援セミナー in 三重を9月18日に開催（48名参加） Pneumonitis Management Academy in Mie を9月19日に開催（33名参加） MIE Breast Cancer Symposium を9月20日に開催（24名参加） MIE Ovarian Cancer Symposium を9月26日に開催（33名参加） 血液疾患 Update in Mie を10月4日に開催（20名参加） Mie Gynecologic Oncology Abend 2019 を10月9日に開催（27名参加） 緩和ケア医が、がんになって「あきらめる、そして頑張る」を10月23日に開催（257名参加） 第9回　がん薬物療法セミナーを10月29日に開催（46名参加） 第17回　医科生物学セミナーを11月1日に開催（18名参加） がんゲノム医療講演会を11月15日、11月20日に開催（37名、65名参加） MIE Lung Cancer Forum を11月21日に開催（17名参加） 「暮らしの保健室」に通う方にがんが見つかった　事例に学ぶを12月10日に開催（47名参加） 三重大ELNECを12月21～22日に開催（68名参加） 第29回三重乳腺診断フォーラムを1月11日に開催（88名参加） がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術大会を1月12～13日に開催（6名参加） Lymphoma Seminar in MIE を1月17日に開催（43名参加） Breast Cancer Expert Meeting in MIE を1月23日に開催（35名参加） 第9回　摂食・嚥下リハビリテーションと口腔管理を1月26日に開催（152名参加） 第19回　血液腫瘍フォーラムを1月31日に開催（29名参加） 第29回　三重肺癌研究会を2月1日に開催（28名参加） 第12回　三重乳腺疾患治療研究会を2月1日に開催（32名参加） 第2回　がん診療のトータルマネジメントを2月7日に開催（28名参加） 第27回　三重リンパ腫フォーラムを2月21日に開催（33名参加） 三重県内の医療機関、医師会と連携し、緩和ケアセミナーを、令和元年7月25日（99名参加）、10月24日（56名参加）、令和2年1月23日（43名参加）に開催した。また、緩和ケアフォローアップ研修会を令和元年8月25日に開催（46名参加）、第10回早期からの緩和ケアを考える会を令和元年5月16日に開催（50名参加）した。 三重県内のがん拠点病院、医師会、薬剤師会、看護協会と連携した、第24回がんチーム医療研究会を令和元年9月13日に開催（46名参加）した。 歯科医師会と連携した、医科歯科連携推進人材養成研修会を、令和2年1月26日に開催（152名参加）した。 新型コロナウイルス感染症の懸念より、次のセミナー等の開催は中止とした。 ・第5回三重がん放射線治療研究会・・・令和2年2月29日予定 ・MIE　Lung　Cancer　Forum2020・・・令和2年3月19日予定 ・市民公開講座　口腔ケアについて・・・令和2年3月29日予定 滋賀医科大学: 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・「第5回ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー（R1/6/13）」/85名 ・「第20回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース（R1/8/25）」/76名 ・「第21回滋賀県がん薬物療法CONFERENCE（R1/11/6）」/36名 ・「第3回薬理ゲノミクスセミナー（R2/2/2））」/40名 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 ・「第62回日本消化器病学会近畿支部市民公開講座（R1/9/1）」/227名 ・「県民公開講座もっと知ろうがんのこと（R1/11/9）」/58名 ・「小児・AYA世代のがん患者を支える公開セミナー（R2/1/12）」/40名 ・「第30回滋賀がん化学療法研究会（R2/2/2））」/35名	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・「第1回がんを学ぼう市民公開講座（R1/6/27）」/21名 ・「第2回がんを学ぼう市民公開講座（R1/7/24）」/29名 ・「第3回がんを学ぼう市民公開講座（R1/8/29）」/28名 ・「第4回がんを学ぼう市民公開講座（R1/9/30）」/16名 ・「第11回東近江圏がん診療公開講座（R1/10/27）」/111名 ・「第5回がんを学ぼう市民公開講座（R1/10/28）」/26名 ・「第6回がんを学ぼう市民公開講座（R1/11/27）」/25名 ・「第12回東近江圏がん診療公開講座（R1/12/1）」/145名 ・「疼痛緩和トータルケア2020（R2/1/27）」/48名 ・腫瘍センター講演会　第1回（R1/10/9）94名 ・腫瘍センター講演会　第2回（R1/10/30）45名 ・腫瘍センター講演会　第3回（R2/2/19）39名 ・緩和ケア講演会　疼痛緩和トータルケア2020(R2/2/27) 48名 大阪医科大学： 三島医療圏がん診療ネットワーク協議会　参加者101名　2回開催、 三島圏域がん研究会　参加者272名　2回開催、 市民公開講座　参加者122名　がん関係1回開催、 がん患者サロン　ひだまり　年4回　192名、 第7回市民公開セミナー　11/2開催　82名参加、第2回緩和ケアセンター勉強会　10/9　参加者64名 新型コロナウイルス感染症の懸念により、次のセミナー等は開催中止とした。 第8回市民公開講座・・・3月7日開催予定 京都薬科大学： 1)第2回 在宅医療推進セミナー（2019年4月26日、参加者126名、渡辺西賀茂診療所と連携） 2)リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019 京都（2019年9月28日～9月29日、参加者250名、日本対がん協会事業に協力・開催支援） 3)第3回 卒後薬剤師セミナー ーゲノム医療ー（2019年10月6日、参加者124名、後援：京都府薬剤師会） 4)第5回 市民公開講座「放射線治療」（2020年3月7日、新型コロナウィルス感染症防止のため開催中止、後援：京都府薬剤師会）	
	17	社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）	令和元年度取組状況 社会への情報発信の取組事業として、別添資料「セミナー・シンポジウム等の開催状況（令和元年度）」のとおり推進した。 なお、令和2年2月末から新型コロナウイルス感染リスクを低減させるため、セミナー等の開催を中止、延期を行った。 各大学における令和元年度取組状況 京都大学： 京都大学では、社会への情報発信として市民公開講座や各種セミナー等に積極的に取り組んでいる。 (プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) がんゲノム医療の実施体制には、まず病院内の事務、相談員、ソーシャルワーカーなどへの啓蒙と教育が必要であるため、がんゲノム医療連携病院または今後ゲノム医療連携病院認定を目指す病院に対し説明会を開催した。 2019年 4月25日（28施設、201名） 5月16日（28施設、209名） 6月26日（28施設、249名） 7月24日（28施設、232名） 9月25日（28施設、218名） 11月13日（27施設、222名） 12月11日（26施設、196名） 2020年 1月22日（22施設、161名） 2月12日（22施設、151名） 3月18日（15施設、87名） 2019年11月9日に東京で開催された全国がんプロ合同市民公開シンポジウムに本学から医師1名、看護師2名、臨床検査技師1名で参加し、模擬エキスパートパネルを実施した。	（資料5） セミナー・シンポジウム等の開催状況

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(小児・AYA世代コース) ・令和元年7/21 京都府小児がん拠点病院公開シンポジウム 京都府立医科大学附属病院、京都府との共催で、小児がん患者への教育支援をテーマとして、地域の医療関係者、教育関係者他(一般参加可)を対象にした公開シンポジウムを開催した。 ・令和元年8/17 AYA世代交流会 ・令和元年12/14 京都たんぽぽの会 (がん専門薬剤師養成コース) 令和2年1月16日に Cancer Total seminar for Pharmacist(京都教育文化センター:参加者45名)、2月7日 2025年に向けた薬剤師業務研究会(The Thousand Kyoto:参加者72名)をがんプロ後援として開催した。 また毎年、京都府下の地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携を強化するとともに、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的に、京都府薬剤師会・京都府病院薬剤師会と共催実施してきた「地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース」を、今期事業から「第3回 地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース」(インテンシブコース)として企画した(令和2年2月29日)。108名の薬剤師、がんプロ履修生の事前参加登録があったが、コロナウィルス感染拡大の懸念から中止となった。 さらに、第93回日本薬学会年会@横浜、日本薬学会第140回年会@京都、第23回滋賀県がん薬物療法カンファレンス@滋賀などでもシンポジウムや招待講演を行い、がんプロ活動の一部について紹介することが予定されていたが、いずれもコロナウィルス感染拡大の懸念から誌上開催あるいは延期となっている。 (リハビリテーションスタッフコース) 拠点内連携大学の京都薬科大学と共同して、リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019京都(令和元年9月28日(土))に参加し、がん患者や家族の支援活動を実施した。 三重大学: 2019年9月8日にパープルリボンウオーク・セミナーを開催し、390名が参加した。 滋賀医科大学: 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース ・「第62回日本消化器病学会近畿支部市民公開講座(R1/9/1)」/227名 ・「県民講座　もっと知ろう　がんのこと(R1/11/9)」/58名 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・「第1回がんを学ぼう市民公開講座(R1/6/27)」/21名 ・「第2回がんを学ぼう市民公開講座(R1/7/24)」/29名 ・「第3回がんを学ぼう市民公開講座(R1/8/29)」/28名 ・「第4回がんを学ぼう市民公開講座(R1/9/30)」/16名 ・「第42回滋賀医科大学公開講座　がんの遺伝子を知り、がん克服を目指す(R1/10/2)」/47名 ・「第11回東近江圏がん診療公開講座(R1/10/27)」/111名 ・「第5回がんを学ぼう市民公開講座(R1/10/28)」/26名 ・「第6回がんを学ぼう市民公開講座(R1/11/27)」/25名 ・「第12回東近江圏がん診療公開講座(R1/12/1)」/145名 大阪医科大学: 市民公開講座　参加者122名　がん関係1回開催　、第7回市民公開セミナー　11/2開催　82名参加 京都薬科大学: 1)第5回 市民公開講座「放射線治療」(2020年3月7日、新型コロナウィルス感染症防止のため開催中止、後援:京都府、京都市、京都府薬剤師会)	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	18	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	令和元年度取組状況 京都大学: インテンシブ事業を活用して、継続して地域医療への貢献を推進している。 ・リキッドバイオプシーセミナーを実施 （令和元年5月7日） ・京都放射線腫瘍研究会プログラムを年2回実施 （令和元年10月12日、令和2年2月15日） ・がん専門薬剤師養成研修を実施 （令和2年2月29日） ・家族性腫瘍（遺伝子乳がん卵巣がん症候群やリンチ症候群など）に対応できる医療人育成コースに関するセミナー等を3回実施 （令和元年5月24日、令和元年10月25日、令和元年11年22日） を実施、順調に地域医療の貢献を進捗させた。 三重大学: 地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コース:2回（11月17日/104名、2月2日/119名） ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる人材育成コース:8回（5月16日/50名、5月26日/26名、7月25日/99名、8月25日/46名、10月24日/56名、1月12-13日/6名、1月23日/43名、2月9日・25日・3月15日/4名） ライフステージ・地域特性に応じたがん治療を提供するがん治療医養成コース:26回（4月10日/49名、4月22日/20名、5月15日/51名、5月20日/18名、6月12日/68名、6月17日/18名、7月10日/45名、7月15日/19名、7月25名/99名、7月27日/22名、8月25名/51名、9月11日/46名、9月13日/61名、9月16日/20名、10月9日/57名、10月21日/18名、10月24日/56名、11月6日/41名、11月18日/19名、12月11日/42名、12月16日/19名、1月8日/56名、1月20日/18名、1月26日/152名、2月12日/63名、2月17日/17名） ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース: エキスパートパネル（毎週火曜日） 遺伝カウンセリング（毎週火曜日、水曜日） 滋賀医科大学: 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・「第5回ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー（R1/6/13）」/85名 ・「第20回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース（R1/8/25）」/76名 ・「第21回滋賀県がん薬物療法CONFERENCE（R1/11/6）」/36名 ・「第3回医薬品安全使用研修会（R2/1/29)」/34名 ・「第3回薬理ゲノミクスセミナー（R2/2/2））」/40名 【ライフステージに応じた包括的・全人的がん医療を担う医療従事者養成コース】 ・「第1回がんを学ぼう市民公開講座（R1/6/27）」/21名 ・「第2回がんを学ぼう市民公開講座（R1/7/24）」/29名 ・「第3回がんを学ぼう市民公開講座（R1/8/29）」/28名 ・「第4回がんを学ぼう市民公開講座（R1/9/30）」/16名 ・「第１回腫瘍センター講演会（R1/10/9）」/94名 ・「第11回東近江圏がん診療公開講座（R1/10/27）」/111名 ・「第5回がんを学ぼう市民公開講座（R1/10/28）」/26名 ・「第2回腫瘍センター講演会（R1/10/30）」/45名 ・「第6回がんを学ぼう市民公開講座（R1/11/27）」/25名 ・「第12回東近江圏がん診療公開講座（R1/12/1）」/145名 ・「疼痛緩和トータルケア2020（R2/1/27）」/48名 ・「第3回腫瘍センター講演会（R2/2/19）」/39名	（資料6） インテンシブコース実施事業

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】				
	19	コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	令和元年度取組状況 「がんプロ事業推進運営委員会」において、国際的な視野を有したがん専門医療人養成のために先進的医療・研究機関等にて研修する制度として「5大学連携海外合同教育セミナー」を企画し、毎年度各大学から履修生を選抜して研修を実施する連携事業の枠組みを構築した。これにより、連携大学間の異なった分野の履修生の人材交流、多職種交流、及び先進的医療・研究機関との国際交流を実施した。 令和元年度は、フランス国パリにて連携大学がんプロ履修生（医学・薬学）6名と指導教員2名により合同教育セミナーを6/21－25に開催し、「Work shop in Paris」、「WIN2019　Symposium」への参加、研究成果発表を行い、海外最先端のPrecision Medicineの革新と世界規模で展開されるがん研究の情報取集を行うと共に、がんプロ履修生自身が海外のがん研究者を前にして意見交換する機会を提供した。 各大学における令和元年度取組状況 京都大学： 「がんプロ事業推進運営委員会」にて企画した「5大学連携海外合同教育セミナーWIN2019」(1.6.21～1.6.25)に教員2名と大学院生2名が参加した。 「がんプロ養成管理委員会」において、がんプロ履修生が国際学会に参加するだけでなく、研究成果発表を前提とする学生10名に対して、旅費と学会参加費を支援経費支援を行い、学修研究意欲の向上図った。 三重大学： コース履修者の海外での研修の場合は経済的サポートを積極的に行い、現地へ留学中の研究者と活発な交流を行えるように手配する体制を整備した。 また、令和元年度「5大学連携海外合同教育セミナー」（フランス）に、1名のがんプロ履修生（腫瘍内科医養成コース）が参加した。 滋賀医科大学： 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・「5大学連携海外合同教育セミナー：WINシンポジウム（R1/6/23～24」に大学院生1名（ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース）が参加し、研究発表を行った。 大阪医科大学： 学内の国際交流基金の整備を行っており、コース履修生が海外への先進的医療・研究機関等へ研修を希望した場合に、教育研究上必要と認められると、一部助成を行うことができる。 令和元年度は、WIN2019シンポジウム（フランス）1名の大学院生（がんプロコース履修者）が研究発表を行った。 京都薬科大学： サポート体制は整備されている。コース履修者が希望すれば留学に必要な資金に充当できる、助成金を支給する学内規程（京都薬科大学科学振興基金規程）や、研究成果を発表するための資金を補助する学内規則（京都薬科大学大学院生学会等参加補助金取扱要綱）を整備している。 「5大学連携海外合同教育セミナー」（フランス共和国パリ）に、大学院生（がんプロコース履修者）1名が参加し、研究発表及び最新の研究情報の収集等を行った。	（資料14） 5大学連携海外合同教育セミナー
	20	国際交流プログラムの実施数	事業期間中（5年間）　達成目標 MDアンダーソンとの交流プログラムをはじめ、韓国ソウル大学、国立台湾大学、シンガポール大学等と連携合同教育セミナー等　15件を目標とする。 令和元年度取組状況 5大学連携の国際交流プログラムとして、フランス国パリにおいて「5大学連携海外合同教育セミナーWIN2019」（6/21～6/25）を開催し、教員2名と連携大学がんプロ履修生（医学・薬学）6名が参加した。	（資料14） 5大学連携海外合同教育セミナー

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			各大学における令和元年度取組状況 京都大学： 国際交流・人材交流事業の推進させるため、令和元年6月21日～25日に「Work shop in Paris」、「WIN2019　Symposium」がんプロ指導教員2名、がんプロ履修生2名を参加させた。 (プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) 2019/6/21～6/25の日程で5大学履修生を対象とした海外研修を行い、パリで開催されたworld innovative networking (WIN) consortiumの国際学会に指導教員1名、がんプロ履修生1名が参加した。 2020年3月にはMD Anderson Cancer Centerから2名の演者（Kimberly S. Schuluns准教授、Michael A. Curran准教授）を招待してImmuno-Oncology Symposiumを開催する予定であったがCovid-19 pandemicのため中止となった。 （小児・AYA世代コース） 多次元フローサイトメトリーによる白血病の微小残存病変診断をシンガポール国立大学　小児科のDr. Elaine Coustan-Smithとウェブカンファレンスを毎週行っている。 (外科治療・集学的診療コース) ソウル大学研究者との最新癌研究セミナーを予定していたが、コロナウィルス対策のため延期中となっている (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) エジプトのClinical Oncology Department.Sohag University Hospitalより、エジプト政府奨学金「チャネル・システム・プログラム」による国際交流事業として、放射線治療医の共同研究者を1名を2年間の予定で受け入れている。 新規放射線照射法の指導のため、放射線治療科教員1名がバンクーバーがんセンター(令和元年8月5日-9日)を訪問した。 令和元年8月26日-27日Freiburg Universityとの交流プログラム(放射線治療と免疫療法の併用療法のpreclinical studyに関する国際共同研究)に教員2名が参加した。令和元年11月25日-12月13日 Sunnybrook Odette cancer centre /Princess Margaret Hospitalに転移性脳腫瘍、脊椎腫瘍に対する定位放射線治療についての実地研修のため、教員1名が訪問した。 （がん専門薬剤師養成コース） 2019.10.19-23、米国シカゴにて開催された国際学会SfN2019にがんプロ履修生とともに参加し、様々な国から参加しているがん・疼痛関連領域における医療従事者および研究者との意見交換を行なった。 (緩和ケアコース) 欧州緩和ケア学会（5月23～25日にドイツ・ベルリンで開催）と国際Whole Person Care学会（10月17～19日にカナダ・モントリオールで開催）に参加し、参加者と意見交換を行なった。また、カナダ・Montreal Children HospitalのMaki Shimoya氏に「モントリオール子ども病院とレジリエンス」の講演会を8月29日に京大病院で開催した（参加者は32名）。 (医学物理士養成コース) 非剛体位置合わせアルゴリズム検証用ファントムの検証のため、医学物理教員1名及びポスドク1名がバンクーバーがんセンター(令和元年8月5日-9日)を、医学物理教員1名及びがんプロ学生1名がPeter MacCallum Cancer Center(令和元年9月30日-10月2日)を訪問した。 三重大学： フランスで開催された「WIN2019シンポジウム」（2019年6月23日～24日）に1名のがんプロ履修生（腫瘍内科医養成コース）が参加した。 滋賀医科大学： ・国際交流として海外協定校から短期留学生を受入れるSUMS Grantを設け、留学生終了後は、滋賀医科大学大学院入学を目指すものとしている。 大阪医科大学： フランスで開催されたWIN2019シンポジウムに5大学連携海外合同教育セミナーへ1名参加（6/22-6/24） 京都薬科大学： 「5大学連携海外合同教育セミナー」（フランス共和国パリ）の国際交流プログラムとして「WIN 2019 Symposium」に大学院生（がんプロコース履修者）1名が参加し、研究発表及び最新の研究情報の収集等を行った。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	21	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数		

事業期間中（5年間） 達成目標

特別講演等　30件を目標とする。

令和元年度取組状況

京都大学
1）（発癌におけるエピジェネティック制御） Current Advances in Epigenetic Targeting Therapy for Pediatric Brain Tumors（2019.4.16）
Northwestern University
Rintaro Hashizume

2）clinical cohorts of benign breast disease and transition to invasive breast cancer（2019.2.14）
Mayo Clinic Cancer Center
Derek Radisky

3）（京都大学-MDアンダーソン共同講演）
Immuno-Oncology Symposium
“IL-15 acts locally to regulate the tumor landscape”
“Targeting immune metabolism improves PD-1 blockage cancer therapy”
“Hypoxia drives tumor immune suppression and immunotherapy resistance”
（新型コロナウイルス感染症拡大により中止）
MD Anderson Cancer Center
Kimberly S. Schlun
Kenji Chamoto
Michael A. Curran

三重大学：
2019年6月13日に、カリフォルニア大学サンフランシスコ校　泌尿器科　放射線治療科　教授　篠原　克人先生を招聘し、「米国での限局性前立腺癌治療の最新動向」のタイトルで講演を開催した。

滋賀医科大学：
腫瘍センター講演会第1回と第3回で国際的な臨床研究成果をあげている外部講師を招聘した。

京都薬科大学：
1)統合薬科学系セミナー／がんプロ 薬学研究者養成セミナー
（2019年5月27日、参加者99名）
タイトル：Macrophage Biology: From Development to Disease
講師：Singapore Immunology Network (SIgN)
Agency for Science, Technology and Research (A*STAR)
Dr. Florent Ginhoux

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】				
	22	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	事業期間中（5年間） 達成目標 がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた取り組み　10件を目標とする。 令和元年度取組状況 近畿地区にある「ゲノム世代高度がん専門医療人の養成」（大阪大学拠点）と「7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン」（近畿大学拠点）との連携事業として、教職員・学生・一般聴講者を対象としがんプロ人材養成事業の取組概要を周知する「近畿地区3拠点合同フォーラム」を令和元年12月19日に開催した。さらに、他拠点が開催するシンポジウム「第3回国際がん研究シンポジウム」（近畿大学）に、本拠点の履修生4名による研究成果発表の推薦等を行い、履修生のプレゼン能力向上を図ると共に、他拠点との人材交流を行った。 地域のがん診療拠点等との連携としては、癌化学療法研究会、緩和ケアセミナー、三島圏域がん研究会等の実施により、地域医療機関・団体との実践教育、多職種教育を実施することができた。 また、各大学のがん相談支援センターががん患者や家族からの意見を集約して、教育内容に反映するシステムを取り入れることで、がん患者の視点に立てるがんプロフェッショナルとしての教育を行うことができた。 各大学における令和元年度取組状況 京都大学： がん薬物療法に携わる医師、看護師、薬剤師を対象に、抗がん薬に関する最新かつ高度な専門的知識の普及、及びチーム医療の養成を目的とする研修として、がんチーム医療研修(3回)を実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大により中止となった。 (プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) 2019年11月9日に東京で開催された全国がんプロ合同市民公開シンポジウムに本学から医師1名、看護師2名、臨床検査技師1名で参加し、模擬エキスパートパネルを実施した。 2019年12月16日、がんゲノム医療のためのエキスパートカンファランスを開催。京大のがんゲノム連携拠点病院3施設から医師・薬剤師・看護師・検査技師のチームで参加頂き、模擬症例を対象としたエキスパートパネルを開催した。 がん薬物療法に携わる医師、看護師、薬剤師を対象に、がんゲノム医療のレベルアップを目的とする研修として、がんチーム医療研修を2020年3月に開催する予定であったが、Covid-19 pandemicのため延期となった。 (小児・AYA世代コース) 令和元年7/6-7 第12回研修医のための血液セミナー 令和元年7/23,令和2年2/22 近畿ブロック小児がん拠点病院連絡協議会 (がん専門薬剤師養成コース) 令和2年1月16日に Cancer Total seminar for Pharmacist（京都教育文化センター：参加者45名）、2月7日 2025年に向けた薬剤師業務研究会（ The Thousand Kyoto：参加者72名）をがんプロ後援として開催した。 また毎年、京都府下の地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携を強化するとともに、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的に、京都府薬剤師会・京都府病院薬剤師会と共催実施してきた「地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース」を、今期事業から「第3回 地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース」（インテンシブコース）として企画した(令和2年2月29日)。108名の薬剤師、がんプロ履修生の事前参加登録があったが、コロナウィルス感染拡大の懸念から中止となった。 (リハビリテーションスタッフコース) 「関西がんのリハビリテーション研究会（第20回）」を共催（令和元年10月19日、参加70人）、がんリハカンファレンスを通して、参加者とディスカッションをし、日々の臨床での工夫や悩みについての意見交換を実施した。 (緩和ケアコース) 緩和ケア研修会を9月14日（参加者29名）と11月30日（参加者24名）に開催した。	（資料5） セミナー・シンポジウム等の開催状況

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			三重大学: 三重県内の医療機関、医師会と連携し、緩和ケアセミナーを、令和元年7月25日（99名参加）、10月24日（56名参加）、令和2年1月23日（43名参加）に開催した。また、緩和ケアフォローアップ研修会を令和元年8月25日に開催（46名参加）、第10回早期からの緩和ケアを考える会を令和元年5月16日に開催（50名参加）した。第2回がん生殖医療セミナーを令和元年8月3日に開催(101名参加)した。 三重県内のがん拠点病院、医師会、薬剤師会、看護協会と連携した、第24回がんチーム医療研究会を令和元年9月13日に開催（46名参加）した。 歯科医師会と連携した、医科歯科連携推進人材養成研修会を、令和2年1月26日に開催（152名参加）した。 理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会と連携した三重がんリハビリテーション研修会を令和元年9月21、22日(60名）に開催した。 三重がん看護専門看護師会と連携した第13回三重がん看護フォーラムを令和元年7月6日（70名参加） 滋賀医科大学: 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・「第5回ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー（R1/6/13）」/85名 ・「第20回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース（R1/8/25）」/76名 ・「第21回滋賀県がん薬物療法CONFERENCE（R1/11/6）」/36名 ・「第3回薬理ゲノミクスセミナー（R2/2/2））」/40名 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 ・「第62回日本消化器病学会近畿支部市民公開講座（R1/9/1）」/227名 ・「県民公開講座もっと知ろうがんのこと（R1/11/9）」/58名 ・「小児・AYA世代のがん患者を支える公開セミナー（R2/1/12）」/40名 ・「第30回滋賀がん化学療法研究会（R2/2/2））」/35名 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・「第1回がんを学ぼう市民公開講座（R1/6/27）」/21名 ・「第2回がんを学ぼう市民公開講座（R1/7/24）」/29名 ・「第3回がんを学ぼう市民公開講座（R1/8/29）」/28名 ・「第4回がんを学ぼう市民公開講座（R1/9/30）」/16名 ・「第11回東近江圏がん診療公開講座（R1/10/27）」/111名 ・「第5回がんを学ぼう市民公開講座（R1/10/28）」/26名 ・「第6回がんを学ぼう市民公開講座（R1/11/27）」/25名 ・「第12回東近江圏がん診療公開講座（R1/12/1）」/145名 ・「疼痛緩和トータルケア2020（R2/1/27）」/48名 大阪医科大学: 三島医療圏がん診療ネットワーク協議会　参加者101名　2回開催　三島圏域がん研究会　参加者272名　2回開催　市民公開講座　参加者122名　がん関係1回開催 がん患者サロン　ひだまり　年4回　192名、　第7回市民公開セミナー　11/2開催 82名参加、第2回緩和ケアセンター勉強会　10/9　参加者64名 京都薬科大学: 1)第2回 在宅医療推進セミナー（2019年4月26日、参加者126名、渡辺西賀茂診療所と連携） 2)リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019 京都（2019年9月28日～9月29日、参加者250名、日本対がん協会事業に協力・がんプロ後援として開催支援） 3)第3回 卒後薬剤師セミナー －ゲノム医療－（2019年10月6日、参加者124名、後援:京都府薬剤師会） 4)第5回 市民公開講座「放射線治療」（2020年3月7日、新型コロナウィルス感染症防止のため開催中止、後援:京都府薬剤師会）	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	23	多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況	令和元年度取組状況 5大学連携としての人材交流、多職種交流を図るため、 1)「5大学連携学生短期研修プログラム」 令和2年2月13～14日に三重大学医学部附属病院において実施した。 この研修は、各大学がんプロ履修生の人材交流・多職種交流を推進するため、連携する5大学のがんプロ履修生から18人を選抜し、2日間にわたり研修生が一同に介した共通研修の後、「ゲノム医療コース」、「放射線コース」、「緩和ケアコース」の3コースに研修生が分かれ、講義だけの座学ではなく、履修生同士でのフリーディスカッション、多職種が協働する医療現場でのカンファレンス参加、事例検討、ラボ見学、病棟回診等のコース別研修を受け、がんプロ教育を受ける履修生同士の共通意識の向上を図った。 2)「5大学連携海外合同教育セミナー」 フランス国パリにおいて「5大学連携海外合同教育セミナーWIN2019」を6月21～25日に実施した。（教員2名、履修生6名参加） 3)「5大学連携医療フォーラム」 連携する5大学の医療関係従事者、教育研究者、学生、さらに一般聴講者を対象に、令和2年9月20日に京都大学にて開催した。 各大学における令和元年度取組状況 京都大学: がんチーム医療研修(3回予定)新型コロナウイルス感染症拡大により中止 第48回京都放射線腫瘍研究会プログラム（医師・技師・医学物理士74名参加） 第49回京都放射線腫瘍研究会プログラム（医師・技師・医学物理士85名参加） (プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) 5大学連携海外合同教育ワークショップをWIN 2019 symposium参加中に現地のパリで開催した。（教員1名、履修生1名参加） 2019年12月16日、がんゲノム医療のためのエキスパートカンファランスを開催。京大のがんゲノム連携拠点病院3施設から医師・薬剤師・看護師・検査技師のチームで参加頂き、模擬症例を対象としたエキスパートパネルを開催した。 がん薬物療法に携わる医師、看護師、薬剤師を対象に、がんゲノム医療のレベルアップを目的とする研修としてがんチーム医療研修を2020年3月に開催する予定であったが、Covid-19 pandemicのため延期となった。 (小児・AYA世代コース) 年に数回、病棟看護師、保育士、CLS、がん相談員等を対象とした小児血液腫瘍に関する勉強会を開催 (外科治療・集学的診療コース) 日本癌治療学会：日本癌治療学会がん医療ネットワークナビゲーター実地研修を実施　緩和医療、薬物治療の外来の見学や症例検討会の参加など。2019年度は対応なし。 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース) 年に数回、病棟看護師、外来看護師向けの放射線治療に関する勉強会を開催している。各参加者は、10名～20名程度 令和元年10月12日第48回京都放射線腫瘍研究会（医師・技師・医学物理士74名） 令和2年2月15日第49回京都放射線腫瘍研究会（医師・技師・医学物理士85名） (外科治療・集学的診療コース) 日本癌治療学会：日本癌治療学会がん医療ネットワークナビゲーター実地研修の受入実施を予定しており、緩和医療、薬物治療の外来の見学や症例検討会の参加などを計画する。2019年度は申請対応なし。 （がん専門薬剤師養成コース） がん化学療法の推進において、大きな障壁となる用量規定因子である抗がん剤誘発末梢神経障害の重症度を定量化するための血中バイオマーカーについて探索し、候補を選定した。乳腺外科医師と協働しながら、抗がん剤誘発末梢神経障害の発症患者を対象に、血液検体を用いて、候補分子のバイオマーカーとしての妥当性を評価した。一定の成果が得られ、医師、薬剤師、がんプロ履修生の共著で論文を海外学術誌に投稿中である。また、がんプロ履修生が、研究成果の一部を取りまとめ、総説として発表した（日本薬理学雑誌、2019年11月、第154巻5号P.241-P.244）。	（資料15） 5大学連携学生短期研修プログラム （資料14） 5大学連携海外合同教育セミナー （資料5） セミナー・シンポジウム等の開催状況 （資料6） インテンシブコース実施事業

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(医学物理士養成コース) 京都大学工学研究科授業「放射線治療計画・計測学実習」 本コースの教員は、医学物理士の人材養成を図ると共に、医学物理士が効率的に活用できる放射線治療装置の研究者・技師養成のため、工学研究科生命・医工融合分野にて放射線治療の臨床現場で生じた様々な問題に対処し、高精度放射線治療を実現するため装置の性能、照射精度、治療品質を維持管理するための手法を学習できる授業を提供しており、診療放射線関連の研究者、技師養成を行っている。(参加者数:8名) 三重大学: 医師、薬剤師、看護師が参加する緩和ケアフォローアップ研修会(1件46名)、緩和ケアセミナー(3件198名)、早期からの緩和ケアを考える会(1件50名)、がんチーム医療研究会(1件46名)、三重がん・生殖医療セミナー(1件101名)、がん患者妊孕性研修会(1件62名)、がん就労支援セミナー(1件51名) 医師、歯科医師、歯科衛生士が参加する医科歯科連携研修会(1件152名)。 医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師が参加するがんリハビリテーション研修会(1件60名)。 滋賀医科大学: 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・「第20回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース(R1/8/25)」/76名 ・「第5回ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー」(R1/6/13/85名) ・「第3回医薬品安全使用研修会(重要性を増すがんサバイバーシップ・ケアと腫瘍循環器学～医療安全と EBM を核としたチーム医療および地域医療連携 ～)」(R2/1/29/34名) ・「第3回薬理ゲノミクスセミナー」(R2/2/2/40名) また、多職種連携教育推進のため、下記の研修会において講演を行った。 ・第1回慶應義塾大学がんプロフェッショナル研修会(東京/R1/6/15) ・2019年度 ゲノム医療薬剤師研修会(東京/R1/10/27、岡山/R2/2/23) ・ 第19回日本癌治療学会アップデート教育コース(京都/R2/2/1) 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・附属病院腫瘍センターで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計31名にがん薬物療法の実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター緩和ケアチームで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計36名にがん緩和ケアの実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター主体でがん看護研修プログラムIで看護師291名にがん医療に関わる研修を実施した。 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 若年がんを考える会:2回(6月23日/34名)ならびに・「小児・AYA世代のがん患者を支える公開セミナー(R2/1/12)」/40名にて多職種でのワークショップを行った。 大阪医科大学: がん医療総合センターで会議(キャンサーボード)開催 京都薬科大学: 1)第2回 在宅医療推進セミナー(2019年4月26日、参加者126名、医師・看護師・薬剤師・大学院生によるパネルディスカッション)	
	24	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	令和元年度取組状況 京都大学: 「レベルアップ研修」2019年8月19～21日　11名参加 「京大病院ELNEC-J研修会」2020年1月18日～1月19日　25名参加 京都府健康福祉部との連携 ・「第1回緩和ケア(PEACE)研修会」2019年9月14日 50名参加 ・「第2回緩和ケア(PEACE)研修会」2019年11月30日　21名参加 ・「ELNEC-J研修会」(エンドオブライフケアについて)2019年9月15～16日　54名参加 尚、PEACEについては当該年度より1日のみの開催となる。 (小児・AYA世代コース) 緩和ケア科を交えた小児がん多職種ミーティングを週一回開催 令元年8月29日　小児緩和ケア勉強会	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			三重大学: 緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会として、①緩和ケアセミナーを、令和元年7月25日(99名参加)、10月24日(56名参加)、2年1月23日 (43名参加) ②緩和ケアフォローアップ(緩和ケアチーム)研修会(意思決定支援・ACPに関する研修)を1年8月25日(46名)に開催、③対人援助・スピリチュアルケア研修(3日間)を2年2月9日、23日、3月23日(5名参加)に開催、④がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術研修会(2日間)を2年1月12-13日(2日間:5名参加)に開催した。 滋賀医科大学: 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・「第1回腫瘍センター講演会(R1/10/9)」/94名 ・「第2回腫瘍センター講演会(R1/10/30)」/45名 ・「第3回腫瘍センター講演会(R2/2/19)」/39名 大阪医科大学: フォローアップ研修会を大阪府主催で12月に開催した。	
	25	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	令和元年度取組状況 京都大学: がんチーム医療研修(3回予定)新型コロナウイルス感染症拡大により中止 第48回京都放射線腫瘍研究会プログラム(医師・技師・医学物理士74名参加) 第49回京都放射線腫瘍研究会プログラム(医師・技師・医学物理士85名参加) 三重大学: 平成30年度に引き続き、兵庫県立粒子線医療センターと連携して、コース履修者の研修を行った。 滋賀医科大学: 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・帝京大学がんセンターでの大学院講義を1回実施し多職種による先進医療推進の方策に関して啓蒙した。 ・帝京大学内科学講座でのがん関係学部講義を2回実施し、がん医療推進の方策に関して啓蒙した。 ・徳島大学大学院・がんプロシンポジウムでがん医療推進の方策に関して啓蒙した。	
【事業の運営体制(実施、評価、連携)】				
	26	連携5大学での事業責任体制、各大学の取り組み事業の実施体制	令和元年度取組状況 事業の運営体制 【事業推進運営委員会】・・・連携5大学間 　連携する5大学の事業を効果的に推進させ、事業の責任体制を明確にするため、事業責任者、連携大学担当コーディネータを配置し、事業推進責任者が招集して事業の企画立案・実施・評価の決定を行う。 （構成員） 　事業推進責任者、連携大学担当コーディネーター、事業推進運営委員会委員 【養成管理委員会等】・・・各大学 　各大学において、事業の実施に向けての現実的な取組を決定 （構成員） 　大学担当コーディネーター、コースコーディネーター、事務局担当者	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			各大学における令和元年度取組状況 京都大学： 「事業推進運営委員会」 ・・・ 4回（主幹校として開催） 第1回 R1.06.25 第2回 R1.09.20 第3回 R2.03.18 第4回 R2.03.24（メール会議） 「養成管理委員会」・・・・・・・ 2回 総括コーディネーターを委員長として、事業推進運営委員会で審議決定された事項の取組に向けて意思確認や各担当コースの運営方針を決定する。 第1回 R1.06.24 第2回 R2.02.28 三重大学： 「5大学連携事業推進運営委員会」が、2019年6月25日に第1回が開催され、三重大学から教員1名、事務1名が参加し、2019年9月20日の第2回には、教員2名、事務1名が参加、2020年3月18日の第3回には、教員1名、事務1名が参加した。 滋賀医科大学： 連携5大学で構成される事業推進運営委員会等を通じて、事業に関する情報収集と連携を行っている。 学内では学生課大学院教育支援係の支援の下、臨床腫瘍学講座が事業コーディネートと統括を行い、同講座、外科学講座、小児科学講座、放射線医学講座、薬剤部が各大学院コースを担当している。適宜、対面・メールでの学内がんプロ運営会議を開催し、進捗の把握、評価、今後の方策を決定している。 大阪医科大学： 年2回事業推進運営委員会に参加し、各校との情報共有、海外セミナーや5大学短期研修、医療シンポジウムの開催を行うことなどを決定している。 京都薬科大学： 事業責任者が招集する事業推進運営委員会に出席し、事業の企画立案・実施・評価（外部評価を含む。）の決定事項を情報収集する。また、本学においても、限られた部局・講座等に取組を任せることがないよう、研究科長をトップとした研究科教授会において、必要事項を審議し、大学事務局とも連携するなど、全学的な実施体制で取り組んでいる。	
	27	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか	令和元年度取組状況 【外部評価委員会】 外部有識者を評価委員として外部評価を実施し、PDACサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直し行う体制を構築しており、令和元年度は、平成30年度事業期間の外部評価を実施した。 なお、令和2年度から外部評価委員については、従前の医師3名による外部評価体制を見直しすることとし、新規に医師以外のメディカルスタッフの薬剤師1名（女性）、看護師1名（女性）、さらに患者団体1名の3名の委員を追加し、6名で構成する外部評価体制に改める。これにより今まで以上の広い視野からの観点で令和元年度事業年度以降の外部評価を受ける。 ・平成30年度事業年度の外部評価は、令和元年8月に3名の外部評価委員からの評価を受け、全39項目の評価項目のうち、38項目の「A：優」または「B：良」評価、1項目の「C：可」評価であった。 各評価委員からの各評価項目、講評については、令和元年9月20日開催の事業推進運営委員会（第2回）の議題として、連携5大学で評価全般について内容確認の上、プログラムの発展的な見直しのための意見交換を図り、特に、1項目の「C：可」評価である『連携5大学 コース履修生のe-learning受講登録率』は、改善に向けての対応を協議した。 令和元年度のコース履修生のe-learning受講登録総数は99名であり、がんプロ関係教職員による受講促進のアナウンス等により、昨年度総数87名より12名の登録者増となった。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	28	連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況	令和元年度取組状況 令和元年9月20日に京都大学において、「5大学連携医療フォーラム」を実施、同フォーラムでは、本拠点連携大学の滋賀医科大学　医学系研究科　縣　保年　教授による特別講演「ips細胞から再生したT細胞とカニクイザルを用いたがん免疫療法の開発」、および、多職種によるがんプロ履修生の研究成果発表、がんプロ提供プログラムの参加報告を行い、教職員・学生だけでなく、一般聴講者に向けての本拠点の事業活動の取組内容報告が行われた。 当日のフォーラムでの報告内容は、ホームページにて視聴可能とし、広く社会に公開している。 http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/forum/event181130	
	29	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	令和元年度取組状況 連携する5大学の事業を効果的に推進するための「5大学連携　事業推進運営委員会」を3回開催、また、大学間の人材交流、多職種交流を目的として「5大学学生短期研修プログラム」（令和2年2月13～14日）を1回実施、「5大学連携医療フォーラム」（令和元年9月20日）を1回開催、「5大学連携海外大学合同教育セミナー」（令和元年6月21～25日）を実施した。 また、近畿地区にある3拠点（京大、阪大、近大）で持ち回り開催している「近畿地区3拠点合同フォーラム」への講演者・パネリスト等派遣（5名）等に積極的に取り組むことで、他拠点間の交流を実施した。 　さらに、他拠点（近畿大学拠点：7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン）が開催する国際シンポジウム「第3回国際がん研究シンポジウム」（令和元年2月15－16日、大阪）に、京都大学拠点からがんプロ履修生4名の演者推薦を積極的に行った。 各大学における令和元年度取組状況 京都大学： インテンシブ事業として、連携大学間での情報共有を目的に、毎年、がん専門薬剤師養成連携合同コース会議（年1回）、チーム医療研修（年3回、新型コロナウイルス感染症のため中止）、京都放射線腫瘍研究会（年2回）を開催、さらに、各コースにおいて拠点内大学との研修会が実施され、当初目標を上回る効果・成果が出ている。 （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース 2019/6/21～6/25の日程で5大学履修生を対象とした海外研修を行い、パリで開催されたworld innovative networking (WIN) consortiumの国際学会に参加した。現地では参加者による英語でのワークショップを開催し、意見交換を行った。 （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） 京都EXCHANGE MEETING（関係病院の若手医師による症例報告会）を開催（2019年6月8日）。京都女性のヘルスケア研究会（京都を中心とする関係病院の若手医師および開業医による勉強会）を開催（2019年11月16日）。 （小児・AYA世代コース） ・令和元年7/13-14 JACLS/CCLSGセミナー 全国31施設、86人の小児がんに携わる医師による合同夏季セミナーを開催 令和元年7/27 JACLS京都地区研究会 令和元年10/4 近畿若手小児血液クラブ （希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース） 5大学連携学生短期研修プログラム（令和2年2月13日）、5大学連携医療フォーラム（令和元年9月20日）に参加した。 （外科治療・集学的診療コース） 5大学連携フォーラムに参加した。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			（がん専門薬剤師養成コース） 連携大学とのつながりを強化することを目的として、令和2年2月1日に京都大学医学部附属病院薬剤部研修室にて、薬剤師養成コース会議を開催した。京都大学、京都薬科大学、三重大学、滋賀医科大学から25名の参加があり、年次活動の進捗報告と情報交換、ならびにがんプロ履修生に対する「がん患者に寄り添った薬剤師養成の教育」のあり方について議論を行った。 (リハビリテーションスタッフコース) リレー・フォー・ライフ2019京都(令和元年9月28日)において拠点内の京都薬科大学と連携し、アウトリーチ活動を行った。 (医学物理士養成コース) 令和元年12月19-20日、令和2年1月23-24日に三重大学医学部附属病院よりそれぞれ技師2名を受け入れ、IMRT/品質管理の運用、効率化、省力化に関する、技師業務と物理業務の見学を行った。 三重大学: 連携大学間の人材交流のため、「5大学連携　学生短期研修プログラム」を三重大学で行い、5大学から18名のがんプロ履修生が参加した。(2020年2月13日～14日) 滋賀医科大学: 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・附属病院腫瘍センター主体でがん看護研修プログラムIで看護師291名にがん医療に関わる研修を実施した。 ・京都薬科大学よりがんプロ連携大学間交流の一環として、1名の大学院生を受入れ、がんゲノム医療の研修を実施した。 ・5大学連携学生短期研修プログラムに大学院生1名が参加した。 【地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース】 ・がん専門薬剤師・薬学研究者養成コース会議(研究発表会)が京都大学で開催され、本学より教職員2名(内1名は元がんプロ学生)、大学院生3名が参加し、内1名が研究発表を行った。(R2/2/1開催) ・Department of Pharmacy, Shaanxi Cancer Hospital(中国)より研修生(1名)を受入れ、がん化学療法についての研修を行った。 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 【地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース】 ・附属病院腫瘍センターで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計31名にがん薬物療法の実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター緩和ケアチームで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計31名にがん緩和ケアの実地研修を行った。 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 ・5大学連携学生短期研修プログラムに大学院生1名が参加した。 大阪医科大学: 連携大学間の人材交流のため、三重大学で開催した「5大学連携　学生短期研修プログラム」にがんプロ履修生を1名参加させた。(2020年2月13日～14日) 京都薬科大学: 連携する5大学の事業を効果的に推進させ、事業の責任体制を明確にするため、事業責任者、プログラムコーディネーターを置き、事業責任者が招集する事業推進運営委員会に出席し、事業の企画立案・実施・評価(外部評価を含む。)の決定事項を情報収集する。また、本学においても、限られた部局・講座等に取組を任せることがないよう、研究科長をトップとした研究科教授会において、必要事項を審議し、大学事務局とも連携するなど、全学的な実施体制で取り組んでいる。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	30	連携5大学　コース履修者の e－learning 受講登録率	令和元年度　取組状況 京都大学版 e－learning は、当初からホームページにて受講者募集の案内をしており、その受講できる対象者は、京都大学と連携大学のがんプロ履修生だけでなく、次の方々が受講登録できるシステムであります。 1)京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学とその附属病院等に在籍する医療関係者 2)がん診療を専門とする事を志望する上記各大学の学生 3)本事務局が上記の趣旨に適合すると判断した方 平成29年度がんプロホームページのサイトデザインの刷新と共に、e-learningバナーボタンの変更も実施し、よりわかりやすいデザインに変更を行った。 令和元年度のe-ラーニング受講登録者内訳は、 ・新規申請登録者　25名（平成30年度：30名） ・がんプロ履修生の総数148名のうち、受講登録者99名 （平成30年度：総数144名のうち、受講登録者87名） ・受講登録率 京都大学　82%、83人（平成30年度：76%、74人） 連携4大学　34%、16人（平成30年度：28%、13人） また、がんプロ履修生以外の医療関係者の令和元年度新規申請は、5名（平成30年度：8名）の受講登録がありました。 三重大学： e-learningの受講登録者数を増やすため、2019年4月19日に開催した本学のコーディネーターにおいて各コースコーディネーターに周知するとともに、受講方法について、本学がんプロホームページに掲載し、がんプロ履修生に対し、積極的な登録を促した。 滋賀医科大学： 連携5大学のe-learningおよび全国のe-learningの受講登録を勧めている。 大阪医科大学： 連携5大学のe-learningの受講登録を積極的に勧めているが、受講率は上がっていない。 京都薬科大学： 連携5大学のe-learningに登録し、受講を積極的に勧めている。講義学生受講登録率100%	
	31	新たな e－learning　講義科目の提供の取組みについて	令和年度　取組状況 拠点の取り組みとして、令和元年度において、次の6点の講義等について、新たに撮影・収録し聴講できるようにした。これにより、がんプロ履修生や本拠点の医療関係者に向けて、分野横断的、先進的教育研究が推進されるものと期待されている。 ・「遺伝性腫瘍総論+リンチ症候群の診療：診断・治療、看護、遺伝カウセリング」 京都大学　医学研究科・特定教授　西垣　昌和 ・「ミスマッチ修復機能欠損・マイクロサテライト不安定性検査と大腸がんにおける意義」 京都大学　医学研究科・特定講師　山田　敦 ・「婦人科がんにおけるリンチ症候群と免疫チェックポイント阻害薬」 京都大学　医学研究科・講師　濱西　潤三 ・「ゲノム検査とがんゲノム医療」 三重大学　医学系研究科・教授　中谷　中 ・「緩和医療と放射線治療」 三重大学　医学系研究科・教授　野本　由人 ・「がん治療の変化と緩和ケア」 三重大学　医学系研究科・助教　松原　貴子	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	32	主幹大学での事業支援事務組織体制	令和元年度　取組状況 引き続き、複数のプロジェクトの担当職員を統合して、プロジェクトに係る総務的業務、経理的業務、教務的業務と幅広い業務に、横断的に支援できる教育推進室を配置した。	
【事業の普及】				
	33	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか	令和元年度　取組状況 本がんプロ拠点のホームページのデザインは、平成29年度にサイトデザインを一新し、引き続き、事業活動の社会への周知、地域医療貢献のために各種フォーラムや公開講座等のイベント活動をホームページに逐次公開しており、社会からのがんプロ活動の理解を頂けるよう発信・充実に努めています。 ホームページでは、本拠点の活動だけでなく、他拠点との府民公開講座や近畿地区3拠点とのフォーラムの情報提供し、他拠点間交流や多職種交流教育にも努めています。 平成30年度に引き続き、「活動報告」欄では本拠点の取組活動を広く情報公開する共に、「5大学連携医療フォーラム」の講演内容等も公開しており、さらに「公開シンポジウム」への参加報告の概要、「学生短期研修プログラム」の事業取組報告の概要を掲載し、さらなる情報公開を進めています。 また、毎年度実施してきた「外部評価」も、HPにておいて公開しがんプロ事業への理解を得ることに努めています。 http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/ 「高度がん医療を先導するがん医療人養成」 三重大学: 三重大学大学院及び三重大学がんセンターのホームページでそれぞれ入学案内を含めた本事業の情報公開を行った。また、がんプロ推奨セミナーの案内をリアルタイムで行い、県内の医療機関の多職種に参加を呼び掛けた。ホームページに加えて、大学院で作成したパンフレットをインテンシブコースの講演会等で積極的に配布し、本事業の紹介を行った。 滋賀医科大学: 本学のがんプロホームページから、京都大学拠点事業のホームページへとリンクさせている。 また、本学がんプロホームページには、受入人数・授業科目・養成像や実施したセミナー等を掲載し積極的な情報公開を行っている。 令和元年度更新回数21回 大阪医科大学: 本事業のホームページに、公開講座開催概要等を集約して情報公開を行っており、積極的に広報を行っている。 本学でのHPにも独自のサイトを開設して同様な講演やセミナーについて情報公開を行い、広報活動を行っている。 京都薬科大学: 京都大学がんプロホームページを本学がんプロホームページにリンクさせている。本学での取り組みを、京都大学に情報提供し公開を行っている。 本学リンクページ:https://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/cancer2017-2021/#symposium また、公開講座やセミナーの情報を京都薬科大学トップページの新着情報にも公開している。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
	34	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	令和元年度　取組状況 京都大学: 京都府がん医療戦略推進会議の各部会（院内がん登録部会、相談支援部会、研修部会、緩和ケア部会、看護師研修に関する会議、外来化学療法部会、地域連携部会）および、各種ワーキング（前立腺がん地域連携パスワーキング等）に参加し、活動に協力している。（総勢29名が活動中） また、府内で実施している以下の事業に講師派遣する等、府のがん対策の企画立案に積極的に協力している。 ・生命のがん教育推進プロジェクト・・・小中学校や高等学校等でガンの基本知識に関する授業を行う R1.6.24　京都市立白川総合支援学校　1年生34名 R1.10.30　京都府立朱雀高等学校　3年生170名 R1.11.19　京都市立伏見工業高等学校　1年生27名 （各回につき、医師1名を講師として派遣） ・かかりつけ医（がん対応力）向上研修・・・地域の医師を対象に最新情報等の研修を行う。本年度は治療方法別に、最新情報等の研修を行い、当院は「薬物療法」と「免疫療法」を担当した。 R1.12.8（日）　京都府医師会館 （計2名を講師派遣） ・令和元年度から小児がん連携病院の指定が始まった関係で、当院の連携病院11施設の現況報告書を取りまとめ、提出した。（他の小児がん拠点病院と重複して連携している連携病院のうち、他の小児がん拠点病院が取りまとめる施設分を除く） （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 京都府内の病院を対象に がんゲノム医療講演会を開催した（2019/7/31） 京都府内の2つのがんゲノム連携拠点病院に非常勤で医師を派遣している （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） ・近畿産婦人科学会の腫瘍研究部会の委員を選出している。 （小児・AYA世代コース） ①京都府小児がん拠点病院連携推進会議をにおいて、京都府健康福祉部健康対策課、京都府立医科大学との情報交換、小児がん対策につき定期的に協議を行っている。 ②京都市入院児童生徒等への教育保障体制整備事業推進に関する会議メンバーとして入院児童、とくにAYA世代を含む患者への教育機会の充足に努めている。 ③KOF-net（京都がんと生殖医療ネットワーク）の活動を通じて、府下の患者に対する妊孕性温存の推進に取り組んでいる。 （外科治療・集学的診療コース） 京都府がん医療戦略推進会議に教官を派遣し、企画立案に取り組んでいる （緩和ケアコース） 京都府がん医療戦略推進会議・緩和ケア部会をにおいて、京都府健康福祉部健康対策課および京都府立医科大学と緩和ケアの課題について情報交換と協議を定期的に行っている。 三重大学: 三重大学がんセンターの医師が、令和元年度の三重県のがん検診精度管理検討委員会の委員長を務め、がん検診の精度の向上を進めた。また、三重県のがん対策推進協議会の緩和ケア部会、医科歯科連携部会、PDCAサイクル部会、地域連携パス部会、がん相談支援部会、がん登録部会のそれぞれの部会長にも、がんセンターの医師が任命されており、県のがん対策の推進に積極的に貢献した。 県教育委員会が主催する小学校、中学校の出前授業（令和元年年9月10日、9月12日、10月1日、10月23日、11月8日、11月21日、 12月16日、令和2年1月29日）に、がんセンターの医師が参加して「がん教育」の授業を行い、小学生、中学生との活発な質疑応答を行い好評であった。また、教員を対象とする、がん教育の講習会でも、がんセンターの医師が講演（令和元年8月1日、8日）し、がん教育の意義や指導内容・方法等の普及、啓発を行った。 滋賀医科大学: 滋賀県がん診療連携協議会のすべての部会に職員を委員として派遣しており、県内のがん対策の実行を支援している。また滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「第3期滋賀県がん対策推進基本計画」の推進に取り組んだ。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			大阪医科大学： 大阪府主催のがん連携協議会（各部会）に年2回参加	
	35	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	令和元年度　取組状況 京都大学： （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） テレビ電話会議システムWebExとシスメックス社と共同で開発したクラウド型データストレージを導入しており、関連病院との効率的な連携が可能な体制を構築している。 （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） 関連病院間でのインターネットアクセス可能なサーバーを開設して、関連病院が京大産婦人科での講義やカンファレンスでの情報共有を図るシステムを利用している。 （小児・AYA世代コース） 京都市入院児童生徒等への教育保障体制整備事業推進に関する会議メンバーと協力し、高校生を含む入院児童に対するICTを用いた遠隔授業を推進している。 （希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース） インターネットでアクセス可能なサーバーを構築・運用して、関連病院医師が京大放射線治療プロトコールを閲覧可能としている。 （外科治療・集学的診療コース） 関連施設と共同で共通のフォーマットでの院内診療データベースを運営しており、定期的にこれらのデータを集約し、web上での利用を推進している。 三重大学： 三重大学のがんセンターが事務局となり、周辺地域の医療機関とIDリンクによるITを活用した地域医療連携ネットワークを構築し、地域完結型医療を推進した。現在、医療情報の開示病院は、地域がん診療連携拠点病院、がん診療連携推進病院を中心にして計18施設で、閲覧施設は計283施設になっており、連携する登録患者数は計23,277名となった。 滋賀医科大学： ・東近江医療圏メーリングリスト、ならびに滋賀県がん診療連携協議会・診療支援部会機関病院メーリングリストを運用し、医療研修に関わる情報を発信した。 ・がん関係の研修・講演会をTV会議システムでリアルタイムに東近江医療圏病院と大津医療圏病院（JCHO滋賀病院）へ配信している。	
	36	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	令和元年度　取組状況 京都大学： （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） テレビ電話会議システムWebExとシスメックス社と共同で開発したクラウド型データストレージであるエキスパートパネル支援システムを用いて、がん遺伝子パネル検査に必須とされるエキスパートパネル実施体制を構築し、毎週テレビ会議を開催している。 （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） テレビカンファレンスシステムを用いた症例検討会を定期的に開催している。 （小児・AYA世代コース） 関連病院とのWebカンファレンスを通じて、診療支援、患者情報の共有や紹介などの医療体制の構築を行なっている。 三重大学： がんプロ主催の多職種緩和ケアTVカンファレンスは、三重県内7病院を結んでいたが、今年度は1病院増えて、県内8病院を結んで実施している。各施設で生じた解決困難な事例について、1回/月で行い、合計9回開催し、のべ47施設、301名の専門職が参加した。各拠点では、がんプロ修了生であるがん看護専門看護師がリーダー的存在となり、チームとしてカンファレンスに参加している。がんプロ大学院生も参加し、問題解決の考え方や、多職種が連携することでもたらされる力など、地域での緩和ケアの実際を学ぶ機会となっている。一方、がんプロ修了生にとっても実践的な継続教育の場となっている。 しかし今年度はCOVID-19の感染拡大のため、3月をもって休止することになった。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			滋賀医科大学： ・東近江医療圏の滋賀県がん診療連携支援病院および大津医療圏のJCHO滋賀病院とTV会議システム等を用いた合同カンファレンスの体制を構築している。 ・がん関係のCPCをTV会議システムでリアルタイムに東近江医療圏病院へ配信している。 ・滋賀県の運営する遠隔病理診断システムの運用を附属病院で支援している。	
	37	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み	令和元年度　取組状況 京都大学： 1）第48回京都放射線腫瘍研究会（2019/10/12）：74名 共催：株式会社バリアンメディカルシステムズ、株式会社たけびし、ブレインラボ株式会社、東洋メディック株式会社、第一三共株式会社 2）第49回京都放射線腫瘍研究会（2020/2/15）：85名 共催：株式会社バリアンメディカルシステムズ、株式会社たけびし、ブレインラボ株式会社、東洋メディック株式会社、第一三共株式会社 （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 2019/7/31 がんゲノム医療講演会 共催：中外製薬株式会社 2019/12/16 がんゲノム医療のためのエキスパートカンファランス 共催：中外製薬株式会社 （婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース） 2019年5月17日 生殖医学研究会　協賛：持田製薬 2019年9月6日−7日 JSAWI 2019年9月20日 京都Ovarian Cancer Meeting　協賛：持田製薬 2019年11月16日 京都女性のヘルスケア研究会（京都温知会）　協賛：久光製薬 （小児・AYA世代コース） 令和元年5/17 京滋悪性腫瘍懇話会 令和元年10/4 近畿若手小児血液クラブ 令和元年11/12 CCS研究会 （希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース・医学物理士養成コース） ・放射線医学への応用が期待される深層学習を用いた研究開発を、株式会社Ristと共同で行っている。 ・患者間・位相間非線形位置合わせデータベースの開発を、イーグロース株式会社と共同で行っている。 ・放射線照射中の標的位置確認のために用いられるイメージング用画像の画質向上に向けた研究開発を、Varian Medical Systemsと共同で行っている。 （外科治療・集学的診療コース） 上方乳癌研究会　共催：中外製薬株式会社　5月11日 京滋乳癌研究会　共催：エーザイ株式会社　9月7日 （緩和ケアコース） 「在宅緩和ケア研修のための双方向遠隔講義」を企業（あゆみ製薬、日本臓器製薬、メディカルシステムネットワーク、アインファーマシーズ）の協力を得ながら準備を進めている。 （がん専門薬剤師養成コース） 令和2年1月16日　Cancer Toral Care Seminar for Pharmacist 共催：第一三共株式会社 令和2年2月7日　2025年に向けた薬剤師業務研究会 共催：日本化薬株式会社 三重大学： 三重大学を中継拠点として、三重県内7か所の病院が参加して、毎月1回、多職種による緩和ケアカンファレンスを行っており、解決困難な事例について、互いの専門性を活かしたタイムリーな検討を行い、施設の垣根を超えた緩和医療の質の向上に貢献している。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			滋賀医科大学： 【ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース】 ・「第5回ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー（R1/6/13）」/85名 共催：アステラス製薬㈱ ・「第20回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース（R1/8/25）」/76名 共催：中外製薬㈱ ・「21回滋賀県がん薬物療法CONFERENCE（R1/11/6）」/36名 共催：大鵬薬品工業㈱ 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・「疼痛緩和トータルケア2020（R2/1/27）」/48名 共催：第一三共㈱ 【ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース】 ・「県民講座　もっと知ろう　がんのこと（R1/11/9」/58名 共催：中外製薬㈱	
	38	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	令和元年度　取組状況 京都大学： (プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース) がん遺伝子パネル検査で必須とされるエキスパートパネルの運営には特に連携病院とのやり取りに時間と労力を要していたが、シスメックス社と共同でエキスパートパネル支援システムを開発、臨床導入している。本システムの導入によりエキスパートパネルの日程調整や、エキスパートパネルレポートの連携病院への返却にかかる時間を大幅に短縮できるようになった。 さらにがん遺伝子パネル検査結果とエキスパートパネルでの議論内容を一元管理し、最終報告書としてのエキスパートパネルレポートを管理・出力できるデータベースシステムを市販のソフトウエアをベースに開発し運用している。 このデータベースを用いれば、実際にエキスパートパネルで治療が推奨された体細胞系遺伝子変異や二次的所見が疑われた生殖細胞系遺伝子変異について多面的な解析が可能である。 (婦人科腫瘍におけるゲノム医療コース) ①卵巣がんにおいて、MDSC、B7H3,B7H5が抗腫瘍免疫に与える影響を明らかにした。 ②卵巣明細胞癌において、特有の代謝経路を解明した。 ③卵巣明細胞癌の遺伝子変異のパターンについて、RNAシークエンシングおよびゲノム解析を行っている。 ④子宮体部漿液性癌において、STAT1が化学療法抵抗性に寄与するメカニズムについて解明した。 ⑤子宮頸がん予防に対し新規治療の臨床応用を開始している。 (小児・AYA世代コース) 1. 小児がんの臨床検体を用いた網羅的遺伝子解析による新規診断、治療法の開発を目指した探索的研究を行っている。 2。固形がんの表面抗原を標的とした新規治療法開発に関する基礎研究を推進し、動物モデルを用いて臨床応用を進めている。 3. 高度免疫不全マウスであるNOGマウスを用いて患者由来の白血病や固形がんをマウス体内で維持するPDX (Patient derived xenograft)マウスモデルを確立し、ヒト腫瘍細胞のin vivo解析系を構築することで病態の解明や新規治療法の開発を行っている。 4. 白血病の増殖／維持に関わる分子標的を探索的に研究し、PDXモデルを用いた新規治療法開発を行っている。 5. 細胞免疫療法における、免疫環境の解析を通じ同治療の最適化、合併症対策等、新規治療法開発を行なっている。 (希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース・医学物理士養成コース) 臨床放射線治療グループ、医学物理グループ、放射線生物学グループに分かれ、新たながん治療法開拓に向けて、研究を推進している。 各グループで定期的にミーティングを開催し、さらにグループ間での密接な連携も行う。 月に数回、3グループからの研究発表も行う機会を設けている。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(外科治療・集学的診療コース) 光超音波技術を用い、血管が関与する疾患のより早期での診断、治療方法の精密化、個別化を目指す研究を進めている。 臨床データをAIを用いてデータベースとして活用できる形に実装化など、人工知能を用いた技術にも着目し今後展開を図っている。 (緩和ケアコース) 身体症状と精神症状のアセスメントとケアの向上を目指して、AI関連技術を応用した研究を進めている。 (がん専門薬剤師養成コース) がん化学療法の推進において、大きな障壁となる用量規定因子である抗がん剤誘発末梢神経障害の重症度を定量化するための血中バイオマーカーについて探索し、候補を選定した。乳腺外科医師と協働しながら、抗がん剤誘発末梢神経障害の発症患者を対象に、血液検体を用いて、候補分子のバイオマーカーとしての妥当性を評価した。一定の成果が得られ、医師、薬剤師、がんプロ履修生の共著で論文を海外学術誌に投稿中である。さらに、抗がん剤誘発末梢神経障害の新規予防・治療薬の開発を目指し、京都大学が保有する約3000種類の化合物ライブラリーをハイスループットスクリーニングし、有効な候補薬を複数見出した。現在、その研究成果を取りまとめ、海外学術誌に論文を投稿中である。また、がんプロ履修生が、研究成果の一部を取りまとめ、総説として発表した（日本薬理学雑誌、2019年11月、第154巻5号P.241-P.244）。 (医学物理士養成コース) 臨床放射線治療グループ、医学物理グループ、放射線生物学グループに分かれ、新たながん治療法開拓に向けて、研究を推進している。 各グループで定期的にミーティングを開催し、さらにグループ間での密接な連携も行う。 月に数回、3グループからの研究発表も行う機会を設けている。 三重大学: 複合的がん免疫療法センターを中心にして、以下の研究開発を進めている。 1. 長鎖ペプチド抗原デザイン技術とナノゲル型ワクチンデリバリーシステムを応用した高性能がんワクチンの研究開発 2. 免疫チェックポイント阻害薬不応性がんに著効するTriCombo ACT療法の研究開発 3. がん治療に用いるヒト型抗体の作製と解析 4. 新しいCAR-T細胞輸注療法の開発研究 5. がんの変異抗原等に対するTCRの分離と標的ペプチドの解析 6. T細胞由来小胞体ベシクルの解析と臨床への応用 7. 新しいがん免疫療法のトランスレーショナルリサーチ：TCR遺伝子改変T（TCR-T）細胞の輸注療法 8. 新しいがん免疫療法のトランスレーショナルリサーチ：CHPナノゲル／蛋白複合体がんワクチン（三重大オリジナルがんワクチン臨床開発） 9. がん免疫療法臨床試験のリバーストランスレーショナルリサーチ：がん免疫療法モニタリング研究 滋賀医科大学: ・次世代シークエンサー、マイクロアレイ、バイオマーカー解析装置、多分子迅速解析装置、超高感度分子解析装置などの機器を用いて、がんプロコース在籍の大学院生にトレーニングを行い、各自の研究に活用している。 ・年々高度化するがん研究の解析装置の研修体制をさらに充実させるとともに、国内連携大学にも大学院生を派遣して人材交流を行っている。 【先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース】 ・附属病院腫瘍センターで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計36名にがん薬物療法の実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター緩和ケアチームで京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、摂南大学、県内医療機関からの学生・研修生計31名にがん緩和ケアの実地研修を行った。 ・附属病院腫瘍センター主体でがん看護研修プログラムIで看護師291名にがん医療に関わる研修を実施した。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			大阪医科大学： 令和元年度の新規がんに関する研究として以下のものがあげられる （化学療法センター） ・高度催吐性抗悪性腫瘍剤の悪心・嘔吐に対するホスアプレピタントメグルミンとデキサメタゾンの併用効果についての検討化 ・治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌に対するレゴラフェニブの有効性・安全性評価のための探索的臨床薬理学研究 ・「RAS遺伝子野生型切除不能進行・再発大腸癌における二次治療FOLFIRI＋ラムシルマブ併用療法の第Ⅱ相試験（JACCRO CC-16）」におけるバイオマーカー研究（JACCRO CC-16AR）」 ・治癒切除不能な固形悪性腫瘍における 血液循環腫瘍 DNA のがん関連遺伝子異常及び腸内細菌叢のプロファイリング・モニタリングの多施設共同研究（SCRUM-Japan ONSTAR-SCREEN） ・がん患者における人参養栄湯の倦怠感に対する有効性を検討する前向き観察研究 ・抗EGFR抗体薬の治療歴のあるRAS/BRAF V600E野生型の切除不能進行・再発大腸癌患者を対象としたctDNA解析によるRAS変異モニタリングの臨床的有用性を評価する観察研究 ・StageⅢ治癒切除大腸癌に対する術後補助化学療法としてのCapecitabine療法とS-1療法とのランダム化第Ⅲ相比較臨床試験(JCOG0910) ・StageⅢ治癒切除胃癌症例におけるTS-1術後補助化学療法の予後予測因子および副作用発現の危険因子についての探索的研究(JACCRO GC-07AR) （産婦人科） ・本邦における若年子宮体がん妊孕性温存治療についての調査研究 ・初発子宮頸がん患者を対象とした治療後のセクシュアリティの変化に関する前向きコホート研究 ・70歳未満と比較して70歳以上の子宮がん患者における腹腔鏡下手術の安全性の検討 （内科学Ⅱ） ・胃癌に合併した閉塞性黄疸に対する適切な胆道ドレナージ法の検討 ・切除不能肝細胞癌に対する全身化学療法の治療効果の検討 京都薬科大学： 1．公表されている診療データベースに基づいた患者情報の解析と、がんの原因となる遺伝子を特定する次世代シークエンサー解析を関連付けた研究プラットホームを構築した。 2．がん治療と診断を組み合わせた、がん放射線内用療法（radio-theranostics）研究を継続した。	
	39	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	令和元年度　取組状況 京都大学： （プレシジョンメディシンがんゲノム医療コース） 院内完結型のゲノムラボ「ゲノム解析室」を開設した。 がん遺伝子パネル検査を初回化学療法開始前に行うことの有用性に関する研究や保険承認されているパネルでは適格規準を満たさない微小検体からもシークエンスを可能とする新たながん遺伝子パネル検査の開発を進めている。 （小児・AYA世代コース） 小児がんの臨床検体を使用した遺伝子の網羅的解析と、培養のみならず動物モデルを用いた機能解析を組み合わせ、新規診断法、治療法の開発を目指している。 細胞免疫治療におけるがん免疫環境をここの症例で解析し、バイオマーカーの発見、新規治療開発へ向けた研究を行なっている。 （希少がん及び小児がんに対する放射線治療コース） ①放射線治療科では2011年9月より世界に先駆けてVero4DRTを用いた動体追尾照射を開始している．肺癌・肝癌・膵癌に対する動体追尾照射の安全性および有効性を評価することを目的とし，AMED革新的がん医療実用化研究事業より平成29-31年度の研究資金提供を受けて多施設共同試験を実施している。さらに、2017年11月24日には、世界で初めて回転原体照射による動体追尾放射線治療を行った。 ②また，前立腺癌に対する強度変調放射線治療は、全例Vero4DRTを用いた革新的新規照射法であるDynamic WaveArc照射法（革新的がん医療実用化研究事業より平成27-29年度の研究資金提供を受けている）を行っており、さらに一部の脳腫瘍症例に対しても行った。現在、乳がん、脊椎転移など、他部位の症例に対してもDynamic WaveArc照射法が優位であるか研究を進めている。 ③実験検体および臨床検体 中のDNA、RNA、タンパクなどを解析して放射線治療抵抗性の原因究明とその克服法を開発している。 ④また、低酸素などの腫瘍内微小環境や生体中の酸化還元バランスが、放射線治療効果に及ぼす影響についての研究も推進している。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			(医学物理士養成コース) ・照射実績ログ，照射日に撮影した画像，統計形状モデルを駆使して実際に患者に投与した線量分布を再構成する方法を開発しており、呼吸性移動を伴う疾患に対しても展開している。さらに、再構成した分布と計画された分布の差異の経時変化を監視し、適切な治療を提供できるシステムを開発している。 ・京都大学放射線治療科、および関連病院では500件を超える肺癌に対する体幹部定位照射を実施してきた。そのCT画像を用いて人間の目では抽出できない特徴量や施行された放射線治療の線量部プの特徴量をアルゴリズムにより抽出し、また予後データと結びつけることにより、CT画像から予後を予測するシステムを開発している。 ・放射線医学への応用が期待される深層学習を用いて、CT画像上で放射線治療計画に必要な臓器の輪郭の自動抽出を行っている。 ・京大病院放射線治療科では三菱重工とともに開発した国産の放射線治療装置Vero4DRTによる、革新的な新規放射線照射法Dynamic WaveArc照射を用いて臨床にて治療を行っている。またVero4DRTによる強度変調回転追尾照射などの技術開発も行っている。これらの新規照射法に対する適切な品質管理手法の開発を行っている。また，新規照射法は装置と患者とが衝突する危険性があるため、3Dスキャナを用いて装置−患者の立体像をモデル化し、衝突を未然に防ぐことを可能とする衝突検出システムを開発している。 ・主に放射線診断領域で開発されてきたデュアルエナジー撮像を放射線治療装置において実現し、毎治療日に適切な治療を実現するシステムを開発している。 (外科治療・集学的診療コース) 光超音波技術を用い、血管が関与する疾患のより早期での診断、治療方法の精密化、個別化を目指す研究を進めている。 また関連病院と共同で共通フォーマットでの診療データベースを運営し、定期的なデータを集約し、WEB化に向け推進。さらに臨床データをAIを用いてデータベースとして活用できる形に実装化など、人工知能を用いた技術にも着目し今後展開を図っている。 (緩和ケアコース) 全国の緩和ケア病棟で亡くなった患者の遺族調査548例を基にAI関連技術による解析を行い、緩和ケアと看取りの質を予測するモデルを作成する予定である。どのような過程が緩和ケアの質の担保に重要かを検討し、望ましいケアのあり方を提案できるシステム構築を目指している。 (がん専門薬剤師養成コース) がん化学療法の推進において、大きな障壁となる用量規定因子である抗がん剤誘発末梢神経障害の重症度を定量化するための血中バイオマーカーについて探索し、候補を選定した。乳腺外科医師と協働しながら、抗がん剤誘発末梢神経障害の発症患者を対象に、血液検体を用いて、候補分子のバイオマーカーとしての妥当性を評価した。一定の成果が得られ、医師、薬剤師、がんプロ履修生の共著で論文を海外学術誌に投稿中である。さらに、抗がん剤誘発末梢神経障害の新規予防・治療薬の開発を目指し、京都大学が保有する約3000種類の化合物ライブラリーをハイスループットスクリーニングし、有効な候補薬を複数見出した。現在、その研究成果を取りまとめ、海外学術誌に論文を投稿中である。また、がんプロ履修生が、研究成果の一部を取りまとめ、総説として発表した（日本薬理学雑誌、2019年11月、第154巻5号P.241−P.244）。 三重大学: ・がんゲノム医療連携病院の指定を受け、中核拠点病院の京都大学と連携し、京都大学で毎週火曜日に開催される多地点合同エキスパートパネルに参加するとともに学内エキスパートパネルも定期的に開催している。また、がんセンター内に、がんゲノム医療部門を設置するとともに、ゲノム診療科を新設し、がんゲノム医療を受けられる体制の整備を進めている。現在、Foundation 1、NCCオンコパネルのがん遺伝子パネル検査を実施し、遺伝子カウンセリングを既に行っている。 ・がん免疫療法を安全に実施するための医師（がん関連診療科、免疫関連診療科）、看護師、薬剤師、医療安全管理部スタッフ等で構成する免疫療法対策チームを発足し、活動を行っている。 ・CD19 CAR−T療法等のがん免疫遺伝子治療の多施設共同臨床試験を実施できる体制を構築している。 滋賀医科大学: ・附属病院での新たな創薬に向けて、腫瘍内科においてがんペプチドワクチン療法の医師主導型臨床試験を実施し、履修者のOJT教育に生かしている。 ・腫瘍内科を中心に国内外の先端的がん免疫療法の医療・研究機関と共同研究体制を構築している。 ・新しいがん医療の開発に向けて大学附属先端がん研究センターの運営を開始するとともに、腫瘍内科と国内外の先端的がんゲノム医療・研究機関と共同研究体制を構築している。	

区分	項目番号	達成目標（評価項目）	取組状況等	参考資料等
			大阪医科大学： 令和元年8月に放射線医学教室が「放射線診断学教室」と「放射線腫瘍学教室」が発展的に改組し、個別の教室として教授を配置し開設され、今後がんに関する分野について今まで以上に取り組む。 特に、近年の技術的進歩により、強度変調放射線治療（IMAT）や定位放射線治療（SRT）などの高精度治療の普及、また、ホウ素中性子補足療法（BNCT）の診療・研究の両面での推進するとともに、次代を担う専門医の育成、医学物理士の配備にも注力していく。 さらに、大阪医科大学附属病院は、平成30年4月にがんゲノム医療連携病院の認定を受けて、令和元年4月がん医療総合センター内に新たにがんゲノム医療管理室を設置した。 京都薬科大学： 1．在宅医療での多職種連携の中で指導的役割を担えるがん専門薬剤師育成を目指し、履修学生教育プログラムを遂行し、多職種連携のがん治療における重要性を学ばせている。また次世代に要求される在宅診療における薬剤師像を考えさせ、学部生の指導に関わらせた。 2．がんゲノム医療に関するセミナーを開催するとともに、本学での研究内容を学内発表し、ゲノム医療の重要性を啓発した。	

５大学連携医療フォーラム

５大学連携医療フォーラム

資料１

教育プログラム・コース別受入目標人数・入学者数・在学者人数 （令和元年度）

区分		大学名・専攻名	コース名	修業年限	対象職種	受入目標人数						入学者数						在学者人数				
						年度別					計	年度別					計	1年次	2年次	3年次	4年次	計
						H29	H30	R1	R2	R3		H29	H30	R1	R2	R3						
① ゲノム医療従事者の養成						8	8	8	8	8	40	5	6	9				9	6	6	12	33
	1	京大・医学	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	4年	医師	3	3	3	3	3	15	3	2	3				3	2	4	6	15
	2	京大・医学	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	1	3	2				2	3	1	2	8
	3	三重大・生命医科学	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0	0	1				1	0	0	1	2
	4	滋賀医科・医学	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	4年	薬剤師	1	1	1	1	1	5	0	0	2				2	0	0	1	3
	5	滋賀医科・医学	先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0	0	0				0	0	0	1	1
	6	大阪医科・医学	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	1	1	1				1	1	1	1	4
② 希少がん及び小児がんに対応できる医療人材の養成						8	8	8	8	8	40	4	5	6				6	5	6	4	21
	7	京大・医学	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	4年	医師	2	2	2	2	2	10	0	2	2				2	2	2	1	7
	8	京大・医学	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	4年	医師	3	3	3	3	3	15	3	3	3				3	3	3	3	12
	9	三重大・生命医科学	小児がん治療専門医養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	1	0	0				0	0	1	0	1
	10	滋賀医科・医学	小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0	0	0				0	0	0	0	0
	11	大阪医科・医学	希少がんに関する放射線治療を担う人材養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0	0	1				1	0	0	0	1
③ ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成						19	19	21	19	21	99	17	23	30				30	26	18	20	94
	12	京大・医学	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	医師	4	4	4	4	4	20	8	4	10				10	5	9	12	36
	13	京大・人間健康	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	2年	理学療法士	1	1	1	1	1	5	1	1	1				1	1	－	－	2
				3年	作業療法士		1	1	1	1	4	0	1	0				0	1	1	－	2
	14	京大・医学・薬学	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	4年	薬剤師			1		1	2	0	0	1				1	0	0	0	1
				4年		1	1	1	1	1	5	2	1	1				1	1	2	1	5
	15	京大・医学・人間健康	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0	0	0				0	0	0	1	1
				2年	看護師	1	1	1	1	1	5	1	2	4				4	2	－	－	6
	16	京大・医学・人間健康	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	4年		1		1		1	3	0	0	0				0	0	0	0	0
				3年	医学物理士	1		1		1	3	0	1	1				1	1	0	－	2
				2年			1		1		2	0	2	2				2	2	－	－	4
	17	三重大・生命医科学	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	1	1	1				1	1	1	1	4
	18	三重大・生命医科学	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0	0	2				2	0	0	0	2
	19	三重大・生命医科学	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門薬剤師養成コース	4年	薬剤師	1	1	1	1	1	5	0	1	0				0	1	0	0	1
	20	三重大・生命医科学	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0	0	1				1	0	3	2	6
	21	三重大・看護学	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	2年	看護師	2	2	2	2	2	10	2	1	1				1	3	－	－	4
	22	滋賀医科・医学	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	0	3	0				0	3	0	1	4
	23	大阪医科・医学	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	4年	医師	1	1	1	1	1	5	1	1	1				1	1	1	1	4
	24	京都薬大・薬学	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	4年	薬剤師	1	1	1	1	1	5	1	4	4				4	4	1	1	10
合計						35	35	37	35	37	179	26	34	45				45	37	30	36	148
（大学別内訳）					京都大学	18	19	20	19	20	96	19	22	30				30	23	22	26	101
					三重大学	8	8	8	8	8	40	4	3	6				6	5	5	4	20
					滋賀医科大学	4	4	4	4	4	20	0	3	2				2	3	0	3	8
					大阪医科大学	3	3	3	3	3	15	2	2	3				3	2	2	2	9
					京都薬科大学	1	1	1	1	1	5	1	4	4				4	4	1	1	10

資料 2

「資格取得者数一覧」（平成29年度～令和3年度）

コースを開設している大学・研究科・専攻名	コース名	修業年限	④受験・合格・資格取得者数															
			学会等認定資格名	H29			H30			R1			R2			R3		
				受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数
計				16	16	31	21	18	31	31	32	35	0	0	0	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者養成コース	4年	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）	1	1	0	0	0	0	0	0	0						
	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者養成コース	4年	がん治療認定医（日本がん治療認定機構）				1	0	0	0	0	0						
	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者養成コース	4年	外科専門医（日本外科学会）				1	0	0	1	1	1						
	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者養成コース	4年	総合内科専門医（日本内科学会）				0	1	1	1	1	1						
	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者養成コース	4年	消化器病専門医（日本消化器病学会）							1	1	1						
	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者養成コース	4年	認定産業医（日本医師会）							0	0	1						
京都大学医学研究科医学専攻	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	産婦人科専門医（日本産科婦人科学会）	0	0	1	0	0	2	0	0	0						
	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医（日本婦人科腫瘍学会）	0	0	1	0	1	1	1	2	1						
	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	産科婦人科内視鏡技術認定医（日本産科婦人科内視鏡学会）	1	1	0	1	0	0	2	2	2						
	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	がん治療認定医（日本がん治療認定機構）	0	0	1	0	0	2	1	0	0						
京都大学医学研究科医学専攻	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	4年	小児科専門医（日本小児科学会）				0	1	2	1	1	1						
	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	4年	がん治療認定医（日本がん治療認定機構）							1	0	0						
京都大学医学研究科医学専攻	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	4年	放射線治療専門医（日本放射線腫瘍学会）	2	2	6	0	0	1	4	4	4						
	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	4年	放射線専門医（日本医学放射線学会）	0	0	1	0	0	0	0	0	1						
	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	4年	がん治療認定医（日本がん治療認定機構）				0	1	1	0	0	1						
	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	4年	指導医（日本医学放射線学会 ）							0	0	1						
京都大学医学研究科医学専攻	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	外科専門医（日本外科学会）	0	0	2	0	0	2	0	0	0						
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器外科専門医（日本消化器学会）	1	1	2	0	0	0	1	1	0						
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器がん外科治療認定医（日本消化器外科学会）	0	0	4	0	0	0	0	0	0						
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）	0	0	1	0	0	1	0	0	0						
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器病専門医（日本消化器病学会）	0	0	1	0	0	1	0	0	0						
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	消化器外科指導医（日本消化器外科学会）	0	0	1	0	0	1	0	0	0						
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	技術認定医　大腸（日本内視鏡外科学会）	1	1	0	0	0	0	0	0	0						
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	がん治療認定医（日本がん治療認定機構）	0	0	1	0	0	1	0	0	1						
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	放射線診断専門医（日本医学放射線学会）	1	1	0	0	0	0	0	0	0						
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	核医学専門医（日本核医学会）	1	1	0	1	0	0	1	1	1						
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	乳腺専門医（日本乳癌学会）	0	0	1	0	0	1	1	1	1						
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	検診マンモグラフィ読影認定医（日本乳がん検診精度管理中央機構）				0	0	1	0	0	0						
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	肝臓専門医（日本肝臓学会）				0	1	0	1	1	0						
	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	4年	日本メディカルAI学会 公認資格（日本メディカルAI学会）							0	0	1						

コースを開設している大学・研究科・専攻名	コース名	修業年限	④受験・合格・資格取得者数														
			学会等認定資格名	H29			H30			R1			R2			R3		
				受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数
三重大学医学系研究科生命医科学専攻	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	4年	認定血液専門医 （日本血液学会）	1	1	1	1	1	1	1	1	1						
	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	4年	総合内科専門医 （日本内科学会）				1	1	1	0	0	0						
三重大学医学系研究科生命医科学専攻	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	4年	外科専門医 （日本乳癌学会）	2	2	2	0	0	0	0	0	0						
	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	4年	乳腺専門医 （日本乳癌学会）							1	1	1						
三重大学医学系研究科生命医科学専攻	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医 （日本婦人科腫瘍学会）	1	1	1	2	2	2	0	0	0						
三重大学医学系研究科生命医科学専攻	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	4年	放射線治療専門医 （日本医学放射線学会）				1	1	1	0	0	0						
三重大学医学系研究科看護学専攻	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	2年	がん看護専門看護師 （日本看護系大学協議会）	2	2	2	1	1	1	2	2	2						
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	肝臓専門医 （日本肝臓学会）	1	1	1	0	0	0	0	0	0						
	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	日本消化器外科学会専門医				1	1	1	0	0	0						
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	4年	日本医療薬学会認定薬剤師				2	2	2	0	0	0						
	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	4年	2019/01 日本医療薬学会認定　がん指導薬剤師取得				1	1	1	0	0	0						
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	日本内視鏡外科学学会　技師認定医（胆道）				1	0	0	0	1	1						
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	4年	日病薬病院薬学認定薬剤師				1	1	1	1	1	1						
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	がん治療認定医 （日本がん治療認定医機構）				1	0	0	0	1	1						
	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	4年	日本内視鏡外科学学会　技師認定医				1	0	0	0	1	1						
大阪医科大学医学研究科医学専攻	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	4年	日本消化器病学会専門医 （日本消化器病学会）							1	1	1						
	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース	4年	内科認知医 （日本内科学会）							1	1	1						
大阪医科大学医学研究科医学専攻	放射線療法専門医養成コース	4年	放射線科専門医 （日本医学放射線学会）							1	1	1						
大阪医科大学医学研究科医学専攻	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	JBCT日本がん治療認定医機構 がん治療認定医試験	0	0	0	2	2	2	1	1	1						
	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	日本産科婦人科学会　専門医	1	1	1	0	0	0	2	2	2						
	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	日本癌治療認定医							1	1	1						
	婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース	4年	日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医							1	1	1						
京都薬科大学薬学研究科薬学専攻	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	4年	がん専門薬剤師 （日本医療薬学会）	0	0	0	1	0	0	1	0	0						

資料 3

令和元年度　がんプロ履修生調査（要望・改善点）

【京都大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	在学中の海外研修費の支援は大変助かりました。 海外合同教育セミナーは参加できませんでしたが非常に興味深かったので卒業生も参加できると嬉しいです。	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
2	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	「研究発表旅費助成について」：勉学を行うにあたり非常に助かっている。今後も継続して頂けるとありがたい。「今後のがんプロのあり方について」：他学開催の勉強会は異なる学風に触れることも非常に刺激になった。残念ながら参加人数が限られてしまうため、今後はリモートの参加もできるとありがたい。	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
3	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	最先端のがん基礎研究の講義またはシンポジウム、意見交換会などの企画があればぜひ参加したいと思いました。	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
4	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	海外研究発表旅費助成をしていただき、非常に助かりました。	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
5	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	貴重な機会をありがとうございました。	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
6	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	E-ラーニング講義について、もっと最新の知見を踏まえたものを提供して欲しい。	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
7	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	学会発表や出張などなく、特に要望などありません	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
8	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	「研究発表旅費助成について」は、海外学会で発表機会が得られてありがたい。「E－ラーニング講義について」は近年のがん治療の進歩は非常にはやく講義内容を常にUpdateする必要があると考えられる。「臨床腫瘍学会での教育セミナー等聴講すること」や「全国のガンプロで合同でE-ラーニングを作成すること」等により常にUpdateされた内容になるような方策を検討することが望ましいと考えます。	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
9	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成の継続を是非ともよろしくお願い致します。	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース
10	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	ガンプロフォーラムでは、他癌腫での研究内容を拝聴することができ、大変有用でした。今年はオンラインでも開催されることを楽しみにしております。	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース
11	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成をいただき、ありがとうございました。今後も研究を進めて積極的に発表を行いたいと思います。5大学連携医療フォーラムは他大学・他学部の方のお話が聞けてよかったです。滋賀医大の縣先生のご講演が勉強になりました。E-learnig講義は今後もっと活用したいです。	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース
12	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	第3回国際がん研究シンポジウムにて、best presenter awardを受賞させていただきました。本シンポジウムを主催された皆様に感謝申し上げます。これからも大学間のがんプロの枠組みを超えて、研究会・シンポジウム等が開催されることを期待しております。	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース
13	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	e-ラーニングがアップデートされた点に感謝しております。	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース
14	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	eラーニングがとても勉強になりました。	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース
15	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費の助成は非常にありがたく、継続していただきたいと思います。	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース

16	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費補助については、発表のモチベーションになりますので大変助かっています。	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
17	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	体調不良のため途中から休学しており、十分に学会などに参加できておりませんが、がんプロに関しては支援をしてくださりありがたく感じております。	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
18	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	全般的に満足しております。ありがとうございます。	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
19	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	旅費助成等のご高配頂きありがとうございます。昨年度は5大学連携医療フォーラム参加できませんでしたが、今年度はぜひ参加したいです。	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
20	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	海外学会(DDW)での口演での発表に際して、旅費補助を頂けなかったことが、とても残念でした。抗がん剤の副作用の克服を目指す基礎実験に関する発表であり、目標にしていた海外学会での筆頭演者での口頭発表でもあったので、助成が頂ければ引き続き海外学会で発表していくモチベーションに繋がったことを考えると、やはり残念でなりませんでした。今後は、審査基準をもう少し明確にして頂きたいです。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
21	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	学会渡航費の支援において、学会抄録の受理のタイミングと出願期間が乖離している。予算をできるだけ多くの参加者に分配したのかもしれないが、ある程度随時応募できる柔軟性も欲しい。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
22	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	なかなか応募する機会は少ないですが、旅費助成、海外合同教育セミナーについて今後も継続していただけると助かります。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
23	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	非常に満足	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
24	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	様々な教育システムに関して満足しております。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
25	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成について、2回以上いただきました。ありがとうございました。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
26	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	特に不満なございません。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
27	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	今後、癌領域の研究を目指す。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
28	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	今年度はセミナー等への積極的参加ができなかった。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
29	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	いつもありがとうございます。特に要望はございません。今後ともよろしくお願い申し上げます。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
30	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	要望はとくにありません	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成
31	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	適宜、知識や情報を得る機会を与えてくださって、ありがとうございます。	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成
32	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	多職種でのディスカッションは研究を俯瞰して考えられる点で大変勉強になります。5大学連携のフォーラムも同じくとてもいい機会だと思いますので、今後は頻度を増やして他大学や医療機関とも交流できると嬉しいです。	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成
33	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	平成31年度は、がんプロの旅費助成を賜り、米国で学会発表を行うことができました。心より感謝申し上げます。また、がんプロ関連セミナーやフォーラムでは臨床から基礎研究まで、様々な分野の講演や発表を聞くことができ、いつも大変勉強になります。	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース

34	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	E-ラーニング講義について がんについて様々な診療科の先生方の講義を聴講することができ、普段聞くことのできないお話でとても勉強になりました。	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース
35	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	コメディカルには参加の敷居が高いものが多い	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース
36	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	平素より丁重にご支援くださり、大変満足しております。 追加の要望や改善点は特にございません。	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース
37	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	5大学連携医療フォーラムは、他大学の活動状況を伺う貴重な機会でした。E-ラーニング講義は、H30年度に受講した時点では、5年以上経過した動画配信もあったのでアップデートして頂けるとより良いかと感じました。5大学連携短期研修プログラムは非常に学びは多かったのですが医師向けに構成されている印象で、看護師として参加することに非常にハードルが高いなあと感じました。今後は講師陣が他職種で構成されるとより多角的なディスカッションが可能になるのではないかと感じました。	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース
38	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	海外合同教育セミナーにより，国際的な視野を持った活動を行うことができる。2020年度の参加を予定していたが、来年度以降も機会があれば積極的に参加したい	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース
39	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	e-learningの各論の講義動画を最新の情報にアップデートして頂けるとなお良いかと思います。	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース
40	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	e-learningは勉強になりました。	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース

【三重大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度（要望・改善点、満足店）	合同シンポジウムや著名な先生方の講演の機会が定期的にあり、魅力的ではあったが、日時が合わず参加できなかった。その点、e-learningでの講義はどこでも受講可能なので、今後活用してきたいと考えている。	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース
2	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	様々なセミナーがあり興味深かったのですが、金曜日の開催が多く都合が合わない事が多いのが残念でした。	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース
3	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	がん医療における最新の知見とエビデンスに基づいた援助論を学ぶ機会となった。	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース

【滋賀医科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度（要望・改善点など）	金銭面での補助が昨年から少なくなっており、学会参加に制限が生じているため改善していただきたいです。	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース

【大阪医科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	5大学連携　医療フォーラムに参加させて頂きましたが他大学の大学院生と話し合う機会が普段ないためとても刺激になりいい機会でした。今後も是非参加させて頂きたいと思いました。	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース
2	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成について把握できておらず、申請もできていませんでした。 海外合同教育セミナーについては中止となり残念です。 がんプロのプログラム内容を正確に把握する機会が欲しいです。	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース
3	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	現状で良いと思います。	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース

4	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	満足しています。	ライフステージに応じた 化学療法専門医養成コース
5	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	特にありません。	希少がんに関する放射線治療を担う 人材養成コース

【京都薬科大学】

NO.	項目	要望、改善点等	コース名
1	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	大変満足しております。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
2	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	概ね満足しております。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
3	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	研究発表旅費助成には非常に満足しております。学会で発表するモチベーションにもつながっております。昨年度に海外合同教育セミナーに参加し、フランスのパリの方に行きましたが、有益な情報が手に入り、パリの雰囲気も良くよかったです。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
4	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	実施されたカリキュラムについては大変満足しています。今年度は天災やコロナの影響で予定していた学会等がなくなってしまったうえに、病院での研修も今後実施できるかが不安な状況なので、その部分の取り扱いについて早めに教えていただければ幸いです。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
5	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	十分満足している。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
6	がんプロ事業への満足度（要望、改善点、満足点）	Eーラーニング講義は、様々ながんや治療について学ぶのに非常に役立っています。	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース

学生短期研修

資料 4

がんに特化した講座の設置状況

大学名	名称	分類	目的	体制	総計	専任						兼任						設置年月
						計	教授	准教授	講師	助教	その他	計	教授	准教授	講師	助教	その他	
京都大学	京都大学大学院医学研究科医学専攻腫瘍薬物治療学分野	化学療法	1）化学療法を中心とした高度ながん治療を展開する 2）化学療法を中心とした新しいがん医療の開発研究を推進する化学療法を中心とした優れたがん医療の専門医を養成する	[計画] 教授1(専任)、准教授1(専任)、助教1(専任)	3	3	1	1		1		0						H24.09
				[実施] 教授1（専任）、准教授1（専任）、講師1（専任）、助教2（兼任）	5	3	1	1	1			2				2		
三重大学	三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻放射線腫瘍学講座	放射線療法	医学部、大学院での放射線治療の教育を充実させることにより、放射線治療医の育成を強化し、三重県の放射線治療レベルの向上に貢献することを目的とする。	[計画] 教授1名(専任)、助教1名(専任)	2	2	1			1		0						H24.04
				[実施] 教授1名(兼任)、助教1名(専任)	2	1				1		1	1					
滋賀医科大学	滋賀医科大学医学部臨床腫瘍学講座	化学療法 その他	最新のがん薬物療法を促進するとともに、がんの予防、診断、治療の面から高度先進がん医療の研究・臨床展開と教育を通じたがん専門医・医療スタッフの育成を推進し、社会に貢献する。	[計画] 教授(専任)1名、講師(専任)2名、助教(専任)1名	4	4	1		2	1		0						H24.10
				[実施] 教授(専任)1名、 講師(専任)3名、 講師(兼任)2名、 助教(兼任)1名	7	4	1		3			3			2	1		
大阪医科大学	大阪医科大学医学研究科医学専攻放射線腫瘍学教室	放射線療法	医学の発展に放射線医学がどのように関わり、貢献しうるかを明らかにするために放射線医学全般に関する造詣を深め、放射線腫瘍学の進歩に貢献することを目的とした研究を行う。放射線腫瘍学を軸として、生物学的、物理学的要素を加味し、悪性腫瘍の治療成績の向上と副作用の軽減を目的とした研究を行わせる。	[計画] 教授（専任）1名、准教授（専任）1名　、講師1名、助教3名	4	4	1	1	1	3								R1.08
				[実施]　教授（専任）1名、准教授1名、講師1名、助教1名	4	4	1	1	1	2								

資料 5

セミナー・シンポジウム等の開催状況（令和元年度）

※「参加大学数」は、京大拠点（京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学）以外の大学等を示す。

※「学内参加者数」は、主催大学以外の京大拠点（京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学）の大学を含む。

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	目標			開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	うち拠点外大学数
【達成目標調査作成時】										
1	がんプロ5大学連携「医療フォーラム」	京都大学	1	120	5	1	71	2	0	0
2	がんプロ5大学連携合同教育セミナー	京都大学	1	35	5	1	8	0	0	0
3	がんプロ腫瘍セミナー	京都大学	2	50	1	2	51	108	4	0
4	がんプロ特別講演	京都大学	7	280	1	5	87	106	8	1
5	京都府立医科大学・京都大学連携「府民公開講座」	京都大学	1	220	2	0				
6	がんリハビリテーション特別講演	京都大学、近畿大学	2	70	1	1	5	65	0	0
7	京都がん研究会	京都大学	2	100	1	1	47	5	0	0
8	京都乳がん市民公開講座	京都大学	1	50	1	0				
9	骨転移セミナー	三重大学	1	50	1	0				
10	早期からの緩和ケアを考える会	三重大学	1	50	1	1	29	21	0	0
11	医科歯科連携推進人材養成研修会	三重大学	1	120	1	1	10	142	0	0
12	緩和ケアセミナー	三重大学	1	60	1	3	83	115	5	3
13	がんチーム医療研究会	三重大学	1	90	1	1	27	19	1	1
14	膵がん撲滅パープルリボンウオーク・セミナー	三重大学	1	100	1	1	45	345	0	0
15	三重がん看護フォーラム	三重大学	1	100	2	1	7	63	5	4
16	三重大ELNECコアカリキュラム	三重大学	1	80	2	1	3	65	1	1
17	三重がん看護専門看護師会議	三重大学	12	180	2	12	58	170	2	1
18	滋賀がん医療講演会	滋賀医科大学	3	60	1	3	167	11	0	0
19	滋賀がん市民公開講座	滋賀医科大学	4	40	1	6	25	120	0	0
20	滋賀がん医療啓発フォーラム	滋賀医科大学	1	80	1	0				
21	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース（地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース）	滋賀医科大学	2	200	1	1	10	66	0	0
22	滋賀県がん薬物療法conference	滋賀医科大学	3	90	1	1	4	32	0	0
23	若年がんを考える会（小児・AYA世代のがん患者を支える公開セミナー）	滋賀医科大学	2	40	1	1	10	30	0	0
24	市民公開講座(乳がんまたは消化器がん)	滋賀医科大学	1	120	1	2	13	272	0	0
25	滋賀癌化学療法研究会	滋賀医科大学	1	50	1	1	12	33	0	0
26	三島医療圏がん診療ネットワーク協議会	大阪医科大学	2	70	1	2	36	65	0	0
27	三島圏域がん研究会	大阪医科大学	2	200	1	3	61	211	0	0
28	大阪医科大学　市民公開講座	大阪医科大学	1	70	1	1	11	111	0	0
29	薬剤師卒後セミナー	京都薬科大学	1	150	1	1	62	62	4	2
30	薬学研究者養成セミナー	京都薬科大学	1	50	1	2	170	5	3	1
31	がん専門薬剤師によるキャリアパスセミナー	京都薬科大学	1	50	1	1	53	26	2	1
32	市民公開講座 （コロナウィルス感染防止のため中止）	京都薬科大学	1	100	1	0				
33	地域医療機関との合同セミナー	京都薬科大学	1	50	1	1	98	28	3	2
	No1～33の計		64	3,175	45	58	1,263	2,298	38	17

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	目標			開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	うち拠点外大学数
【達成目標調査作成時以降】										
34	がんゲノム医療講演会 in Kyoto	京都大学				1	54	69	2	0
35	2019年度 近畿地区3拠点合同フォーラム	京都大学、大阪大学、近畿大学				1	15	86	7	0
36	～医療者向けがんセミナー～AYA世代がん経験者のトータルケアについて	京都大学				1	75	5	0	0
37	薬剤師（研究者）養成コース会議	京都大学				1	12	23	4	0
38	MIE Lung Cancer Forum	三重大学				2	12	38	0	0
39	三重メディカル・オンコロジー・フォーラム	三重大学				1	31	21	0	0
40	前立腺癌治療　特別講演会	三重大学				1	27	9	1	1
41	三重県産婦人科腫瘍研究会	三重大学				1	9	34	0	0
42	骨髄腫セミナーin MIE	三重大学				1	12	10	0	0
43	三重肺癌研究会	三重大学				2	20	30	1	1
44	三重がん・生殖医療セミナー	三重大学				1	51	50	7	7
45	患者の意思を尊重した意思決定のための研修会	三重大学				1	5	46	6	5
46	三重リンパ腫フォーラム	三重大学				1	20	26	0	0
47	がん就労支援セミナーin 三重	三重大学				1	13	35	0	0
48	Pneumonitis Management Academy in Mie	三重大学				1	7	26	0	0
49	MIE Breast Cancer Symposium	三重大学				1	13	11	1	0
50	MIE Ovarian Cancer Symposium	三重大学				1	11	22	0	0
51	血液疾患 Update in Mie	三重大学				1	11	9	0	0
52	Mie Gynecologic Oncology Abend 2019	三重大学				1	19	8	0	0
53	緩和ケア医が、がんになって 「あきらめる、そしてがんばる」	三重大学				1	244	13	1	1
54	外来化学療法部　第9回　がん薬物療法セミナー	三重大学				1	45	1	0	0
55	医科生物学セミナー	三重大学				1	12	6	2	2
56	がんゲノム医療講演会	三重大学				2	79	23	2	0
57	令和元年度がん薬物療法における薬薬連携研修会	三重大学				2	20	203	0	0
58	「暮らしの保健室」に通う方にがんが見つかった事例に学ぶ	三重大学				1	24	23	0	0
59	三重乳腺診断フォーラム	三重大学				1	15	73	0	0
60	がん医療に携わる医師に対するコミュニケーション技術講演会	三重大学				1	6	0	0	0
61	対人援助スピリチュアル研修	三重大学				1	3	1	0	0
62	Lymphoma Seminar in MIE	三重大学				1	18	25	3	3
63	Breast Cancer Expert Meeting in MIE	三重大学				1	13	22	0	0
64	摂食・嚥下リハビリテーションと口腔管理	三重大学				1	10	142	1	1
65	血液腫瘍フォーラム	三重大学				1	20	9	2	2
66	三重乳腺疾患治療研究会	三重大学				1	10	22	0	0
	No34～66の計		0	0	0	37	936	1,121	40	23

No	セミナー・シンポジウムの名称	主催大学	目標			開催実績				
			開催回数	参加者数	参加大学数	開催回数	学内参加者数	学外参加者数	参加大学数	うち拠点外大学数
67	がん診療のトータルマネジメント	三重大学				1	14	14	1	1
68	三重リンパ腫フォーラム	三重大学				1	16	17	1	1
69	ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー	滋賀医科大学				1	14	14	1	1
70	滋賀医科大学公開講座 がんの遺伝子を知り、がん克服を目指す	滋賀医科大学				1	16	17	1	1
71	東近江圏がん診療公開講座	滋賀医科大学				1	22	63	0	0
72	疼痛緩和トータルケア	滋賀医科大学				1	0	47	0	0
73	薬理ゲノミクスセミナー	滋賀医科大学				2	22	234	0	0
74	医薬品安全使用研修会	滋賀医科大学				1	2	46	0	0
75	家族腫瘍カンファレンス	滋賀医科大学				1	9	31	0	0
76	がん患者サロン　ひだまり	大阪医科大学				1	33	1	0	0
77	第7回市民公開セミナー　11/2	大阪医科大学				8	67	2	0	0
78	第2回緩和ケアセンター勉強会　10/9	大阪医科大学				4	40	152	0	0
79	生命薬科学系病態生理学分野セミナー	京都薬科大学				1	7	75	0	0
80	フィジカルアセスメント講座	京都薬科大学				1	9	55	0	0
81	リレー・フォー・ライフ・ジャパン2019 京都	京都薬科大学				3	159	1	1	0
82	遺伝子・ゲノムセミナー	京都薬科大学				3	4	103	1	0
83	2019年度　実務支援セミナー	京都薬科大学				1	20	230	1	2
84	Immuno-Oncology Symposium	京都大学	新型コロナウイルス感染症拡大により中止							
85	第3回　地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース	京都大学	新型コロナウイルス感染症拡大により中止							
86	第5回三重がん放射線治療研究会	三重大学	新型コロナウイルス感染症拡大により中止							
87	MIE　Lung　Cancer Foru　m2020	三重大学	新型コロナウイルス感染症拡大により中止							
88	市民公開講座　口腔ケアについて	三重大学	新型コロナウイルス感染症拡大により中止							
89	大阪医科大学付属病院　がん医療総合センター第8回市民公開セミナー	大阪医科大学	新型コロナウイルス感染症拡大により中止							
	第5回市民公開講座「放射線治療」	京都薬科大学	新型コロナウイルス感染症拡大により中止							
	No66～89の計		0	0	0	32	454	1102	7	6
	合　計		64	3,175	45	127	2,653	4,521	85	46

海外合同教育セミナー

資料 6

令和元年度　インテンシブコース実施事業

（　）の数字は参加人数

【京都大学】

がん免疫療法と新規分子標的薬・生物製剤治療を担う医療人育成コース（インテンシブ）	
19/05/07	リキッドバイオプシーセミナー（31）
高度放射線治療を担う人材養成コース（インテンシブ）	
19/10/12	第48回 京都放射線腫瘍研究会プログラム（74）
20/02/15	第49回 京都放射線腫瘍研究会プログラム（85）
地域がん医療における病院－薬局－在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース（インテンシブ）	
20/02/07	第3回 2025年に向けた薬剤師業務研究会in京都（72）
20/02/29	第3回 地域がん医療における病院–薬局–在宅の連携強化・推進に取り組む薬剤師養成コース（新型コロナウイルス感染症の懸念のため開催中止）
様々なニーズに対応できるがん化学療法チーム養成コース（インテンシブ）	
2020年1～3月	3回程度開催予定　新型コロナウイルス感染症の懸念のため中止
家族性腫瘍（遺伝子乳がん卵巣がん症候群やリンチ症候群など）に対応できる医療人育成コース（インテンシブ）	
19/05/24	がんゲノム医療の臨床実装と課題（45）
19/10/25	家族性腫瘍における家族間リスクコミュニケーション（40）
19/11/22	がんゲノム医療における遺伝診療部門の役割（38）
ビックデータ医科学を担う人材育成コース（インテンシブ）	
	新型コロナウイルス感染症の懸念のため開催中止

【三重大学】

地域のがん薬物治療を支える薬剤師養成コース（インテンシブ）

19/11/17	令和元年度 第1回がん薬物療法における薬薬連携研修会（104）
20/02/02	令和元年度 第2回がん薬物療法における薬薬連携研修会（119）

ライフステージに応じた緩和ケアを実践できる人材育成コース（インテンシブ）

19/05/16	早期からの緩和ケアを考える会 （50） 多職種
19/05/26	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会（1日間）（26） 多職種
19/07/25	第20回緩和ケアセミナー（99） 多職種
19/08/25	緩和ケアフォローアップ研修（患者の意思を尊重した意思決定のための研修会（46） 多職種
19/10/24	第21回緩和ケアセミナー（56名） 多職種
20/01/12,13	がん診療に携わる医師のためのコミュニケション技術研修会（6） 医師
20/01/23	第22回緩和ケアセミナー（43） 多職種
20/02/09,25,03/15	対人援助・スピリチュアルケア研修①(3日間)（4） 多職種

ライフステージ・地域特性に応じたがん治療を提供するがん治療医養成コース（インテンシブ）

19/04/10	第124回 Tumor Board（49）
19/04/22	骨軟部腫瘍カンファレンス「症例検討」(20)
19/05/15	第125回 Tumor Board（51）
19/05/20	骨軟部腫瘍カンファレンス「症例検討」(18)
19/06/12	第126回 Tumor Board（68）
19/06/17	骨軟部腫瘍カンファレンス「症例検討」(18)
19/07/10	第127回 Tumor Board（45）
19/07/15	骨軟部腫瘍カンファレンス「症例検討」(19)
19/07/25	第20回 三重大学緩和ケアセミナー（99）
19/07/27	三重肺癌研究会（22）
19/08/25	患者の意思を尊重した意思決定のための研修会（51）
19/09/11	第128回 Tumor Board（46）
19/09/13	第24回チーム医療研究会（61）
19/09/16	骨軟部腫瘍カンファレンス「症例検討」(20)
19/10/09	第129回 Tumor Board（57）
19/10/21	骨軟部腫瘍カンファレンス「症例検討」(18)
19/10/24	第21回 三重大学緩和ケアセミナー（56）
19/11/06	第130回 Tumor Board（41）
19/11/18	骨軟部腫瘍カンファレンス「症例検討」(19)

19/12/11	第131回　Tumor Board（42）
19/12/16	骨軟部腫瘍カンファレンス「症例検討」(19)
20/01/08	第132回　Tumor Board（56）
20/01/20	骨軟部腫瘍カンファレンス「症例検討」(18)
20/01/26	医科歯科連携研修会（152）
20/02/12	第133回　Tumor Board（63）
20/02/17	骨軟部腫瘍カンファレンス「症例検討」(17)

ゲノム情報を活用したがん診療に従事する人材養成コース（インテンシブ）

毎週火曜日	エキスパートパネル
毎週火曜日、水曜日	遺伝カウンセリング

【滋賀医科大学】

ライフステージに応じた包括的・全人的がん医療を担う医療従事者養成コース（インテンシブ）

19/06/27	第1回がんを学ぼう市民公開講座
19/07/24	第2回がんを学ぼう市民公開講座
19/08/29	第3回がんを学ぼう市民公開講座
19/09/30	第4回がんを学ぼう市民公開講座
19/10/09	第１回腫瘍センター講演会
19/10/27	第11回東近江圏がん診療公開講座
19/10/28	第5回がんを学ぼう市民公開講座
19/10/30	第2回腫瘍センター講演会
19/11/27	第6回がんを学ぼう市民公開講座
19/12/01	第12回東近江圏がん診療公開講座
20/01/27	疼痛緩和トータルケア2020
20/02/19	第3回腫瘍センター講演会

ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師コース（インテンシブ）

19/06/13	第5回ハイリスクがん患者がん薬物療法セミナー
19/08/25	第20回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース
19/11/06	第21回滋賀県がん薬物療法CONFERENCE
20/01/29	第3回医薬品安全使用研修会
20/02/02	第3回薬理ゲノミクスセミナー

資料 7

令和元年度に導入された医療チーム

大学名	名称	分類	活動内容	備考
三重大学	AYAがんチーム	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	小児科、腫瘍内科、産婦人科、緩和ケア科、小児トータルケアセンターからなる集学的診療体制	

医療チームの整備体制（令和元年度）

大学名	名称	分類	活動内容	備考
京都大学	脳腫瘍／ 小児脳腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	脳外科・放射線治療科・小児科合同による集学的がん診療	
京都大学	前立腺がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	泌尿器科・放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	肺がん/ 中皮腫ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	乳がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	乳腺外科、外来化学療法部、放射線治療科、放射線診断科、病理診断部、集学的がん診療部からなる集学的診療体制を構築	
京都大学	食道がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	消化管外科、消化器内科、腫瘍内科、放射線治療科、耳鼻科・頭頸部外科からなる集学的診療体制	
京都大学	膵臓がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	肝胆膵・移植外科、消化器内科、放射線治療科、腫瘍内科による集学的がん診療	
京都大学	血液腫瘍ユニット	「化学療法」 「放射線療法」	血液腫瘍に関する血液内科、 放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	緩和ケアチーム ユニット	「緩和ケア」	多職種横断的なチームによる診療と支援	
京都大学	頭頸部がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	耳鼻咽喉科・頭頸部外科、放射線治療科、腫瘍内科合同による集学的がん診療	
京都大学	胃がん/ GISTユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	消化管外科、消化器内科、腫瘍内科による集学的がん診療	
京都大学	小児がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	小児腫瘍に関する横断的ながん療法	
京都大学	大腸がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	腫瘍内科、消化器内科、消化管外科、肝胆膵・移植外科、放射線治療科による集学的がん診療	
京都大学	原発不明がん／ 希少がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」	診療科横断的かつ迅速な治療方針の決定と治療の実践	
京都大学	家族性腫瘍ユニット	「その他」	遺伝相談も含めたチーム医療	
京都大学	婦人科腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「その他」	婦人科腫瘍に関する診療科横断的チーム医療	
京都大学	NET（内分泌細胞 腫瘍）ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	非がん領域の診療科も含めたチーム医療	

京都大学	メラノーマユニット	「化学療法」 「その他」	免疫チェックポイントに阻害剤に関するチーム医療	
京都大学	クリニカルシークエンス ユニット	「化学療法」 「その他」	遺伝子解析に基づくゲノム医療に関するチーム医療	
京都大学	放射線治療 医療チーム	「放射線療法」 「緩和ケア」	臓器横断的な放射線治療の教育と実践	
京都大学	薬物治療チーム	「化学療法」 「緩和ケア」	がん薬物療法専門医の育成、がん薬物療法のレジメン管理	
京都大学	骨転移ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	整形外科、放射線治療科、乳腺外科、泌尿器科による集学的がん診療	
京都大学	胆道がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	消化器内科、肝胆膵・移植外科、腫瘍内科、放射線診断科、放射線治療科による集学的診療	
京都大学	OncoNephrology ユニット	「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	腎臓内科、腫瘍内科、薬剤部によるがん領域と腎臓領域の両面から連携したチーム医療	
三重大学	口腔ケアチーム	「緩和ケア」	がん治療前の口腔ケア	
三重大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	がん患者のトータルな緩和医療 麻酔科医、鍼灸師も加わった多職種による緩和医療	
三重大学	栄養サポートチーム	「その他」	がん患者の栄養管理	
三重大学	褥瘡チーム	「その他」	がん患者の褥瘡管理	
三重大学	乳癌治療検討会	「放射線療法」 「化学療法」	1回/2週、放射線科、腫瘍内科、乳腺外科で乳癌患者の治療方針を検討	
三重大学	乳腺疾患術後 検討会	「その他」	1回/2週、乳腺疾患術後の病理結果を病理、乳腺外科で検討	
三重大学	乳房MRI検討会	「その他」	1回/週、乳房MRIの画像診断を放射線科、乳腺外科で検討	
三重大学	乳腺疾患検討会	「その他」	1回/月、放射線科、病理、乳腺外科で術後症例の画像・病理について勉強	
三重大学	膵がん教室	「化学療法」	医師、薬剤師、管理栄養士、看護師、ソーシャルワーカー、臨床心理士による膵がん教室を月2回実施	
三重大学	内科小児科合同 移植カンファレンス	「化学療法」	血液内科医、小児科医、輸血部医、薬剤師、看護師による、治療、移植等ミーティング1回/月実施	
三重大学	がん免疫療法対策 チーム	「化学療法」	診療科横断的、多職種の連携によるがん免疫療法のチーム医療	
滋賀医科大学	化学療法チーム	「化学療法」	医師6名、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	
滋賀医科大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	
大阪医科大学	緩和ケア室	「放射線療法」	がん患者の痛みや心のケアに関するチーム医療	
大阪医科大学	化学療法センター	「化学療法」	主に消化器がん、腎がん、原発不明がんに関するチーム医療	

資料 8

キャンサーボードの体制

【京都大学】

区分	キャンサーボード名	がん種	主な診療科名	メンバー職名・職種（◎:リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	脳腫瘍・小児脳腫瘍ユニットカンファレンス	脳腫瘍	脳神経外科 放射線治療科 小児科	◎脳神経外科医　放射線治療医　小児科医 看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
2	前立腺がんユニットカンファレンス	前立腺がん 精巣がん 陰茎がん	泌尿器科 放射線治療科	◎泌尿器科医、放射線治療科医、画像診断科、病理部門、看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
3	肺がんユニットカンファレンス	肺がん 悪性中皮腫 縦隔腫瘍	呼吸器内科 呼吸器外科 放射線治療科 放射線診断科	◎呼吸器内科医、呼吸器外科医、放射線治療科医、放射線診断医	集学的治療を要する患者の治療方針検討、他科への治療依頼、治療難渋例についてのディスカッション	25%未満実施
4	乳がんユニットカンファレンス	乳がん	乳腺外科 放射線治療科 放射線診断科 病理診断科	◎乳腺外科医、腫瘍内科医、放射線治療科医、放射線診断科医、病理診断科医、整形外科医、形成外科医、遺伝子診療部	新規、継続治療患者のの治療並びに診断の標準化を行う。	全例実施
5	食道がんユニットカンファレンス	食道がん	消化管外科 消化器内科 放射線治療科 腫瘍内科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	◎消化管外科医、消化器内科医、放射線治療科医、耳鼻科・頭頚部外科医、腫瘍内科医、理学療法士	新規治療開始患者および再発患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
6	膵臓がんユニットカンファレンス	膵がん	肝胆膵・移植外科 消化器内科 放射線治療科 放射線診断科 腫瘍内科 遺伝子診療部	◎肝胆膵・移植外科医、腫瘍内科医、放射線治療科医、放射線診断科医、消化器内科医、精神科医、看護師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
7	血液腫瘍ユニットカンファレンス	造血器腫瘍	血液内科 放射線治療科	◎血液内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
8	緩和ケアチームユニットカンファレンス	全種	緩和医療科 各診療科	◎緩和ケア医、精神科医、各診療科医、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、作業療法士	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針・療養場所の選択の検討および経過報告をする。	20～30%実施
9	頭頚部がんユニットカンファレンス	頭頸部がん	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 放射線治療科 腫瘍内科	◎耳鼻咽喉科・頭頸部外科医、放射線治療医、腫瘍内科医	新規患者の検討をする。	全例実施
10	胃がん・GISTユニットカンファレンス	胃がん 消化管間質腫瘍（GIST）	消化器内科 消化管外科 放射線治療科 腫瘍内科	◎腫瘍内科医、消化管外科医、消化器内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
11	小児がんユニット カンファレンス	骨軟部腫瘍 神経芽腫などの小児がん	小児科 整形外科 小児外科 眼科 耳鼻咽喉科 泌尿器科	◎小児科医、整形外科医、 必要時：小児外科医、耳鼻咽頭科医、泌尿器科医、眼科医	新規治療開始患者、治療中患者の治療方針決定および経過報告をする。	全例実施
		小児脳腫瘍	小児科 脳外科 放射線治療科	◎小児科医、脳外科医、放射線治療科	新規治療開始患者、治療中患者の治療方針決定および経過報告をする。	全例実施
12	大腸がんユニットカンファレンス	大腸がん	腫瘍内科 消化器内科 消化管外科 肝胆膵・移植外科 放射線治療科	◎腫瘍内科医、消化器内科医、消化管外科医、肝胆膵移植外科医、放射線治療科医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満

13	原発不明がん・希少がんユニットカンファレンス	原発不明がん 希少がん	腫瘍内科 病理診断科 放射線診断科 放射線治療科 呼吸内科 小児科 消化器内科 整形外科	◎腫瘍内科医、消化器内科医、病理診断科医、小児科医、呼吸器内科医、婦人科医、放射線治療医、放射線診断医、肝胆膵移植外科医、消化管外科医、乳腺外科医、整形外科医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
14	骨転移ユニットカンファレンス	転移性骨腫瘍	ウイルス・再生医学研究所 整形外科 放射線治療科 呼吸内科 リハビリテーション科	◎整形外科医、乳腺外科医、放射線治療医、泌尿器科医	新規対象患者の診断、治療方針の決定、治療中患者の方針の検討および経過報告をする。	50%以上75%未満
15	家族性腫瘍ユニットカンファレンス	家族性腫瘍	遺伝子診療部 産科・婦人科 乳腺外科 泌尿器科 眼科	◎遺伝子診療部、臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラー	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
16	婦人科腫瘍ユニットカンファレンス	子宮がん 卵巣がん 外陰がん	産科婦人科	◎婦人科医、放射線治療医、放射線診断医、病理医、看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
17	NET（神経内分泌腫瘍）ユニットカンファレンス	神経内分泌腫瘍	肝胆膵・移植外科 腫瘍内科 糖尿病・内分泌・栄養内科 消化器内科 放射線診断科	◎肝胆膵移植外科医、腫瘍内科医、消化器内科医、内分泌代謝内科医、放射線診断科医、放射線治療医	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施
18	メラノーマユニットカンファレンス	悪性黒色腫	皮膚科 耳鼻科 腫瘍内科 産科婦人科 薬剤部	◎皮膚科医、腫瘍内科医、病理診断医、薬剤師	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施
19	オンコネフロロジーユニットカンファレンス	腎がん 尿路がん 副腎腫瘍	泌尿器科	◎腎臓内科医、腫瘍内科医、薬剤部	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
20	クリニカルシーケンスユニットカンファレンス	原発不明がん 希少がん 標準治療が終了もしくは収量が見込まれる固形がん	腫瘍内科 病理診断科 遺伝子診療部	◎腫瘍内科医、肝胆膵移植外科医、泌尿器科医、婦人科医、放射線治療医、消化器内科医、消化管外科医、乳腺外科医、整形外科、放射線診断医、臨床遺伝専門医、病理医、バイオインフォマティシャン、ゲノム基礎研究者、認定遺伝カウンセラー、ゲノム医療コーディネーター	クリニカルシーケンス(OncoPrime)を受けた患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
21	胆道がんユニットカンファレンス	胆道がん 胆のうがん 肝がん	肝胆膵・移植外科 消化器内科 腫瘍内科 放射線診断科 放射線治療科	◎肝胆膵移植外科医、消化器内科医、腫瘍内科医、放射線診断科医、放射線治療科医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施

【三重大学】

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種（◎:リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	乳癌治療検討会	乳癌	放射線科　腫瘍内科 乳腺外科	◎乳腺外科医　腫瘍内科医　放射線治療医 薬剤師　看護師	1回/2週、放射線科、腫瘍内科、乳腺外科で乳癌患者の治療方針を検討	全例実施
2	乳腺疾患術後検討会	乳癌	病理　乳腺外科	◎乳腺外科医　病理医	1回/月、乳腺疾患術後の病理結果を病理、乳腺外科で検討	全例実施

3	乳房再建検討会	乳癌	形成外科　乳腺外科	◎乳腺外科医　形成外科医	1回/月、形成外科、乳腺外科で乳房再建予定症例について検討	全例実施
4	乳腺疾患カンファレンス	乳癌	乳腺外科　放射線科　病理	◎乳腺外科医　放射線診断医　病理医　放射線技師　臨床検査技師	1回／2ヶ月、乳腺疾患の画像と病理を対して検討	毎回2～3例
5	がんゲノム医療エキスパートパネル	特定なし	検査部、遺伝子診療科、病理部、腫瘍内科、耳鼻科、消化器内科、消化管外科、産婦人科、看護部	◎医師、看護師、遺伝カウンセラー、	がんパネル検査のデータのディスカッション	
6	Tumor Board	特定なし	放射線診断科、放射線治療科、IVR科、病理部、腫瘍内科、整形外科、緩和ケア科、その他関連する診療科すべて	◎医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、放射線技師、ケースワーカー	1回/月、診断困難例、治療難渋例についての検討	
7	骨転移合同カンファレンス	特定なし	放射線診断科、放射線治療科、IVR科、腫瘍内科、整形外科、緩和ケア科、その他関連する診療科すべて	◎医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、放射線技師	1回/月、骨転移例についての検討	
8	血液腫瘍内科全体症例検討会	造血器腫瘍固形腫瘍	血液内科、腫瘍内科	◎血液内科医、腫瘍内科医、乳腺外科医	1回/週、造血器腫瘍患者、固形腫瘍患者の治療方針を検討	全例実施
9	血液内科検討会	造血器腫瘍	血液内科	◎血液内科医、臨床検査技師	1回/週、造血器腫瘍患者の治療方針を検討	全例実施
10	小児がん検討会	小児がん	小児科	◎小児科医、小児血液専門医	1回/週、小児がん患者の治療方針を検討	全例実施
11	小児造血細胞移植カンファレンス	小児がん	小児科	◎小児科医、小児血液専門医、看護師、薬剤師、管理栄養士	2回/週、小児がんで造血細胞移植患者の治療方針を検討	全例実施
12	小児造血細胞移植前カンファレンス	小児がん	小児科、放射線治療科、緩和ケア科、高度生殖医療センター、栄養部、薬剤部、輸血部、その他関連する診療科すべて	◎医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、放射線技師、管理栄養士、産婦人科医、ケースワーカー	不定期	全例実施

【滋賀医科大学】

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種（◎:リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	腫瘍薬物療法カンファレンス	全固形腫瘍	腫瘍内科　消化器内科　消化器外科　乳腺外科	◎腫瘍センター副センター長、腫瘍内科医、消化器内科医、乳腺外科医、呼吸器内科医、消化器外科医、薬剤師、看護師	新規の入院患者対診、外来初診患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
2	肺癌放射線治療カンファレンス	肺癌	放射線科　呼吸器外科　呼吸器内科	◎放射線科科長、放射線科医、呼吸器外科医、呼吸器内科医	新規入院患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
3	骨髄移植カンファレンス	白血病　リンパ腫	血液内科　小児科	◎血液内科医、血液内科ローテーター、小児科医	移植予定者について前処置薬の検討および移植後患者についての経過報告をする。	全例実施
4	血液疾患カンファレンス	血液全疾患	血液内科　薬剤部　検査部　輸血部	◎血液内科医、病棟看護師、薬剤師、血液検査技師、薬剤部検査技師	全ての入院症例の経過報告と問題点を検討する。	全例実施
5	婦人科癌カンファレンス	婦人科がん	母子・女性診療科　放射線科　薬剤部	◎母子・女性診療科科長、母子・女性診療科医、放射線治療医、	新規入院患者、外来初診患者の治療方針、術式の検討および経過報告をする。	全例実施

6	乳癌カンファレンス	乳癌	乳腺・一般外科	◎乳腺一般外科科長、乳腺外科医、放射線科医、病理医、研修医、学生	新規入院患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
7	胃癌カンファレンス	食道癌　胃癌	消化器内科　消化器外科　放射線科　病理部、光学診療部	◎消化器内科医、消化器外科医、内視鏡医、放射線診断医、病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針の決定および術後経過報告、病理診断報告、術前画像診断の評価などを行う。	全例実施
8	肝胆膵がんカンファレンス	肝胆膵がん	消化器内科　消化器外科　放射線科　病理部、光学診療部	◎消化器外科医、消化器内科医、内視鏡医、放射線診断医、病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針の決定および術後経過報告、病理診断報告、術前画像診断の評価などを行う。	75%以上-100%未満実施
9	大腸癌カンファレンス	大腸癌	消化器内科　消化器外科　放射線科　病理部、光学診療部	◎消化器内科医、消化器外科医、内視鏡医、放射線診断医、病理医、研修医、学生	新規手術患者の治療方針の決定および術後経過報告、病理診断報告、術前画像診断の評価などを行う。	全例実施
10	乳腺カンファレンス	乳癌	乳腺一般外科、放射線科、病理部	◎乳腺一般外科科長、乳腺外科医、放射線科医、病理医、研修医、放射線治療医、近隣病院の乳腺科医、放射線科医、放射線技師	乳癌患者の診断、治療方針を検討する	50%以上-75%未満実施
11	脳腫瘍治療カンファレンス	脳腫瘍	脳神経外科	◎脳神経外科医、学生	脳腫瘍にて入院の患者の治療方針、治療経過ならびに外来患者の治療方針について評価報告する	全例実施
12	泌尿器癌カンファレンス	泌尿器癌	泌尿器科	◎泌尿器科科医、学生	泌尿器癌入院患者の治療方針につき討議する。主な外来抗癌療法患者について評価する。	全例実施
13	耳鼻科放射線科合同カンファレンス	頭頸部癌	耳鼻科　　放射線科	◎耳鼻咽喉科長、耳鼻咽喉科医、放射線治療医、診療放射線技師、看護師	放射線治療を受ける頭頸部癌の治療方針や治療経過について検討、評価する。	全例実施
14	放射線治療カンファレンス	全がん腫	放射線科	◎放射線治療医、診療放射線技師、看護師	放射線治療新規患者の照射範囲・線量の確認や治療中患者の治療方針について検討する。	全例実施
15	緩和ケアカンファレンス	全悪性腫瘍	腫瘍内科　腫瘍センター　精神科　薬剤部　看護部	◎腫瘍内科長・腫瘍センター長、腫瘍内科医、精神科医、がん診療全科医、看護師、薬剤師、理学療法士、MSW	新規の介入患者対診、外来初診患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
16	緩和ケアカンファレンス	頭頸部癌	歯科口腔外科 緩和ケアチーム ソーシャルワーカー	◎歯科口腔外科医、精神科医認定看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー	高齢患者の治療後の療養施設決定のための検討、評価を行う	全例実施
17	皮膚悪性腫瘍カンファレンス	皮膚癌、皮膚原発悪性リンパ腫	皮膚科	◎皮膚科医	入院患者および外来手術患者の治療方針を決定する。	全例実施
18	骨転移カンファレンス	転移性骨腫瘍	整形外科 放射線科	◎整形外科医、放射線科医、乳腺一般外科医、消化器外科医、血液内科医、呼吸器内科医、呼吸器外科医、泌尿器科医、母子女性科医、耳鼻咽喉科医、	骨転移患者の治療方針を決定する	50%以上-75%未満実施
19	小児血液腫瘍多職種カンfワレンス	小児血液腫瘍	小児科　看護部　薬剤部　栄養治療部　リハビリテーション部	◎小児科医、整形外科医、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士	小児血液腫瘍患者の新規入院症例と問題の多い症例を多職種で検討する	全例実施
20	キャンサーボード	原発不明癌	腫瘍センター、呼吸器外科、泌尿器科、消化器外科、消化器内科、放射線科、整形外科、腫瘍内科、病理部、看護部	◎消化器外科医、消化器内科医、呼吸器外科医、泌尿器科医、放射線科医、整形外科医、腫瘍内科医、病理医、医学生、研修医、看護師	大腸癌術後、多発肺腫瘍、多発リンパ節腫瘍のある原発不明の淡明細胞癌症例に対する、分子標的薬治療の妥当性について	25%未満実施

【大阪医科大学】

	キャンサーボード名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種（◎:リーダー）	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	がんセンター	子宮横紋筋肉腫他	婦人科、化学療法センター、皮膚科、緩和、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、放射線腫瘍科	◎婦人科、化学療法センター、皮膚科、緩和、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、放射線腫瘍科の医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、診療情報管理士	症例検討	4月5日
2	がんセンター	腹腔内巨大腫瘍＋左手指皮下腫瘍（生検前）	消化器外科、整形外科、化学療法センター、病院病理部、小児科、緩和、放射線診断科、放射線腫瘍科	◎消化器外科、整形外科、化学療法センター、病院病理部、小児科、緩和、放射線診断科、放射線腫瘍科の医師、看護師、薬剤師、診療情報管理士	症例検討	11月27日

3	がんセンター	腹腔内巨大腫瘍	消化器内科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、婦人科、整形外科、泌尿器科、化学療法センター、病理部、小児科、呼吸器腫瘍内科、放射線腫瘍科、診断科	◎消化器内科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、婦人科、整形外科、泌尿器科、化学療法センター、病理部、小児科、呼吸器腫瘍内科、放射線腫瘍科、診断科の医師、薬剤師、診療情報管理士、がんゲノム医療管理室	セカンドオピニオン、治療経過～今後の方針	2月5日
4	がんセンター	頭蓋内 germinoma with yolk sac tumor component(高リスク)	消化器外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、婦人科、整形外科、泌尿器科、化学療法センター、病理部、小児科、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、放射線腫瘍科	◎消化器外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、婦人科、整形外科、泌尿器科、化学療法センターー、病理部、小児科、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、放射線腫瘍科の医師、研究医、薬剤師、看護師、診療情報管理士、がんゲノム医療管理室	症例検討	2月5日
5	がんセンター	右鼻腔原発横紋筋肉腫	消化器外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、婦人科、整形外科、泌尿器科、化学療法センター、病理部、小児科、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、腫瘍科	◎消化器外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、婦人科、整形外科、泌尿器科、化学療法センター、病理部、小児科、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、腫瘍科の医師、薬剤師、看護師、診療情報管理士、遺伝カウンセリング室	症例検討	2月5日
6	がんセンター	肝門部血管内腫瘍(腫瘍閉塞疑い)	消化器外科、脳神経外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、婦人科、整形外科、泌尿器科、化学療法センター、病理部、小児科、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、腫瘍科	◎消化器外科、脳神経外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、婦人科、整形外科、泌尿器科、化学療法センター、病理部、小児科、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、腫瘍科の医師、研修医、薬剤師、看護師、診療情報管理士、がんゲノム医療管理室	症例検討、治療方針、	2月5日
7	がんセンター	浸潤性胸腺腫	放射線腫瘍科、整形外科、病理部、泌尿器科、呼吸器内科、放射線腫瘍科、小児科	◎放射線腫瘍科、整形外科、病理部、泌尿器科、呼吸器内科、放射線腫瘍科、小児科の医師、看護師、診療情報管理士、がんセンター事務		3月25日
8	転移性骨腫瘍	腎細胞癌他	化学療法、整形外科、放射線診断科、放射線腫瘍科	化学療法、◎整形外科、放射線診断科、放射線治療科の医師、研修医、看護師、診療情報管理士	骨転移病名検討他　転移病名１５例　疑い病名24例	4月10日
9	転移性骨腫瘍	肺がん他	化学療法、整形外科、泌尿器科、放射線診断、放射線腫瘍科	化学療法、◎整形外科、泌尿器科、放射線診断、放射線診断科、看護師、診療情報管理士	骨転移病名検討他　転移病名16例　疑い病名36例	4月24日
10	転移性骨腫瘍	直腸がん他	化学療法、泌尿器外科、放射線診断科、放射線腫瘍科	◎化学療法、泌尿器外科、放射線診断科、放射線治療科の医師、研修医、診療情報管理士	骨転移病名検討他　転移病名26例　疑い病名57例	5月22日
11	転移性骨腫瘍	乳癌	整形外科、化学療法、泌尿器科、放射線診断科、放射線腫瘍科	化学療法、◎整形外科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科の医師、診療情報管理士	骨転移病名検討他　転移病名25例　疑い病名53例	6月12日
12	転移性骨腫瘍	膀胱癌他	リハビリ、化学療法、呼吸器腫瘍内科、放射線腫瘍科、診断科、第二内科	◎リハビリ、化学療法、呼吸器腫瘍科、放射線治療科、診断科、第二内科、研修医の医師、看護師、診療情報管理士	骨転移病名検討他　転移病名28例　疑い病名59例	7月10日
13	転移性骨腫瘍	膀胱癌他	リハビリ、化学療法、整形外科、呼吸器腫瘍科、放射線診断、放射線腫瘍科	◎リハビリ、化学療法、整形外科、呼吸器腫瘍科、放射線診断、放射線治療科の医師、看護師、診療情報管理士	骨転移病名検討他　転移病名20例　疑い病名36例	7月24日
14	転移性骨腫瘍	直腸癌	整形外科、化学療法、放射線診断科、放射線腫瘍科	◎整形外科、化学療法、放射線診断科、放射線治療科の医師、診療情報管理士	骨転移病名検討他　転移病名14例　疑い病名14例	8月14日
15	転移性骨腫瘍	肺癌他	リハビリ、放射線診断科、放射線腫瘍科	◎リハビリ、放射線診断科、放射線腫瘍科の医師、診療情報管路士	骨転移病名検討他　転移病名21例　疑い病名13例	8月28日
16	転移性骨腫瘍	非小細胞肺癌他	リハビリ、化学療法、整形外科、泌尿器科、放射線診断科、放射線腫瘍科	◎リハビリ、化学療法、整形外科、泌尿器科、放射線診断科、放射線腫瘍科の医師、診療情報管理士	転移病名21症例、疑い病名50症例の検討等	9月11日
17	転移性骨腫瘍	肺癌他	リハビリ、整形外科、泌尿器科、放射線診断科、放射線腫瘍科	◎リハビリ、整形外科、泌尿器科、放射線診断科、放射線腫瘍科の医師、診療情報管理士	転移病名14症例、疑い病名14症例の検討等	9月25日

18	転移性骨腫瘍	乳癌	化学療法センター、整形外科、泌尿器科、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、放射線腫瘍科	◎化学療法センター、整形外科、泌尿器科、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、放射線腫瘍科の医師、研修医	転移病名14症例、疑い病名27症例の検討等	10月9日
19	転移性骨腫瘍	肺小細胞癌	化学療法、整形外科、放射線診断科、腫瘍科、リハビリ	◎化学療法センター、整形外科、放射線診断科、腫瘍科、リハビリの医師、看護師、診療情報管理士	転移病名12症例、疑い病名25症例の検討等	10月23日
20	転移性骨腫瘍	肺腺癌	化学療法、整形外科、放射線診断科、放射線腫瘍科、呼吸器腫瘍科	◎化学療法、整形外科、放射線診断科、放射線腫瘍科、呼吸器腫瘍科、看護師、診療情報管理士	転移病名18症例、疑い病名57症例の検討等	11月13日
21	転移性骨腫瘍	肺非小細胞癌	整形外科、放射線診断科、腫瘍科、泌尿器科、リハビリ	◎整形外科、放射線診断科、腫瘍科、泌尿器科、リハビリの医師、診療情報管理士	転移病名11症例、疑い病名16症例の検討等	11月27日
22	転移性骨腫瘍	肺癌他	化学療法、呼吸器内科、放射線診断科、放射線腫瘍科、泌尿器科、がんゲノム	◎化学療法、呼吸器内科、放射線診断科、放射線腫瘍科、泌尿器科、がんゲノムの医師、看護師、診療情報管理士、遺伝カウンセラー	転移病名15症例、疑い病名55名症例の検討等	12月11日
23	転移性骨腫瘍	乳癌他	化学療法、呼吸器内科、放射線診断科、腫瘍科	◎化学療法、呼吸器内科、放射線診断科、腫瘍科の医師、診療情報管理士、看護師	転移病名12症例、疑い病名9名症例の検討等	12月25日
21	転移性骨腫瘍	下半身麻痺	整形外科、放射線診断科、放射線腫瘍科	◎化学療法、呼吸器内科、放射線診断科、腫瘍科の医師、診療情報管理士、看護師	転移病名19症例、疑い病名56名症例の検討等	1月22日
22	転移性骨腫瘍	肺癌他	整形外科、泌尿器科、化学療法、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、放射線腫瘍科	◎整形外科、泌尿器科、化学療法、呼吸器腫瘍科、放射線診断科、放射線腫瘍科の医師、診療情報管理士	転移病名29症例、疑い病名44名症例の検討等	2月12日
23	転移性骨腫瘍	膀胱癌他	整形外科、化学療法、呼吸器腫瘍科、放射線治療科、腫瘍科	◎整形外科、化学療法、呼吸器腫瘍科、放射線治療科、腫瘍科の医師、診療情報管理士、他病院の放射線医師(オブザーバー)	転移病名20症例、疑い病名18症例の検討等	2月26日
24	転移性骨腫瘍	前立腺癌	リハビリ、整形外科、化学療法、放射線診断科、放射線腫瘍科	◎リハビリ、整形外科、化学療法、放射線診断科、放射線腫瘍科の医師、診療情報管理士	転移病名19症例、疑い病名34症例の検討等	3月11日
25	転移性骨腫瘍	卵巣癌	放射線腫瘍科、整形外科、化学療法、呼吸器内科、放射線診断科、放射線腫瘍科	◎放射線腫瘍科、整形外科、化学療法、呼吸器内科、放射線診断科、放射線腫瘍科の医師と診療情報管理士、事務	転移病名13症例、疑い病名30症例の検討等	3月25日

全国がんプロ協議会　市民公開シンポジウム

資料 9

プロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与状況

【京都大学】

NO.	プロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与状況	所属コース	氏　名
1	日本人濾胞性リンパ腫患者における新規予後予測モデルの検討	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	渡邊　瑞希
2	画像情報及び遺伝情報を用いた悪性リンパ腫の臨床学的解析	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	渡邊　瑞希
3	同種造血幹細胞移植後に発生する感染性・非感染性肺臓炎に対して、全身放射線照射の線量率が与える影響の検討	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	渡邊　瑞希
4	新規解析法を用いたヒトHLA/KIR遺伝子のアレルおよびハプロタイプの決定とそれらが本邦の移植成績に及ぼす影響の検討	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	渡邊　瑞希
5	ニボルマブ+イピリムマブで治療される悪性黒色腫患者における腸内細菌代謝産物の臨床的意義に関する前向き観察研究(UMIN000039666)（プロトコール立案・作成）	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
6	切除不能進行再発大腸癌の2次治療患者を対象としたfluoropyrimidine + irinotecan + bevacizumab療法とtrifluridine / tipiracil + bevacizumab療法のランダム化比較第2/3相試験（研究協力者）	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
7	希少がんに対する遺伝子プロファイリングと標的治療に関する前向きレジストリ臨床研究（研究協力者）	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
8	若年発症の 固形がん患者におけるミスマッチ修復異常についての後ろ向き観察研究	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	近藤　知大
9	網羅的がん関連遺伝子検査の二次的所見開示についての後向き研究	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	近藤　知大
10	「R1926 子宮頸部疾患における子宮・膣マイクロバイオータの解明」 実施計画書、説明同意文書の変更申請	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	宮本　泰斗
11	小児の複数回再発・難治ALLに対する少量シタラビンとブリナツモマブによる寛解導入療法の第II相試験(ALL-R19-BLIN)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上　貴司
12	最新Mass Cytometryを用いたCART治療患者における免疫環境動態解析	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上　貴司
13	Whole Genome SequenceとMass Cytometryを用いたEBウィルス関連リンパ増殖症の病態解明のための網羅的オミックス解析	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上　貴司
14	小児がん治療における日常診療の施設間の違い（第8回CCLSG/JACLS合同夏季セミナー運営委員会）	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上　貴司
15	日本小児がん研究グループ（JCCG)保存検体利用研究「小児最未分化型急性骨髄性白血病(FAB分類M0)におけるゲノム・エピゲノム変異および遺伝子発現プロファイルの生物学的、臨床的意義に関する検討」の計画書、情報公開文書を作成	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥　達哉
16	高リスク前立腺癌に対する腫瘍内ブースト併用高度寡分割ダイナミックウェーブアーク照射の安全性評価のためのパイロット臨床試験、前立腺癌放射線治療症例におけるintraductal carcinoma of prostate (IDC-P)に関する遡及的解析	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	相澤　理人
17	C1463 胸腹部体内臓器の位置再現性評価	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
18	R2250局所進行非小細胞肺癌に対する根治的化学放射線療法＋地固めdurvalumab療法の多施設後ろ向き研究	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
19	R2123臨床病期I期非小細胞肺癌に対する標準手術・縮小手術・SBRTの統合解析研究	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
20	R2292早期肺癌に対して体幹部定位放射線治療を施行した患者のデータベースを用いた機械学習による患者予後予測の研究	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
21	SDXを用いた乳房の深吸気息止め照射に関する運用プロトコールを作成	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	迫田　万理恵
22	多施設共同研究「肥満にともなう腸内細菌叢の変化による大腸がん促進機構の解明」の京大病院での研究計画書の作成に関与。	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	奥村　慎太郎
23	動物実験計画書等の基礎研究のプロトコールのみ関与。	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中　直

24	大腸癌肝転移治癒切除後の患者に対する術後補助化学療法としてL-OHPベース化学療法にUFT/LV療法の逐次療法を行うことの安全性と有用性の検討	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
25	肝腫瘍に対する体幹部定位放射線治療用金マーカー留置におけるリアルタイム画像融合技術の有用性の検討	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
26	MRI拡散テンソル画像を用いた肛門周囲筋線維イメージング手法の確立	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
27	Granulocyte-colony stimulating factor産生消化器癌の画像所見の検討	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
28	大腸癌手術後の就労に関する研究	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西﨑　大輔
29	直腸腫瘍に対する経肛門的直腸間膜全切除術後の合併症、QOLおよび機能的予後に関する国際共同前向き研究	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西﨑　大輔
30	高齢者直腸癌（High risk pT1, Low risk pT2）に対する準標準治療の前向き観察研究	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西﨑　大輔
31	腹膜播種を伴う進行卵巣癌・卵管癌・腹膜癌のInterval debulking surgery (IDS) 症例において、術前化学療法(NAC)の前後でのFDG-PET/CT定量解析の予後予測への応用についての検討 (R1871)について研究し論文を筆頭著者として執筆(Ann Nucl Med. 2020;34:128-135)。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	渡部　正雄
32	「可搬型PET 装置と3 テスラMRI の融合画像診断」(Y0031)の特定臨床研究に研究分担医師、頭頸部病変についての筆頭著者として解析、論文化に従事。	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	渡部　正雄
33	ながはまO次予防コホート事業	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田　典子
34	次世代における家族性乳がんの診療モデル構築のための基盤研究	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田　典子
35	炎症性腸疾患がペイ消化管癌のデータベース作成と臨床病理学的検討	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田　真也
36	腹膜播種に対するCRS/HIPECの意義に関する多施設共同研究	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田　真也
37	骨盤内臓器のAutomatic segmentation モデルの構築	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	愛須　佑樹
38	G424『乳がん微小環境形成に関わる分子生物学的機序の生体試料を用いた探索研究』の改訂を作成	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	福井　由紀子
39	R1843-1　覚醒下手術について単施設前方視的調査研究	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	馬場　千夏
40	R2208　AYA世代がんサバイバーにおける身体活動量と抑うつ傾向の関連	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	馬場　千夏
41	R2203　下肢リンパ浮腫外来患者におけるロコモティブシンドローム・サルコペニアの発症実態とその関連因子の検討	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	馬場　千夏
42	R2203 下肢リンパ浮腫外来患者におけるロコモティブシンドローム・サルコペニアの発症実態とその関連因子の検討	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	原田　圭子
43	R2208 AYA世代がんサバイバーにおける身体活動量と抑うつ傾向の関連	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	原田　圭子
44	R1386-4　抗体医薬品の血中濃度測定	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井　翔
45	臨床研究の研究計画作成を実施	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	石川　恵子

【三重大学】

NO.	プロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与状況	所属コース	氏　名
1	線維細胞に着目した同種造血幹細胞移植後臓器線維化メカニズムの解明と制御法の開発前向き観察研究	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	西村　廣明

【滋賀医科大学】

NO.	プロトコル（臨床研究実施計画書等）作成への関与状況	所属コース	氏　名
1	「薬理遺伝学および薬力学的解析に基づくチオプリン製剤の個別化投与指針の構築」	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野　哲一郎
2	「ファーマコゲノミクス検査に基づく抗血小板薬クロピドグレルの処方変更に与える影響因子解析」	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野　哲一郎
3	「肝がん術後患者における鎮痛薬トラマドールのゲノム薬理学的解析」	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
4	腹腔鏡下膵体尾部切除術における術前難度評価スコア（difficulty score）の有用性に対する検証研究	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
5	Splenic preservation versus splenectomy during laparoscopic distal pancreatectomy for benign and low-grade malignant pancreatic tumor: A propensity score matching analysis	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
6	腹膜転移を有する膵がんに対するS-1+パクリタキセル経静脈・腹腔内投与併用療法の無作為化比較第Ⅲ相多施設共同臨床試験	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
7	膵切除における抗血栓薬服用歴が術後経過に及ぼす影響に関する研究	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
8	残膵癌における先行膵癌との分子病理学的および臨床病理学的検討	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
9	低悪性度膵腫瘍に対する臓器温存術式の有用性についての検討	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
10	当院での肝切除施行症例における後方視的観察研究	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森　治樹

事業推進運営委員会

資料 10

国際学会、英文誌への発表一覧

【京都大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	学会等発表 「DDW 2019」「Setdb1 is required for formation of pancreatic ductal adenocarcinoma by inhibiting apoptosis through regulation of p53 expression」「2019年5月20日」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川 智
2	学会等発表 「AACR Special Conference on Pancreatic Cancer: Advances in Science and Clinical Care」,「Setdb1 is required for formation of pancreatic ductal adenocarcinoma by inhibiting apoptosis through regulation of p53 expression」,「2019年9月8日」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川 智
3	学会等発表 「WIN2019」、「Symposium Cell-based functional analysis of a HER2 VUS identified by clinical NGS in a colorectal cancer patient.」、「2019年6月」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	三谷 洋介
4	学会等発表 「ESMO 2019 Congress」「Association of SCFA in gut microbiome and clinical response in solid cancer patients treated with andi-PD-1 antibody.」「2019年9月30日」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤 伴樹
5	学会等発表 「American Society of Clinical Oncology 2020 Gastrointestinal cancers symposium」、「Comprehensive genomic profiling for chemotherapy-naïve advanced gastrointestinal malignancies.」、「2020年1月」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
6	学会等発表 「第3回国際がんシンポジウム」 「Direct delivery of piggyBac CD19 CAR T cells has potent anti-leukemic activity against ALL cells in CNS in a xenograft mouse model」「2020/2/15～16」(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田中 邦昭
7	学会等発表 「ICRR 2019」、「A novel hypoxia-inducible secretory protein, HISP2, causes radioresistance of hypoxic cancer cells in an autocrine manner」「2019年8月26日」(Poster)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	諏訪 達也
8	学会等発表 「The 38th European Society for Radiotherapy & Oncology」、「Prognostic factors of salvage stereotactic radiotherapy for recurrent high-grade」、「2019年4月26日」(筆頭発表)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	竹花 恵一
9	学会等発表 「ESTRO 38th. Milan, Italy.」「Clinical validation of knowledge-based planning for multiple brain metastases.」Noriko Kishi、「2019年4月26日～30日」(筆頭発表・e-Poster)	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
10	学会等発表 「WIN2019」「A peptide with the conserved amino acid residue of integrin α6 suppresses metastasis via disturbing complex formation in breast cancer cells」「2019年6月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中 直
11	学会等発表 「SABCS」「The importance of p300/CBP(CREBBP)-survivin (BIRC5) for cell cycle and apoptosis in triple negative breast cancer」「2019.12」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中 直
12	学会等発表 「欧州IVR学会(CIRSE)2019」「Efficacy of fiducial marker implantation in the liver using real-time image fusion technology for stereotactic body radiation therapy. 」「2019年9月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永 幸史
13	学会等発表 「ILLS2019」「Role of laparoscopic liver resection in multidisciplinary treatment for resectable colorectal liver metastases」「2019年5月9日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田 怜
14	学会等発表 「DDW2019」「ESTABLISHMENT OF FOLFOX-INDUCED SINUSOIDAL OBSTRUCTION SYNDROME MODEL IN MICROMINIPIG」「2019年5月20日」(口演・筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田 怜
15	学会等発表 「ASCO 2019」「Dissection of the lateral lymph nodes with short axis of 5mm affects the prognosis in rectal cancer patients: A central review of 738 lower rectal cancer magnetic resonance images」「Jun 2019,Chicago, USA. 」(Co-author)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎 大輔
16	学会等発表 「ESMO 2019」「Neoadjuvant chemoradiotherapy with/without lateral lymph node dissection for low rectal cancer: Which patients can benefit?」「 Sep 2019. Barcelona, Spain. 」(First author.)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎 大輔
17	学会等発表 「Cochrane colloquium 2019」「How much attention was paid to patient-reported outcomes in randomised trials and meta-analyses of rectal cancer surgery?」「Oct 2019. Santiago, Chile.」(First author.)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西崎 大輔
18	学会等発表 「SABCS2019」「Relationship between predicted risks of carrying breast cancer susceptibility genes and the presence of germline variants in Japanese patients with primary breast cancer」「 2019/12/12」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田 典子
19	学会等発表 「DDW2019」「Usefulness of Mac-2 binding protein glycosylation isomer for evaluating graft status after liver transplantation.」「2019年5月」	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	木村 有佑

20	学会等発表 「Digestive Disease Week 2019」「Usefulness of Mac-2 binding protein glycosylation isomer for evaluating graft status after liver transplantation.」「 2019年5月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	木村 有佑
21	学会等発表 「ISPRM 2019」「Quantitative evaluation of thumb functions after arthroscopic hemitrapeziectomy with suture-button suspensionplasty utilizing the Mini-Tightrope®」「2019年6月」(共著発表)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	馬場 千夏
22	学会等発表 「The 48th Naito Conference on Integrated Sensory Sciences – Pain, Itch」「 Smell and Taste、「Schwann cell dedifferentiation accompanied with galectin-3 release is causal for taxane-induced peripheral neuropathy」「2019年10月」(筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	小柳 円花
23	学会等発表 「The 49th annual meeting of Society for Neuroscience, Neuroscience 2019」、「Schwann cell-mediated immune response participates in paclitaxel-induced peripheral neuropathy pathogenesis」、「2019年10月23日」 (筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	小柳 円花
24	学会等発表 「The 11th Seoul-Kyoto-Osaka Joint Symposium On Pharmaceutical Sciences For Young Scientists」「Plasma infliximab concentrations in the patients with inflammatory bowel disease」「2019年6月11日」(筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井 翔
25	学会等発表 「AAPM2019」「Improving prognostic prediction for lung cancer patients who underwent SBRT using breath-hold diagnostic CT-based image features: a retrospective single institutional study」「2019年7月14日～18日」	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	柿野 諒
26	学会等発表 「2019 AAPM Annual Meeting (San Antonio TX)」「Three-dimensional tumor position estimation using image features on orthogonal kV X-ray projections: comparison of two feature extraction algorithms」「2019年7月14日～18日」(筆頭発表)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	安保 慎太郎
27	論文発表 「Journal of Pathlogy」「Bmi1 marks gastric stem cells located in the isthmus in mice.」「2019年6月」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川 智
28	論文発表 「Scientific Reports」「Epithelial EP4 plays an essential role in maintaining homeostasis in colon.」「2019年10月」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川 智
29	論文発表 「Cancers」『F-Box/WD Repeat Domain-Containing 7 Induces Chemotherapy Resistance in Colorectal Cancer Stem Cells』「2019年5月」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	本間 周作
30	論文発表 「J Clin Endocrinol Metab」「Stable Iodine Distribution among Children after the 2011 Fukushima Nuclear Disaster in Japan: An Observational Study」「2019年5月」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川 佳孝
31	論文発表 「Clin J Gastroenterol」「Bone metastasis as a recurrence of early papillary adenocarcinoma of the stomach」「2019年10月12日」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川 佳孝
32	論文発表 「J Gastrointest Cancer」「Qualitative and Quantitative Analysis of Posttreatment Strategy After Endoscopic Resection for Patients with T1 Colorectal Cancer at High Risk of Lymph Node Metastasis」「2019年5月2日」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川 佳孝
33	論文発表 「Dig Endosc」「Short Educational Video to Improve the Accuracy of Colorectal Polyp Size Estimation: Multicenter Prospective Study」「2020年1月28日」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川 佳孝
34	論文発表 「Clin J Gastroenterol」「 Long-term Survival and Renal Dysfunction in a Patient With Recurrent Colorectal Cancer Treated With Bevacizumab」「 2020年2月 」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	西川 佳孝
35	論文発表 「Carcinogenesis.」「Protective effects of Alda-1, an ALDH2 activator, on alcohol-derived DNA damage in the esophagus of human ALDH2*2 (Glu504Lys) knock-in mice.」「2019 年5月10日」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	三谷 洋介
36	論文発表 「Curr Opin Hematol」「Recent progress in haploidentical transplantation: is this the optimal choice for alternative donor transplantation?」「 2019年11月」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	渡邊 瑞希
37	論文発表 「HLA 」「Wide availability of HLA-matched or a few loci-mismatched donors in the graft-vs-host direction among nonsibling firstdegree relatives」「2020年3月」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	渡邊 瑞希
38	論文発表 「cells」「Patient Derived Chicken Egg Tumor Model (PDcE Model): Current Status and Critical Issues.」「2019年5月10日」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤 伴樹
39	論文発表 「Enzymes」「Patient-derived Tumor Models of Esophageal Cancer.」「令和元年11月6日」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤 伴樹
40	論文発表 「American Journal of Cancer Research」「Experimental model for the irradiation-mediated abscopal effect and factors influencing this effect」「令和2年2月1日」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤 伴樹

41	論文発表 「Journal of Human Genetics」「Clinical significance of TP53 variants as possible secondary findings in tumor-only next-generation sequencing」「2019年11月」（共著発表）	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
42	論文発表 「Oncologist」「Association Between Preanalytical Factors and Tumor Mutational Burden Estimated by Next-Generation Sequencing-Based Multiplex Gene Panel Assay」「2019年6月」(共著発表)	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
43	論文発表 「Am J Case Rep」「Natural History of Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Diagnosed During Observation of Other Organ Cancers」「2019年7月」（共著発表）	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
44	論文発表 「CVIR Endovascular」「Femoral placement of a totally implantable venous access port with spontaneous catheter fracture: case report」「2020年1月」（筆頭発表）	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	近藤 知大
45	論文発表 「Journal of Obstetrics and Gynaecology Research（2019 Aug;45(8):1479-1487）」、 「Hysteroscopic morphological pattern reflects histological grade of endometrial cancer.」「2019年8月」（共著発表）	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	古武 陽子
46	論文発表 「Journal of Obstetrics and Gynaecology Research」「Hysteroscopic morphological pattern reflects histological grade of endometrial cancer.」「2019年5月」(筆頭発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
47	論文発表 「Journal of Gynecologic Oncology」「The efficacy of secondary cytoreductive surgery for recurrent ovarian, tubal, or peritoneal cancer in Tian-model low-risk patients.」「2019年6月」(共著発表、責任著者)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本 泰斗
48	論文発表 「Pediatrics International」「Transition of gastric pH after birth for verification of feeding tube placement.」「2019年8月26日（Vol.61(8):832-834）」.(筆頭著者)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上 貴司
49	論文発表 「Japanese Journal of Clinical Oncology」「Temozolomide and etoposide combination for the treatment of relapsed osteosarcoma」「in press」(筆頭)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	赤澤 嶺
50	論文発表 「Radiation Oncology」「The impact of age on the risk of ipsilateral breast tumor recurrence after breast-conserving therapy in breast cancer patients with a > 5mm margin treated without boost irradiation」「2019年7月10日」(筆頭発表)	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	小野 幸果
51	論文発表 「International Journal of Clinical Oncology」「Ten-year outcomes of high-dose intensity-modulated radiation therapy for nonmetastatic prostate cancer with unfavorable risk: early initiation of salvage therapy may replace long-term adjuvant androgen deprivation」「2019年3月」	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	相澤 理人
52	論文発表 「International Journal of Clinical Oncology」「Low incidence of late recurrence in patients with intermediate-risk prostate cancer treated by intensity-modulated radiation therapy plus short-term androgen deprivation therapy」「2019年12月11日Epub, 」(筆頭発表)	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	相澤 理人
53	論文発表 「Genes to cells」、「In silico analysis-based identification of the target residue of integrin α6 for metastasis inhibition of basal-like breast cancer」、「2019年7月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中 直
54	論文発表 「BBRC(Biochemical and Biophysical Research Communications)」「Eribulin mesylate-induced c-Fos upregulation enhances cell survival in breast cancer cell lines」「2020年3月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中 直
55	論文発表 「J Vasc Interv Radiol」「Superior mesenteric artery stent-graft migration into the duodenum. 」「2019年10月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永 幸史
56	論文発表 「Clinical Imaging」「Optimizing b-values for accurate depiction of pancreatic cancer with tumor-associated pancreatitis on computed diffusion-weighted imaging」「2020年1月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永 幸史
57	論文発表 「Performance Evaluation of a Newly Developed MR-Compatible Mobile PET Scanner with Two Detector Layouts.」(Watanabe M, Nakamoto Y, Nakamoto R, Ishimori T, Saga T, Togashi K, Mol Imaging Biol.)「2019年6月20日」, doi: 10. 1007/s11307-019-01384-9. [Epub ahead of print](筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	渡部 正雄
58	論文発表 Masao Watanabe, Yuji Nakamoto, Ryusuke Nakamoto, Takayoshi Ishimori, Tsuneo Saga, Kaori Togashi: Qualitative and Quantitative Assessment of Non-local means Reconstruction Algorithm in a Flexible PET Scanner. American Journal of Roentgenology, Accepted on April 2020.(共著発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	渡部 正雄
59	論文発表 「J Minim Access Surg」「Single-incision laparoscopic cholecystectomy with the right accessory hepatic duct diagnosed preoperatively: A case report」「2020年1月」	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	松原 弘侑
60	論文発表 「CPT: pharmacometrics & systems pharmacology」 「A Minimal Physiologically-Based Pharmacokinetic Model for Tacrolimus in Living-Donor Liver Transplantation: Perspectives Related to Liver Regeneration and the cytochrome P450 3A5 (CYP3A5) Genotype. 」「2019年8月」 （筆頭発表）	ライフステージに応じた高度ながん薬物 療法および支持療法を推進するがん専門 薬剤師養成コース	糸原 光太郎
61	論文発表 「J Phamacol Sci.」「Improvement of peripheral vascular impairment by a phosphodiesterase type 5 inhibitor tadalafil prevents oxaliplatin-induced peripheral neuropathy in mice.」「2019年11月」(共著発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物 療法および支持療法を推進するがん専門 薬剤師養成コース	小柳 円花

62	論文発表 「Brain Behav Immun.」「Schwann cell-derived CXCL1 contributes to human immunodeficiency virus type 1 gp120-induced neuropathic pain by modulating macrophage infiltration in mice.」2020年3月受理 [Online ahead of print.]（共著発表）	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	小柳　円花
63	論文発表 「Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences」「Plasma infliximab monitoring contributes to optimize Takayasu arteritis treatment: a case report」、「2019年5月2日」（筆頭発表）	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井　翔
64	論文発表 「Pharmaceutical Research」「Concentration and Glycoform of Rituximab in Plasma of Patients with B Cell Non-Hodgkin' s Lymphoma「2019年4月19日」（共著発表）	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井　翔
65	論文発表 「Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences」「Plasma infliximab monitoring contributes to optimize Takayasu arteritis treatment: a case report」「2019年5月2日」（筆頭発表）	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井　翔

【三重大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	Successful Management of Immune Thrombocytopenia Presenting with Lethal Alveolar Hemorrhage. Case Rep Hematol. 2019 Jun 10;2019:5170282.（筆頭発表）	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	永春　圭規
2	学会発表 The 10th JSH International Symposium 2019 in Ise-Shima Novwl lymphoid pathway of human dendritic cells 2019年5月17日（筆頭発表）	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	永春　圭規
3	学会発表 The 10th JSH International Symposium 2019 in Ise-Shima Post-transplant cyclophosphamide treatment for murine MHC-Haploidentical bone marrow transplant model using a recipient-derived tumor cell line 2019年5月17日（筆頭発表）	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	西村　廣明
4	学会発表 The 10th JSH International Symposium 2019 in Ise-Shima Infiltrating CCR2+ monocytes and fibrocytes cntribute to colon fibrosis by inhibiting degradation of collagen through the production of tissue inhibitor matrix metalloproteinase-1 2019年5月17日（筆頭発表）	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	蜂矢　健介
5	CD3+ B-1a Cells as a Mediator of Disease Progression in Autoimmune-Prone Mice. Mediators Inflamm . 2018 Dec 23;2018:9289417. doi: 10.1155/2018/9289417（共著発表）	小児がん治療専門医養成コース	伊藤　卓洋
6	The 38th Europian Society for Radiotherapy ; Prognostic role of interim FDG-PET/CT during radiotherapy in patients with hypopharyngeal carcinoma. 2019年4月30日（筆頭発表）	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	間瀬　貴充

【滋賀医科大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	The 31th world congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists, Expression pattern of cancer-associated fibroblasts is an independent prognostic marker on pancreatic ductal adenocarcinoma, 2019/10, 筆頭発表	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
2	WIN SYMPOSIUM 2019 Exacerbating factors for poor oral intake associated with hematopoietic stem cell transplantation,June 23-24, 2019(筆頭発表)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
3	41st ESPEN Congress Prolonging factors of the duration of parenteral nutrition in patients treated with hematopoietic stem cell transplantation,August 3- September 3, 2019(筆頭発表)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
4	Annals of Surgical Oncology, Vimentin expression in tumor microenvironment predicts survival in pancreatic ductal adenocarcinoma: Heterogeneity in fibroblast population, 2019/10 筆頭発表（論文）	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
5	Iida H, Maehira H, Mori H, Tani M. Serum procalcitonin as a predictor of infectious complications after pancreaticoduodenectomy: review of the literature and our experience. Surg Today, Epub:2019(論文)	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森　治樹
6	Maehira H, Miyake T, Iida H, Tokuda A, Mori H, Yasukawa D, Mukaisho KI, Shimizu T, Tani M. Vimentin Expression in Tumor Microenvironment Predicts Survival in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma: Heterogeneity in Fibroblast Population. Ann Surg Oncol, Epub:2019（論文）	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森　治樹
7	Mori H, Miyake T, Shimizu T, Yamaguchi T, Kaida S, Takebayashi K, Iida H, Otsuki A, Inatomi O, Kitoh K, Andoh A, Tani M. A case of spontaneous colonic perforation in collagenous colitis. Surg Case Rep, 5(1):90,2019（論文）	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森　治樹

【大阪医科大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	ASCO GI 2019 、A retrospective analysis of third line treatment in advanced gastric cancer、2019年1月18日(筆頭演者：石塚 保亘)	ライフステージに応じた化学療法専門医コース	石塚 保亘
2	WIN2019 New approaches using extracellular vesicles for cancer treatment to improve radiosensistivity. 2019年6月 筆頭発表	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	寺田 信一

【京都薬科大学】

NO.	取 組 状 況 等	所属コース	氏名
1	学会等発表 第3回国際がん研究シンポジウム. (大阪), Anti-tumor effects of a novel Wnt/β-catenin pathway inhibitor against acute myelogenous leukemia.,2020. 2. 15-16(筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	若林 亮介
2	学会等発表 第3回国際がん研究シンポジウム, Leukemic cells with MLL-AF5q31 fusion acquire BET inhibitor resistance by upregulation Bcl-2 expression., 2020.2.15-16(筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	甘利 圭悟
3	学会等発表 WIN Symposium 2019、The relationship between anti-tumor activity of gdT cells and PD-1/PD-L1 axis for gdT cell immunotherapy、2019年6月23-24日(筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金 眞光
4	論文発表 「ANTICANCER REASEARCH」、「Blockade of γ-glutamylcyclotransferase Enhances Docetaxel Growth Inhibition of Prostate Cancer Cells」、「2019年9月」(筆頭著者) 「Depletion of gamma-glutamylcyclotransferase inhibits cancer cell growth by activating the AMPK-FOXO3a-p21 axis」、「2019年9月」(共著者)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	髙木 寛子
5	論文発表 「BBRC」、「Depletion of gamma-glutamylcyclotransferase inhibits cancer cell growth by activating the AMPK-FOXO3a-p21 axis」、「2019年9月」(共著者)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	髙木 寛子
6	論文発表 Anticancer Research 6-Hydroxythiobinupharidine Inhibits Migration of LM8 Osteosarcoma Cells by Decreasing Expression of LIM Domain Kinase 1 2019(共著発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	杉山 雄輝
7	学会等発表 Stat5b inhibition suppresses glioblastoma stem cell proliferation derived from a mouse model. The 3rd International Cancer Research Symposium of Training Plan for Oncology Professionals, Osaka, 2020.2.(共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
8	学会等発表 The 3rd International Cancer Research Symposium of Training Plan for Oncology Professionals, "Stat5b inhibition suppresses glioblastoma stem cell proliferation derived from a mouse model." February 15, 2020. ポスター発表(筆頭発表)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美

海外合同教育セミナー

海外合同教育セミナー

資料 11

国内学会、雑誌等への発表一覧

【京都大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
1	学会等発表 「第50回日本膵臓学会」「Setdb1はp53発現制御を介してアポトーシスを阻害することにより膵臓癌の形成に必要である」「2019年7月12日」（筆頭発表）	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
2	学会等発表 「第78回日本癌学会学術総会」「Setdb1はp53発現制御を介してアポトーシスを阻害することにより膵臓癌の形成に必要である」「2019年9月26日」（筆頭発表）	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
3	学会等発表 「日本外科学会」「細胞周期調節因子FBXW7は大腸癌幹細胞における抗癌剤抵抗性に関与する、「2019年4月」（筆頭発表）	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	本間　周作
4	学会等発表 「第78回日本癌学会学術総会」「Cell-based functional analysis of a HER2 VUS detected in a colorectal cancer patient」「2019年9月」（筆頭発表）	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	三谷　洋介
5	学会等発表 「第17回日本臨床腫瘍学会学術集会・ポスターセッション」、「Multicenter feasibility study of mFOLFOX7 in hemodialysis patients with colorectal cancer」「2019年7月」（筆頭発表）	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	片岡　滋貴
6	学会等発表 「第73回日本食道学会学術集会」「進行食道癌治療経過中に生じた食道気管支瘻に対し食道離断術を施行した1例」「2019年6月7日」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
7	学会等発表 「京都府生命のがん教育プロジェクト」「生命のがん教育授業」「2019年6月24日」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
8	学会等発表 「第57回日本癌治療学会学術集会」「T4食道癌に対する化学放射線療法後に食道気管支瘻を来した9例の臨床経過について」「2019年10月25日」(筆頭発表)	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
9	学会等発表 「日本臨床腫瘍学会・第17回日本臨床腫瘍学会学術集会」、「SMV血栓を認めるborderline resectable膵頭部癌に対し、術前GEM+nabPTX療法と抗血栓療法を施行し、根治手術が可能となった一例」「2019年7月」（筆頭発表）	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	江本　憲央
10	学会等発表 「第17回日本臨床腫瘍学会学術集会」「Prospective study of oxaliplatin-based chemotherapy in homologous recombination deficient advanced pancreatic cancer」「2019年7月」（筆頭発表）	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤　知大
11	学会等発表 「第17回日本臨床腫瘍学会学術集会」「腫瘍組織のみを用いた次世代シークエンス検査で検出されるTP53変異の二次的所見可能性と臨床的意義」「2019年7月」（共著発表）	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤　知大
12	学会等発表 「第17回日本臨床腫瘍学会学術集会」「次世代シークエンサーを用いたがん遺伝子パネル検査により推定された遺伝子変異量（TMB）と検体特徴との関連」「2019年7月」（共著発表）	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤　知大
13	学会等発表 「第17回日本臨床腫瘍学会学術集会」「がん遺伝子パネル検査における日本人SNPの影響」、「2019年7月」（共著発表）	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤　知大
14	学会等発表 「第17回日本臨床腫瘍学会学術集会」「がん遺伝子パネル検査における同一変異に対する注釈の経時変化」「2019年7月」（共著発表）	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	近藤　知大
15	学会等発表 「第78回日本癌学会学術総会」「CXCL13 induces tertiary lymphoid structures and is a potential therapeutic target for ovarian cancer」「2019年9月」（筆頭発表・Ukita M, Hamanishi J, Baba T, Yamaguchi K, Murakami R, Abiko K,　Mandai M .）	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	浮田　真沙世
16	学会等発表 「第71回日本産科婦人科学会学術講演会」、「CXCL13 induces tertiary lymphoid structures and is a potential therapeutic target for ovarian cancer」「2019年4月」（筆頭発表・Ukita M, Hamanishi J, Baba T, Abiko K, Murakami R, Mandai M）	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	浮田　真沙世
17	学会等発表 「第78回日本癌学会学術総会」「Immunological changes of BRCA1-KO ovarian cancer after Olaparib treatment」「2019年9月」（筆頭発表）	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	水野　林
18	学会等発表 「第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会」「BRCA1変異を有する卵巣癌マウスモデルにおけるOlaparib耐性と宿主免疫の関与」「2019年7月」（筆頭発表）	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	水野　林

19	学会等発表 「第71回日本産婦人科学会学術講演会」「High mesenchymal state may correlate with ferroptosis and cisplatin sensitivity in ovarian cancer」「2019年4月12日」（筆頭発表）	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	古武　陽子
20	学会等発表 「第78回日本癌学会学術総会」、「Ferroptosis resistance may be correlated withepithelial–mesenchymal transition」「2019年9月27日」（筆頭発表）	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	古武　陽子
21	学会等発表 「第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会」「卵巣癌に対するferroptosis誘導剤とシスプラチンの併用による抗腫瘍効果の検討」「2019年7月4日」（筆頭発表）	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	古武　陽子
22	学会等発表 「第71回日本産婦人科学会」「Comprehensive RNA–seq Analysis Identifies the Progression Impact of Epithelial–mesenchymal Transition, Hypoxic Status, Immunological Regulation, and Metabolism in Ovarian Clear Cell Carcinoma」「2019年4月13日」	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	高松　士朗
23	学会等発表 「第61回婦人科腫瘍学会」「Microsatellite Instability, Tumor Mutational Burden, and Anticancer Immune Reactivity in Gynecological Cancers」「2019年7月6日」	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	高松　士朗
24	学会等発表 「日本癌学会」Microsatellite Instability, Tumor Mutational Burden, and Anticancer Immune Reactivity in Gynecological Cancers」「2019年9月28日」	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	高松　士朗
25	学会等発表 「第71回日本産科婦人科学会」「CD276 expression correlates with poor prognosis in ovarian cancer.」「2019年4月」（筆頭発表）	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	宮本　泰斗
26	学会等発表 「第18回日本婦人科がん分子標的研究会」「卵巣癌のB7–H3発現は骨髄由来免疫抑制細胞の腫瘍浸潤を促進する」「2019年7月」（筆頭発表）	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	宮本　泰斗
27	学会等発表 「第78回日本癌学会学術総会」「CD276 expression on ovarian cancer induces infiltration of myeloid derived suppressor cells.」「2019年9月」（筆頭発表）	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	宮本　泰斗
28	学会等発表 「第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会」「子宮頸癌の新病期分類（FIGO2018）～開腹手術症例の後方視的検討」「2019年7月4日」（筆頭発表）	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	河原　俊介
29	学会等発表 「日本血液疾患免疫療法学会学術集会」「中枢神経白血病 xenograft mouse model を用いた piggyBac CD19 CAR–T細胞脳室内直接投与の有効性の検討」「2019年10月5日」（筆頭発表）	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田中　邦昭
30	学会等発表 「第81回日本血液学会学術集会」「Assessment of coagulation/fibrinolysis markers in patients with severe cytokine release syndrome associated with CAR T–Cell Therapy」「2019年10月12日」（筆頭発表）	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥　達哉
31	学会等発表 「第122回日本小児科学会学術集会」、「治療終了32年後に局所再発を認めた片眼性網膜芽細胞腫の一例」、「2019年4月21日」（筆頭発表）	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥　達哉
32	学会等発表 「第42回近畿小児血液がん研究会」「急性リンパ性白血病に対するTisagenlecleucel投与に合併した重症サイトカイン放出症候群における凝固線溶動態の検討」「2020年2月」（筆頭発表）	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥　達哉
33	学会等発表 「第42回日本造血細胞移植学会総会」「Impact of Ethnicity in Relapsed/Refractory Diffuse Large B–Cell Lymphoma and B–Cell Acute Lymphoblastic Leukemia Patients Treated With Tisagenlecleucel」「2020年3月」（共著発表）	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥　達哉
34	学会等発表 「第61回　小児血液がん学会学術集会」「Refractory autoimmune hemolytic anemia following bone marrow transplantation in an infant patient with congenital amegakaryocytic thrombocytopenia」「2019年11月16日」（筆頭発表）	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田坂　佳資
35	学会等発表 「日本血液学会学術集会」「Sorafenib抵抗性のFLT3–ITD陽性急性骨髄性白血病の移植後再発にgilteritinibが奏効した一例」「2019年10月12日」（筆頭発表）	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	赤澤 嶺
36	学会等発表 「日本小児血液がん学会学術集会」「再発骨肉腫に対するテモゾロミド/エトポシドの治療効果」「2019年11月14日」（筆頭発表）	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	赤澤 嶺
37	学会等発表 「関西若手放射線治療研究会」「膵癌術後再発症例に対する呼気息止め寡分割IMRTの初期経験」「2019年10月5日」（筆頭発表）	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	芦田　良
38	学会等発表 「第78回日本医学放射線学会総会」「Evaluation of lung and body surface displacement during deep inspiration breath–hold (DIBH) using a Cine electric portal imaging device (EPID) in breast cancer patients」「2019年4月11日」（筆頭発表）	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	小野　幸果

39	学会等発表 「第27回日本乳癌学会学術総会」「乳房温存手術後寡分割同時ブースト全乳房照射の初期経験」「2019年7月11日」(共著発表)	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	小野 幸果
40	学会等発表 「第107回日本泌尿器科学会総会」「低-中リスク前立腺癌に対する強度変調放射線治療の長期成績」「2019年4月」(筆頭発表)	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	相澤 理人
41	学会等発表 「第57回日本放射線腫瘍学会生物部会学術大会」「低酸素環境下で発現上昇する新規低酸素誘導性分泌タンパク質HISP-2 (hypoxia-inducible secretory protein 2)は、がん細胞の放射線抵抗性を誘導する」「2019年6月7日」(筆頭、口頭発表)	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	諏訪 達也
42	学会等発表 「第28回日本定位放射線治療学会」「多発脳転移シングルアイソセンターVMATにおける交差検証法を用いたKnowledge-based planningの臨床的有用性評価」「2019年6月4日」(筆頭発表)	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
43	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会第32回学術大会」「非小細胞肺癌化学放射線療法における放射線性肺臓炎予測リスクスコアの検証的解析」「2019年11月22日」(筆頭発表)	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
44	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会第32回学術大会　特別企画3」「Knowledge-based planningのPlan Qualityと私たちのQuality of Life」「2019年11月23日」(筆頭発表)	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸 徳子
45	学会等発表 「第16回日本中性子捕捉療法学会学術大会」「組織内ホウ素化合物分布の測定の高度化に向けた検討」「2019年9月」(筆頭発表)	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	武野 慧
46	学会等発表 「第74回日本消化器外科学会総会」「腸内細菌叢解析による大腸がん診断モデルの開発研究」「2019年7月17日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	奥村 慎太郎
47	学会等発表 「第78回日本癌学会学術総会」、「Identification of gut microbial markers for colorectal cancer screening and their potential to provoke oncogenic stress」、「2019年9月26日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	奥村 慎太郎
48	学会等発表 「日本癌学会・第78回日本癌学会学術総会」「Eribulin-induced Fos expression provides anti-apoptotic properties in triple-negative breast cancer cells」「2019年9月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中 直
49	学会等発表 「日本癌学会・第78回日本癌学会学術総会」「Apoptotic cell death induced by p300/CBP-Survivin regulation in triple negative breast cancer」「2019年9月」(共著発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中 直
50	学会等発表 「第48回日本IVR学会総会」「リアルタイム画像融合技術を用いた金マーカー留置の有用性の検討」「2019年5月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永 幸史
51	学会等発表 「第33回日本腹部放射線学会総会」「G-CSF産生胆嚢癌の1例」「2019年6月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永 幸史
52	学会等発表 「第119回日本外科学会学術集会」「SOSの病態解明に向けた FOLFOX誘導性 マイクロミニブタSOSモデルの確立」「2019年4月19日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田 怜
53	学会等発表 「第74回日本消化器外科学会総会」「Surgical margin for colorectal liver metastases regarding to survival and laparoscopic surger」「2019年7月17日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田 怜
54	学会等発表 「第13回肝臓内視鏡外科研究会」「技術認定取得に向けたCadaver Trainingの有用性について」「2019年12月4日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田 怜
55	学会等発表 「日本内視鏡外科学会」「短径5mm以上の側方リンパ節に対する側方郭清が予後に及ぼす影響:下部直腸癌752例のMRI中央判定 から」「2019年12月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西﨑 大輔
56	学会等発表 「第78回日本医学放射線学会」「Prognostic utility of the reduction rate of FDG PET-based quantitative values during neoadjuvant chemotherapy in advanced ovarian, tubal, and peritoneal cancer patients.」(Masao Watanabe, Yuji Nakamoto, Takayoshi Ishimori, Kaori Togashi)「2019年4月11日～4月14日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	渡部 正雄
57	学会等発表 「日本乳癌学会総会2019」「実臨床における遺伝性乳癌の拾い上げ」「2019年7月13日」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田 典子
58	学会等発表 「第74回日本消化器外科学会総会」「PTEN loss is a biomarker of Tmab resistance in HER2-overexpressing gastroesophageal adenocarcinoma」「2019-07-18(筆頭発表)」	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	横山 大受

59	学会等発表 「第74回消化器外科学会総会」「胃全摘は術後早期に胃癌患者の骨格筋量を減少させる」「2019年7月」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田　真也
60	学会等発表 「第32回内視鏡外科学会総会」、「胸腔鏡下食道切除後2年間の骨格筋量の経時的変化：前向き単施設コホート研究」、「2019年」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田　真也
61	学会等発表 「第35回日本臨床栄養代謝学会総会」「経腸栄養チューブ留置による早期経腸栄養が食道切除後の体組成に与える影響と課題」「2020年」(筆頭発表)	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田　真也
62	学会等発表 「第53回日本作業療法学会」「がんに伴う認知機能障害のリハビリテーション職種への認知度調査」「2019年9月」(筆頭発表)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	馬場　千夏
63	学会等発表 「第17回日本Awake Surgery学会」「覚醒下脳腫瘍摘出術を施行された2症例の術前後高次脳機能と社会的予後」「2019年10月」(筆頭発表)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	馬場　千夏
64	学会等発表 「第56回日本リハビリテーション医学会学術集会」「パーキンソン関連疾患における高次脳機能の特性ー大脳皮質基底核変性症と進行性核上性麻痺患者との比較」「2019年6月」(共著発表)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	馬場　千夏
65	学会等発表 「第56回日本リハビリテーション医学会学術集会」「尺骨神経部分神経束および正中神経部分神経束移行術後の知覚変化に対する定量的評価」「2019年6月」(共著発表)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	馬場　千夏
66	学会等発表 「神経再生・ロボットリハビリシンポジウムin KYOTO 2019」「Robot Rehabilitationで肘関節機能に改善を認めたDouble fascicular nerve transfer術後の2症例」「2019年6月」(共著発表)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	馬場　千夏
67	学会等発表 「第17回日本Awake Surgery学会」「覚醒下脳腫瘍摘出術施行患者5症例における高次脳機能の変化～術前、術後2週、術後6週の比較～」「2019年10月」(共著発表)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	馬場　千夏
68	学会等発表 「AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会」「AYA世代がんサバイバーのピアサポートプログラムとしてのダンス導入の試み」「2020年3月」(筆頭発表)	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	原田　圭子
69	学会等発表 「第69回日本薬学会 関西支部総会・大会」「オキサリプラチン誘発末梢神経障害モデルマウスにおける血管拡張薬の効果検討」「2019年10月12日」(筆頭発表者)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	荻原　孝史
70	学会等発表 「NEURO2019 (第42回日本神経科学大会・第62回日本神経化学会大会合同年会)」「Possible involvement of immune response mediated by Schwann cells in paclitaxel-induced peripheral neuropathy」「2019年7月」(筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	小柳　円花
71	学会等発表 「第69回　日本薬学会関西支部総会・大会」「インフリキシマブに対する抗薬物抗体の抗原認識部位探索　-抗薬物抗体検出法の確立 -」「2019年10月12日」(共著発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井　翔
72	学会等発表 「第29回日本医療薬学会年会」「リアルワールドデータを用いた関節リウマチ治療におけるインフリキシマブ血中濃度測定の有用性評価」「2019年11月2日」(共著発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井　翔
73	学会等発表 「第40回日本臨床薬理学会学術総会」「Real World Data解析に基づく関節リウマチ患者における血中インフリキシマブ濃度と疾患活動性との関連」「2019年12月5日」(筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井　翔
74	学会等発表 「第4回京都生体質量分析研究会シンポジウム」「LC-MS/MSを用いた抗体医薬品の一斉定量法の確立と関節リウマチ治療における臨床応用」「2020年2月19日」(筆頭発表)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井　翔
75	学会等発表 「第117回日本医学物理学会学術大会」「Prognostic prediction based on diagnostic CT image features before SBRT for lung cancer patients: a retrospective single-institutional study」「2019年4月11日～14日」 (筆頭発表)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	柿野　諒
76	学会等発表 「第49回京都放射線腫瘍研究会」「Dose-based radiomics特徴量を用いた肺SBRT 後の放射線肺臓炎の予測: 後方視的多施設共同研究」「2020年2月」第1著者	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	足立　孝則
77	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会第32回学術大会」「呼吸性移動による標的内Radiomics特徴量の変化：ファントム実験」「2019年11月」第4著者	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	足立　孝則
78	学会等発表 「第117回日本医学物理学会学術大会 (神奈川県横浜市)」「Three-dimensional tumor position estimation using image features on orthogonal kV X-ray projections: comparison of two feature extraction algorithms、「2019年4月11日～14日」(筆頭発表)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	安保　慎太郎

79	学会等発表 「日本放射線腫瘍学会 第32回学術大会」「呼吸性移動による標的内Radiomics特徴量の変化：ファントム実験」「2019年11月23日（土）」(筆頭発表)	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	長澤　良子
80	論文発表 「胆と膵」、「膵発癌におけるクロマチンリモデリング因子の役割」、「2019年4月」（共著発表）	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
81	論文発表 「産婦人科の進歩」「高度な肥満を合併した子宮体癌患者に対する術前減量入院の有効性」「2019年6月」(筆頭発表)	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	宮本　泰斗
82	論文発表 「日本小児血液・がん学会雑誌」「骨髄移植後に難治性の自己免疫性溶血性貧血を発症した先天性無巨核球性血小板減少症の乳児例」「2019年11月」（共著発表）	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥　達哉
83	論文発表 「小児血液がん雑誌」「骨髄移植後に難治性の自己免疫性溶血性貧血を発症した先天性無巨核球性血小板減少症の乳児例」「2019年」(筆頭発表)	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田坂　佳資
84	論文発表 「日本薬理学雑誌」「シュワン細胞に着目したタキサン系抗がん剤誘発末梢神経障害のバイオマーカーおよび新規予防/治療薬の探索」「2019年11月（総説）」(筆頭著者)	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	小柳　円花

【三重大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
1	学会発表 第81回日本血液学会学術集会 シクロフォスファミド抵抗性腫瘍細胞株を用いたマウスMHC半合致移植モデルの作製 2019年10月11日（共著発表）	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	西村　廣明
2	学会発表 第81回日本血液学会学術集会 新規薬剤時代におけるIgD型形質細胞白血病に対するタンデム自家／同種移植の経験 2019年10月11日（筆頭発表）	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	蜂矢　健介
3	学会発表 三重外科集談会 「Crescent techniqueを用いて乳房形成を行った非浸潤性乳管癌の一例」 2019年6月23日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋
4	学会発表 乳癌最新情報カンファランス 「乳房温存手術時に温存療法後の対側乳房に修正術を加えた 1 例」 2019年8月23,24日 （筆頭発表）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋
5	学会発表 乳癌最新情報カンファランス 「乳房部分切除術時に有用な新しい手術器具―EASY GRIP―」 2019年8月23,24日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋
6	学会発表 乳癌最新情報カンファランス 「乳頭の著明な腫脹を伴う乳管内乳頭腫に対し、整容性を考慮した根治術を行った一例」 2019年8月23,24日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋
7	学会発表 日本乳癌学会中部地方会 「下垂乳房に対するインプラントによる乳房再建後に局所麻酔下で健側乳頭乳輪挙上術を行 なった一例」 2019年8月31日・9月1日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋
8	学会発表 日本乳癌学会中部地方会 「BRCA2 遺伝子変異陽性であった男性再発乳癌の 1 例」 2019年8月31日・9月1日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋
9	学会発表 日本乳癌学会中部地方会 「乳癌が疑われる微細石灰化を伴った巨大線維腺腫の 1 例」 2019年8月31日・9月1日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋
10	学会発表 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会 「シンプルな手術で根治性と整容性の両立を目指す：80点を目指したオンコプラスティックサージャリー」 2019年10月10,11日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋
11	学会発表 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会 「乳房側胸部真皮脂肪筋膜弁を用いて乳房形成を行った乳房温存術の一例」 2019年10月10,11日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋
12	学会発表 日本臨床外科学会総会 「乳癌手術のトレーニングの在り方　術者の技量に関わらず正確な乳腺切離が行える新しい手術器具　EASY　GRIP」 2019年11月14日～16日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋
13	学会発表 日本臨床外科学会総会 「術前組織診が非浸潤癌であったが術後浸潤癌と診断された症例に対する二期的センチネルリンパ節生検の必要性」 2019年11月14日～16日 （筆頭演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋

14	学会発表 三重外科集談会 「Crescent techniqueを用いて乳房形成を行った非浸潤性乳管癌の一例」 2019年6月23日 （筆頭発表）	ライフステージに応じた 放射線治療・集学的診療を実践する 人材養成コース	吉川 美侑子
15	学会発表 乳癌最新情報カンファランス 「乳房部分切除術時に有用な新しい手術器具―EASY GRIP―」 2019年8月23,24日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う 人材養成コース	吉川 美侑子
16	学会発表 乳癌最新情報カンファランス 「乳房温存手術時に温存療法後の対側乳房に修正術を加えた 1 例」 2019年8月23,24日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う 人材養成コース	吉川 美侑子
17	学会発表 乳癌最新情報カンファランス 「乳頭の著明な腫脹を伴う乳管内乳頭腫に対し、整容性を考慮した根治術を行った一例」 2019年8月23,24日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う 人材養成コース	吉川 美侑子
18	学会発表 日本乳癌学会中部地方会 「下垂乳房に対するインプラントによる乳房再建後に局所麻酔下で健側乳頭乳輪挙上術を行 なった一例」 2019年8月31日・9月1日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う 人材養成コース	吉川 美侑子
19	学会発表 日本乳癌学会中部地方会 「BRCA2 遺伝子変異陽性であった男性再発乳癌の 1 例」 2019年8月31日・9月1日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う 人材養成コース	吉川 美侑子
20	学会発表 日本乳癌学会中部地方会 「乳癌が疑われる微細石灰化を伴った巨大線維腺腫の 1 例」 2019年8月31日・9月1日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う 人材養成コース	吉川 美侑子
21	学会発表 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会総会 「乳房側胸部真皮脂肪筋膜弁を用いて乳房形成を行った乳房温存術の一例」 2019年10月10,11日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う 人材養成コース	吉川 美侑子
22	学会発表 日本臨床外科学会総会 「乳癌手術のトレーニングの在り方 術者の技量に関わらず正確な乳腺切離が行える新しい手術器具 EASY GRIP」 2019年11月14日～16日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う 人材養成コース	吉川 美侑子
23	学会発表 日本臨床外科学会総会 「術前組織診が非浸潤癌であったが術後浸潤癌と診断された症例に対する二期的センチネルリンパ節生検の必要性」 2019年11月14日～16日 （共同演者）	ライフステージに応じた乳癌診療を担う 人材養成コース	吉川 美侑子
24	学会発表 子宮頸癌に対する腹腔鏡下傍大動脈リンパ節(PAN)生検術 第61回日本婦人科腫瘍学会 2019年7月4-6日	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	吉田 健太
25	学会発表 肥満患者とロボット支援下手術 第20回東海産婦人科内視鏡手術研究会 ワークショップ「ロボット支援下手術の現況と展望」 2019年10月26日	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	吉田 健太
26	学会発表 ナルデメジン投与患者における下痢発現 の危険因子に関する後方視的調査 第29回日本医療薬学会年会 2019年11月2日（筆頭発表）	ライフステージおよびゲノム情報に応じた 個別化医療を推進するがん専門医薬剤師 コース	岡本 明大
27	学会発表 頭頸部癌患者におけるニボルマブの使用状況と免疫関連有害事象の調査 第29回日本医療薬学会年会 2019年11月2日（共同演者）	ライフステージおよびゲノム情報に応じた 個別化医療を推進するがん専門医薬剤師 コース	岡本 明大
28	論文発表 手術部門における麻薬管理業務の電子化による業務効率に関する評価 日本病院薬剤師会雑誌 2019年6月（筆頭著者）	ライフステージおよびゲノム情報に応じた 個別化医療を推進するがん専門医薬剤師 コース	岡本 明大
29	学会発表 10年以上経過し再発が指摘された頭蓋内胚細胞腫瘍の報告日本医学放射線学会第167回中部地方会 2020年2月15日	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	南平 結衣

【滋賀医科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏 名
1	第17回日本臨床腫瘍学会学術集会「 Molecular and Clinicopathological characterization of URST1 as a new biomarker and therapeutic target for breast cancer 」7月18日（木） 筆頭発表	先進的がん医療開発と個別化医療を担う 医療従事者養成コース	青田 正子
2	日本緩和医療学会第2回関西支部学術大会「緩和ケアに関わる看護師への学習モデルの構築と多職種連携」2019年10月20日（日） 筆頭発表	先進的がん医療開発と個別化医療を担う 医療従事者養成コース	青田 正子
3	第78回日本癌学会学術総会 「トリプルネガティブ乳癌に対する新規予後バイオマーカーおよび治療標的としてのURST1の特性」 2019年9月26日（木）筆頭発表	先進的がん医療開発と個別化医療を担う 医療従事者養成コース	青田 正子

4	日本外科学会学術集会　膵頭十二指腸切除術後ドレーン再挿入危険因子の検討　2019年4月　筆頭発表	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
5	日本肝胆膵外科学会学術集会　Diversities and clinical roles of mesenchymal markers in the stroma of pancreatic ductal adenocarcinoma　2019年6月　筆頭発表	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
6	日本癌治療学会学術集会　Cancer-associated fibroblasts with only vimentin expression is an independent prognostic marker in pancreatic ductal adenocarcinoma　2019年10月　筆頭発表	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
7	近畿膵疾患談話会　膵癌間質における癌関連線維芽細胞の多様性と臨床的意義　2019年9月　筆頭発表	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
8	日本消化器外科学会学術集会　Clinicar significances and diversities of mesenchymal markers in the stroma of pancreatic ductal adenocarcinoma　2019年7月　筆頭発表	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
9	琵琶湖消化器外科懇話会　当科における膵切除後諸問題に対する取り組み　2019年6月　筆頭発表	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
10	日本膵切研究会　膵頭十二指腸切除術後早期の吻合部周囲液貯留部位と術後合併症との関連性　2019年8月　筆頭発表	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
11	日本膵臓学会学術集会　膵癌間質における線維化マーカーによる予後予測　2019年7月　筆頭発表	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
12	日本外科学会　80歳以上の高齢胃癌患者に対する術後感染性合併症に関する検討　2019年4月	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	安川　大貴
13	日本消化器外科学会 Risk factors for re-insertion of drainage tube after pancreaticoduodenectomy 2019年7月	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	安川　大貴
14	第11回日本静脈経腸栄養学会 近畿支部学術集会　静脈栄養法におけるリスクマネジメントにNST薬剤師はどう関わるべきか,2019年6月29日(筆頭発表)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
15	2019年4月18日～20日・第119回日本外科学会定期学術集会・一般ポスター・大阪府・大阪国際会議場	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森　治樹
16	2019年10月3日～4日・第55回日本胆道学会学術集会・一般ビデオ演題・愛知県名古屋市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森　治樹
17	第4回日本薬学教育学大会 臨床現場で学ぶべきチーム医療と栄養管理,2019年8月29日(筆頭発表)	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
18	國津侑貴, 磯野哲一郎,他、医療薬学フォーラム2019, シンポジウム「腎臓病患者の安全な薬物療法のための医薬薬連携」, 2019年7月14日	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野　哲一郎
19	第41回日本癌局所療法研究会 「大腸癌肝転移における転移巣の進展形態と予後解析の検討」　2019年6月21日　筆頭発表	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	長澤　芳信

【大阪医科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
1	臨床腫瘍学会　The hyperprogressive disease during nivolumab treatment or irinotecan treatment in patients with advanced gastric cancer 2019年7月	ライフステージに応じた 化学療法専門医養成コース	青木　雅彦
2	消化管学会 局所進行直腸癌に対する術前mFOLFOXIRI、XELOX(もしくはSOX)療法の有効性と安全性に関する後方視的検討、2020年2月7日(筆頭発表者：石塚保亘)	ライフステージに応じた 化学療法専門医養成コース	石塚　保亘
3	第71回日本産科婦人科学会　当院での神経温存広汎子宮全摘術における腹腔鏡下・ロボット支援下と開腹における排尿障害の検討　2019年4月　筆頭	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一

4	第61回　日本婦人科腫瘍学会　当院で子宮肉腫に対してパゾパニブ塩酸塩を使用した3例 2019年7月　筆頭	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
5	第59回日本産科婦人科内視鏡学会　当院での低侵襲子宮体癌手術におけるセンチネルリンパ節生検の検討　2019年9月　筆頭	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
6	JSAWI2019　子宮体癌の組織学的分化度に対するDWIおよび術中迅速組織診断の診断精度 2019年9月　筆頭	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一
7	日本産科婦人科内視鏡学会　閉経後のSertoli-Leydig細胞腫に腹腔鏡下手術を施行した1例 2019年9月、筆頭発表	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	宮本　瞬輔
8	日本婦人科腫瘍学会　当科における子宮体部原発神経内分泌小細胞癌2例 2019年7月、筆頭発表	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	宮本　瞬輔
9	日本エンドメトリオーシス学会　子宮腺筋症患者への手術中に尿管損傷を疑った1症例　2020年1月	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	宮本　瞬輔
10	日本産婦人科学会2019年4月　上皮性卵巣境界悪性腫瘍および卵巣癌118例におけるFDG−PET/CTのSUV max値の検討（筆頭発表）	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	上田　尚子
11	日本産科婦人科内視鏡学会　2019年9月　腹腔鏡下子宮筋腫核出術における モルセレーション時の臍部小切開症例とMorSafe®使用症例の検討（筆頭発表）	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	上田　尚子
12	日本婦人科腫瘍学会　2019年7月　当院で経験した子宮頸部すりガラス細胞癌の2例（筆頭発表）	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	上田　尚子
13	「第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会」「子宮体癌の臨床病理学的特徴における内臓脂肪の意義」「R1年7月4日」（筆頭発表）	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
14	「第59回産科婦人科内視鏡学会学術講演会」「内臓脂肪および皮下脂肪が腹腔鏡下子宮体癌手術に及ぼす影響に関する検討」「R1年9月12日」（筆頭発表）	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
15	「第34回日本女性医学学会学術集会」「内臓脂肪は卵巣癌の生命予後に影響するか」「R1年11月2日」（筆頭発表）	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛

【京都薬科大学】

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏　名
1	学会等発表 Multiple Myeloma Web Seminar（セルジーン株式会社主催）「多発性骨髄腫患者に対するレナリドミド血中濃度測定による有効性と安全性の検討」(1年9月3日）（筆頭発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	角　陽子
2	学会等発表 Hematology Seminar in Oumi（武田薬品工業株式会社主催）「IRd療法における薬剤師の役割について」(1年11月14日)（筆頭発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	角　陽子
3	学会等発表 日本薬学会第140年会（京都）、Wnt/β-catenin経路阻害効果を有する新規抗がん剤の抗腫瘍効果.、2020.3.25-28（筆頭発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	若林　亮介
4	学会等発表 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2019, MLL関連白血病に対する新規BET阻害剤CG14223の抗腫瘍効果と新規併用療法の探索., 2019.8.31（共著発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	甘利　圭悟
5	学会等発表 第24回造血器腫瘍研究会, BET阻害剤耐性MLL白血病細胞株の性状解析および 耐性克服を目指したCDK4/6阻害剤Abemaciclibの有用性の評価., 2020.1.31-2.1（筆頭発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	甘利　圭悟
6	学会等発表 第13回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム、低酸素環境に適応した多発性骨髄腫に対するγδT細胞の抗腫瘍効果、2019年10月19-20日（共著発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金　眞光
7	学会等発表 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2019、プロドラッグ化ビスホスホネートPTAがγδT細胞の増幅を促進し、非小細胞肺がん細胞に対する抗腫瘍効果を増強する、2019年8月31日（共著発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金　眞光

8	学会等発表 日本薬学会第140年会、在宅医療における大学院がん専門薬剤師育成プログラム（在宅チーム医療研修）の構築、2020年3月25-28日（筆頭発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	友金　眞光
9	学会等発表 「第69回　日本薬学会関西支部総会・大会」、「GGCT発現低下でがん細胞に誘導されるオートファジーはAMPKを介して調節される-GGCT阻害による抗がん効果のメカニズム解明-」、「2019年10月」（共著発表、口頭）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	髙木　寛子
10	学会等発表 「第69回　日本薬学会関西支部総会・大会」、「GGCT阻害剤とドセタキセルの併用は前立腺がん細胞に対する増殖抑制効果を増強する」、「2019年10月」(筆頭発表、ポスター)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	髙木　寛子
11	学会等発表 「第69回　日本薬学会関西支部総会・大会」、「Pro-GAの抗腫瘍効果のメカニズムには細胞周期停止と細胞老化の誘導が関与する」、「2019年10月」(共著発表、ポスター)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	髙木　寛子
12	学会等発表 「第69回　日本薬学会関西支部総会・大会」、「GGCT発現低下はAMPK-FOXOa-p21経路を介して膠芽腫細胞株の増殖を抑制する-GGCT阻害による抗がん効果のメカニズム解明-」、「2019年10月」(共著発表、ポスター)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	髙木　寛子
13	学会等発表 「日本薬学会第140年会」、「GGCT阻害剤はドセタキセルの前立腺がん細胞に対する増殖抑制効果を増強する」、「2020年3月」（筆頭発表、ポスター）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	髙木　寛子
14	学会等発表 「日本薬学会第140年会」、「Gamma-glutamylcyclotransferase (GGCT) 発現低下による膠芽腫細胞の増殖抑制はAMPK-FOXO3a-p21経路によって制御される」、「2020年3月」(共著発表、ポスター)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	髙木　寛子
15	学会等発表 「日本薬学会第140年会」、「GGCT阻害剤pro-GAによるMCF7乳がん細胞の増殖抑制効果にはCDK阻害因子誘導を伴う細胞周期停止と細胞老化が関与する」、「2020年3月」(共著発表、ポスター)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	髙木　寛子
16	学会等発表 「日本薬学会第140年会」、「γ-グルタミルシクロトランスフェラーゼ標的アンチセンス核酸はA549肺がん細胞において細胞周期停止とアポトーシスを誘導する」、「2020年3月」(共著発表、ポスター)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	髙木　寛子
17	学会等発表 次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2019、MLL関連白血病に対する新規BET阻害剤CG14223の抗腫瘍効果と新規併用療法の探索、2019年8月（共著発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	今吉　菜月
18	学会等発表 「低酸素環境に適応した多発性骨髄腫に対する γδT 細胞の抗腫瘍効果」第 13 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム. (岐阜), 2019.10（筆頭発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	佐野　友亮
19	学会等発表 第23回日本がん分子標的治療学会学術集会　クマリン化合物を基礎としたがん転移抑制薬の創製　2019年6月（筆頭発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	杉山　雄輝
20	学会等発表 第28回日本がん転移学会学術集会・総会　クマリン系化合物を基礎としたがん転移抑制薬 2019年7月（筆頭発表）	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	杉山　雄輝
21	学会等発表 GGCTの発現低下はAMPK-FOXO3a-p21経路を介してがん細胞の増殖を抑制する. 第78回日本癌学会学術総会, 京都, 2019.9.(共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤　翔太
22	学会等発表 Stat5b阻害は発がんマウスモデル由来膠芽腫幹細胞の増殖を阻害する. 第69回 日本薬学会関西支部総会・大会, 神戸, 2019.10.(共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤　翔太
23	学会等発表 GGCT発現低下でがん細胞に誘導されるオートファジーはAMPKを介して調節される -GGCT阻害による抗がん効果のメカニズム解明-. 第69回 日本薬学会関西支部総会・大会, 神戸, 2019.10.(共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤　翔太
24	学会等発表 GGCT発現低下はAMPK-FOXO3a-p21経路を介して膠芽腫細胞株の増殖を抑制する -GGCT阻害による抗がん効果のメカニズム解明- 第69回 日本薬学会関西支部総会・大会, 神戸, 2019.10.(共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤　翔太
25	学会等発表 アセトゲニン誘導体JCI-20679は膠芽腫細胞の増殖を抑制しNFAT発現を抑制する -抗腫瘍性アセトゲニン誘導体化合物の作用機序の解析-. 第69回 日本薬学会関西支部総会・大会, 神戸, 2019.10.(筆頭)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤　翔太
26	学会等発表 発がんマウスモデル由来膠芽腫幹細胞におけるStat5b阻害による細胞増殖抑制効果: ポスターセッション. 第9回 4大学連携研究フォーラム (京都), 2019.11.(共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤　翔太
27	学会等発表 Stat5bはマウスモデル由来膠芽腫幹細胞の増殖および生存を促進する. 日本薬学会第140年会, 京都, 2020.3.(共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤　翔太

28	学会等発表 .Gamma-glutamylcyclotransferase (GGCT) 発現低下による膠芽腫細胞の増殖抑制はAMPK-FOXO3a-p21経路によって制御される. 日本薬学会第140年会, 京都, 2020.3.(共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
29	学会等発表 アセトゲニン誘導体JCI-20679はNFAT1発現低下を介して膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する. 日本薬学会第140年会, 京都, 2020.3.(筆頭)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
30	学会等発表 Stat5bは膠芽腫幹細胞の生存および増殖を促進する新規治療標的候補である. ポスター発表,「2019年度(令和元年度)私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立Annual Meeting(京都), 2020.3.(共著)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
31	学会等発表 アセトゲニン誘導体JCI-20679はNFAT1発現低下を介して膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する. ポスター発表,「2019年度(令和元年度) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立Annual Meeting(京都), 2020.3.13(筆頭)	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤 翔太
32	学会等発表 第78回日本癌学会学術総会、ポスター発表(共著発表):「GGCTの発現低下はAMPK-FOXO3a-p21経路を介してがん細胞の増殖を抑制する」発表年月日:2019年9月26日	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
33	学会等発表 第78回日本癌学会学術総会、ポスター発表(共著発表):「GGCT阻害により誘導されるMCF7がん細胞増殖抑制は、N-アセチルシステイン添加により回復する」発表年月日:2019年9月28日	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
34	学会等発表 第69回日本薬学会関西支部総会・大会、口頭発表(筆頭発表):「Stat5b阻害は発がんマウスモデル由来膠芽腫幹細胞の増殖を阻害する―難治性脳腫瘍マウスモデルを用いた新規治療標的分子の探索―」発表年月日:2019年10月12日	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
35	学会等発表 第69回日本薬学会関西支部総会・大会、口頭発表(共著発表):「GGCT発現低下でがん細胞に誘導されるオートファジーはAMPKを介して調節される―GGCT阻害による抗がん効果のメカニズム解明―」発表年月日:2019年10月12日	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
36	学会等発表 第69回日本薬学会関西支部総会・大会、ポスター発表(共著発表):「アセトゲニン誘導体JCI-20679は膠芽腫細胞の増殖を抑制しNFAT発現を抑制する―抗腫瘍性アセトゲニン誘導体化合物の作用機序の解析―」発表年月日:2019年10月12日	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
37	学会等発表 第69回日本薬学会関西支部総会・大会、ポスター発表(共著発表):「GGCT発現低下はAMPK-FOXOa-p21経路を介して膠芽腫細胞株の増殖を抑制する―GGCT阻害による抗がん効果のメカニズム解明―」発表年月日:2019年10月12日	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
38	学会等発表 第9回4大学連携研究フォーラム、ポスター発表(筆頭発表):「 発がんマウスモデル由来膠芽腫幹細胞におけるStat5b阻害による細胞増殖抑制効果」 発表年月日:2019年11月12日	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
39	学会等発表 2019年度(令和元年度)私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立Annual Meeting、 ポスター発表(筆頭発表):「Stat5bは膠芽腫幹細胞の生存および増殖を促進する新規治療標的候補である」 発表年月日:2019年3月13日	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
40	学会等発表 2019年度(令和元年度)私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」新規分子標的治療薬創薬に向けた大学発ベンチャー基盤の確立Annual Meeting、ポスター発表(共著発表):「アセトゲニン誘導体JCI-20679はNFAT1発現低下を介して膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する」発表年月日:2019年3月13日	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
41	学会等発表 日本薬学会第140年会、ポスター発表(共著発表):「Gamma-glutamylcyclotransferase (GGCT) 発現低下による膠芽腫細胞の増殖抑制はAMPK-FOXO3a-p21経路によって制御される」 発表年月日:2019年3月26日	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
42	学会等発表 日本薬学会第140年会、ポスター発表(共著発表):「 アセトゲニン誘導体JCI-20679はNFAT1発現低下を介して膠芽腫幹細胞の増殖を抑制する」 発表年月日:2019年3月26日	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美
43	学会等発表 日本薬学会第140年会、口頭発表(筆頭発表):「Stat5bはマウスモデル由来膠芽腫幹細胞の増殖および生存を促進する」 発表年月日:2019年3月27日	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山 千愛美

資料 12

海外学会･シンポジウム等参加状況

【京都大学】

NO.	海外学会･シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	2019年5月18日～21日 DDW 2019 アメリカカルフォルニア州サンディエゴ	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
2	2019年9月6日～9日 AACR Special Conference on Pancreatic Cancer　アメリカマサチューセッツ州ボストン	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
3	2019年6月23日～24日 WIN2019 Syposium　フランス国パリ	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	三谷　洋介
4	2020年1月23日～25日 American Society of Clinical Oncology 2020 Gastrointestinal cancers symposium　米国･サンフランシスコ	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	近藤　知大
5	2019年9月13日～16日 AACR Advances in Ovarian Cancer Research 2019　アメリカ合衆国ジョージア州アトランタ	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	高松　士朗
6	2020年2月15～16日 近畿がん診療ネットワーク　第3回国際がんシンポジウム　日本 大阪市	小児とAYA世代のがんの新規診断･治療法開発を目指す医療人養成コース	田中　邦昭
7	2019年8月25日～28日 ICRR 2019　イギリス　マンチェスター	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	諏訪　達也
8	2020年1月23日～25日　ASCO GI サンフランシスコ	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	植木　一仁
9	2019年4月26日～30日 ESTRO 38th　イタリア　ミラノ	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
10	2019年6月23日～24日 WIN 2019 Symposium　フランス　パリ	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中　直
11	2019年12月10 日～14 日 SABCS　米国テキサス	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中　直
12	2019年9月7日～11日 欧州IVR学会(CIRSE)　スペイン国バルセロナ市	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
13	2019年5月17日～21日 Digestive Disease Week　San Diego (USA)	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
14	2019年9月27日～2019年10月1日　ESMO 2019　スペイン　バルセロナ	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西﨑　大輔
15	2019年10月22日～2019年10月26日　Cochrane Colloquium チリ サンチアゴ （オンライン開催･発表）	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西﨑　大輔
16	2019年12月9日～13日 SABCS2019　USA　サンアントニオ	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田　典子
17	2019年5月18日～21日 Digestive Disease Week 米国　サンディエゴ	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	木村　有佑
18	2019年10月8日～11日 The 48th Naito Conference　Integrated Sensory Sciences – Pain, Itch, Smell and Taste 北海道札幌市	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	小柳　円花
19	2019年10月19日～23日 The 49th annual meeting of Society for Neuroscience, Neuroscience 2019 アメリカ合衆国シカゴ	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	小柳　円花

20	2020年1月10日～1月11日　23rd　East Asian Forum of Nursing Scholars　タイ　チェンマイ	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	石川　恵子
21	2019年7月14日～18日 AAPM2019　アメリカ合衆国テキサス州サンアントニオ	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	柿野　諒

【三重大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	ESTRO（欧州放射線腫瘍学会）2019/4/26～30	ライフステージに応じた 放射線治療・集学的診療を実践する 人材養成コース	間瀬　貴充
2	The 10th JSH International Symposium 2019 in Ise-Shima 三重 2019.5.17-18	ライフステージに応じた集学的治療を担う 腫瘍内科専門医養成コース	永春　圭規
3	2019年6月23日～24日 WIN 2019 Symposium　フランス　パリ	ライフステージに応じた集学的治療を担う 腫瘍内科専門医養成コース	永春　圭規
4	The 10th JSH International Symposium 2019 in Ise-Shima 三重 2019.5.17-18	ライフステージに応じた集学的治療を担う 腫瘍内科専門医養成コース	澤木　昭彦
5	The 10th JSH International Symposium 2019 in Ise-Shima 三重 2019.5.17-18	ライフステージに応じた集学的治療を担う 腫瘍内科専門医養成コース	西村　廣明
6	The 10th JSH International Symposium 2019 in Ise-Shima 三重 2019.5.17-18	ライフステージに応じた集学的治療を担う 腫瘍内科専門医養成コース	蜂矢　健介

【滋賀医科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	2019年6月23日～24日 WIN 2019 Symposium　フランス　パリ	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法 を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
2	2019年8月31日～2019年9月3日、欧州臨床栄養代謝学会参加、ポーランド・クラクフ	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法 を担う薬剤師養成コース	神谷　貴樹
3	2019年10月3日～5日、IASGO、タイ・バンコク	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法 を担う薬剤師養成コース	前平　博充

【大阪医科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	ASCO GI 2019 、A retrospective analysis of third line treatment in advanced gastric cancer、2019年1月18日	ライフステージに応じた 化学療法専門医養成コース	石塚　保亘
2	WIN2019 New approaches using extracellular vesicles for cancer treatment to improve radiosensistivity. 2019年6月	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	寺田　信一

【京都薬科大学】

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	The 3rd International Cancer Research Symposium of Training Plan for Oncology Professionals, Osaka, 2020.2.15-16	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献する がん専門薬剤師養成コース	安藤　翔太
2	2019年2月15日～16日、The 3rd International Cancer Research Symposium of Training Plan for Oncology Professionals、大阪	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献する がん専門薬剤師養成コース	茂山　千愛美

資料 13

国内学会・シンポジウム等参加状況

【京都大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	2019年7月12日～13日　第50回日本膵臓学会　東京都港区	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
2	2019年9月26日～28日　第78回日本癌学会学術集会　京都府京都市	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
3	2019年11月21日～24日　JDDW 2019　兵庫県神戸市	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	小川　智
4	2019年9月26日～28日　第78回日本癌学会学術総会　京都府京都市	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	三谷　洋介
5	2019年4月19日　第119回日本外科学会定期学術集会　大阪府大阪市	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	森本　智紀
6	2019年7月19日　第74回日本消化器外科学会総会　東京都品川区	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	森本　智紀
7	2019年7月18日～20日　第17回日本臨床腫瘍学会学術集会　京都府京都市	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	片岡　滋貴
8	2019年9月26日～28日　第78回日本癌学会学術総会　京都府京都市	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	片岡　滋貴
9	2019年6月29日　第7回日本臨床腫瘍学会近畿地区セミナー　京都府京都市	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
10	2019年7月5日　ミニシンポジウム「病理診断とがんhモデル」 京都府京都市	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
11	2019年9月26日～28日　第78回日本癌学会学術集会　京都府京都市	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
12	2019年10月24日～26日　第57回日本癌治療学会学術集会　福岡県福岡市	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	齋藤　伴樹
13	2019年7月6日～7日　Best of ASCO 2019 in Japan　東京都江東区	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	江本　憲央
14	2019年7月18日～2019年7月20日　第17回日本臨床腫瘍学会学術集会　京都府京都市	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	近藤　知大
15	2019年7月5日～2019年7月7日　第5回クリニカルバイオバンク学会シンポジウム　福岡県福岡市	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	近藤　知大
16	2019年8月2日～2019年8月4日　臨床遺伝2019北海道札幌市	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	近藤　知大
17	2019年9月26日～2019年9月28日　第78回日本癌学会学術総会　京都府京都市	プレシジョンメディシンに対応できる がんゲノム医療従事者育成コース	近藤　知大
18	2019年4月11日～14日　第71回日本産科婦人科学会学術講演会　愛知県名古屋市	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	浮田　真沙世
19	2019年8月21日～23日　第23回日本がん免疫学会総会　高知県高知市	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	浮田　真沙世
20	2019年9月12日～14日　第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会　京都府京都市	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	浮田　真沙世
21	2019年9月26日～28日　第78回日本癌学会学術総会　京都府京都市	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	浮田　真沙世
22	2019年7月4日～6日　第61回　日本婦人科腫瘍学会学術講演会　新潟県新潟市	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	水野　林
23	2019年9月26～28日　第78回日本癌学会学術総会　京都府京都市	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	水野　林
24	2019年4月12日　第71回日本産婦人科学会学術講演会　愛知県名古屋市	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	古武　陽子
25	2019年7月4日　第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会　新潟県新潟市	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	古武　陽子

26	2019年9月27日　第78回日本癌学会学術総会　京都府京都市	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	古武　陽子
27	2019年4月11日～14日　第71回日本産科婦人科学会学術講演会　愛知県名古屋市	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	宮本　泰斗
28	2019年7月6日～7日　第18回日本婦人科がん分子標的研究会　新潟県新潟市	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	宮本　泰斗
29	2019年9月26日～28日　第78回日本癌学会学術総会　京都府京都市	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	宮本　泰斗
30	2019年7月4日～6日　第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会　新潟県新潟市	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	河原　俊介
31	2019年9月26日～28日　第78回日本癌学会学術総会　京都府京都市	婦人科腫瘍における ゲノム医療従事者養成コース	河原　俊介
32	2019年9月26～28日　日本癌学会学術総会　京都府京都市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田中　邦昭
33	2019年10月5日　日本血液疾患免疫療法学会学術集会　東京都	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田中　邦昭
34	2019年4月19日～21日　第122回日本小児科学会学術集会　石川県金沢市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	三上　貴司
35	2019年4月19日～21日　第122回日本小児科学会学術集会参加　金沢市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥　達哉
36	2019年8月21日～2019年8月23日　第23回がん免疫学会総会　高知県高知市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥　達哉
37	2019年9月26日～2019年9月28日　第78回日本癌学会学術総会　京都府京都市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥　達哉
38	2019年10月11日～13日　第81回日本血液学会学術集会　東京都品川	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	神鳥　達哉
39	2019年9月26日～28日　第78回日本癌学会学術集会　京都府京都市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	田坂　佳資
40	2019年11月15日～11月16日　日本小児血液・がん学会参加　広島県広島市	小児とAYA世代のがんの新規診断・治療法開発を目指す医療人養成コース	磯部　清孝
41	2019年10月5日　関西若手放射線治療研究会　大阪府大阪市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	芦田　良
42	2019年10月12日　京都放射線腫瘍研究会　京都府京都市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	芦田　良
43	2019年10月19日～20日　日本医学放射線学会秋季大会　愛知県名古屋市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	芦田　良
44	2019年4月11日　第78回日本医学放射線学会総会　神奈川県横浜市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	小野　幸果
45	2019年6月7日～8日　第57回日本放射線腫瘍学会生物部会学術大会・第48回放射線による制癌シンポジウム　青森県弘前市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	諏訪　達也
46	2019年11月9日　日本放射線学会関西地方会　大阪市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	植木　一仁
47	2019年11月21日～23日 日本放射線腫瘍学会　32回学術大会　名古屋市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	植木　一仁
48	2019年4月13日～14日　第78回日本医学放射線学会総会　神奈川県横浜市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
49	2019年5月11日、7th Taiwan-JapanRadiation Oncology Symposium（第7回日本-台湾放射線腫瘍学シンポジウム）　東京都江東区	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
50	2019年6月14日　日本定位放射線治療学会、新潟県新潟市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
51	2019年6月29日　第110回日本肺癌学会関西支部学術集会　京都府京都市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
52	2019年11月21日～23日　第110回日本肺癌学会関西支部学術集会　京都府京都市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
53	2019年12月6日～8日　日本放射線腫瘍学会第32回学術大会　愛知県名古屋市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子

54	第60回日本肺癌学会学術集会　大阪府大阪市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
55	2020年1月24日～25日　第12回呼吸機能イメージング研究会学術集会　東京都港区	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
56	2020年2月15日　第49回京都放射線腫瘍研究会　京都府京都市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	岸　徳子
57	2019年9月7日～9月8日　第16回日本中性子捕捉療法学会学術大会　京都府宇治市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	武野　慧
58	2019年9月14日～9月16日　2019年 日本数理生物学会年会　東京都目黒区	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	武野　慧
59	2019年11月21日～11月23日　日本放射線腫瘍学会 第32回 学術大会　愛知県名古屋市	希少がん及び小児がんに対する 放射線治療を担う人材養成コース	武野　慧
60	2019年9月26日～9月28日　日本癌学会・第78回日本癌学会学術総会　京都府京都市	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	田中　直
61	2019年4月12～14日　日本医学放射線学会総会　神奈川県横浜市	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
62	2019年4月27～28日　日本核医学会春季セミナー　東京都港区	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
63	2019年5月30日～6月1日　第48回日本IVR学会総会　福岡県福岡市	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
64	2019年6月28～29日　第33回日本腹部放射線学会総会　山口県下関市	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
65	2019年10月18～19日　日本医学放射線学会秋季大会　愛知県名古屋市	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	徳永　幸史
66	2019年4月18日～20日　第119回日本外科学会学術集会　大阪府大阪市	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
67	2019年7月17日～19日　第74回日本消化器外科学会総会　東京都港区	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
68	2019年12月4日　第13回肝臓内視鏡外科研究会　東京都	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	戸田　怜
69	2019年12月5～7日　日本内視鏡外科学会参加　神奈川県横浜市	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	西﨑　大輔
70	2019年7月11日～13日　第28回日本乳癌学会学術総会　東京都新宿区	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田　典子
71	2019年7月18日～20日　第17回日本臨床腫瘍学会学術集会　京都府京都市	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田　典子
72	2019年4月18日～21日　第119回日本外科学会定期学術集会　大阪府大阪市	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	仙田　典子
73	2019年7月17日～19日　第74回消化器外科学会総会　東京都港区	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	横山　大受
74	2019年7月17日～19日　第74回消化器外科学会総会　東京都港区	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田　真也
75	2019年12月5日～7日　第32回内視鏡外科学会総会　神奈川県横浜市	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	吉田　真也
76	2020年1月31日～ 2月1日　日本メディカルAI学会　東京都	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	愛須　佑樹
77	2019年12月5日～7日　第32回日本内視鏡外科学会総会　神奈川県横浜市	ライフステージと多様なニーズに応じた 外科治療、集学的診療を担う医療人養成	松原　弘侑
78	2020年2月1日　中部ハンドセラピィ研究会　島根県出雲市	がんの病期やライフステージに対応した 戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	馬場　千夏
79	2019年6月21日～22日　第24回日本緩和医療学会学術大会　神奈川県横浜市	がんの病期やライフステージに対応した 戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	原田　圭子
80	2019年8月4日　SSI基幹プロジェクト　キックオフ・シンポジウム　大阪府大阪市	がんの病期やライフステージに対応した 戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	原田　圭子
81	2019年9月19日～21日　第75回 日本体力医学会大会　茨城県つくば市	がんの病期やライフステージに対応した 戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	原田　圭子

82	2020年3月20日～21日　AYAがんの医療と支援のあり方研究会学術集会　web開催	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	原田　圭子
83	2019年10月11日～12日　日本サイコオンコロジー学会　東京都江戸川区	がんの病期やライフステージに対応した戦略を構築できるリハビリテーションスタッフの養成	森野　達平
84	2019年10月12日　第69回日本薬学会 関西支部総会・大会　兵庫県神戸市	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	荻原　孝史
85	2019年5月25日～5月26日　第36回日本TDM学会・学術大会　東京都中央区	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	糸原　光太郎
86	2019年7月23日　喫煙科学研究財団研究報告発表会　東京都新宿区	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	小柳　円花
87	2019年7月25日～28日　NEURO2019　新潟県新潟市	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	小柳　円花
88	2019年9月28日～2019年9月29日　日本臨床疫学会・第3回年次学術大会　福岡県福岡市（パピオン24）	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	幾田　慧子
89	2019年10月11日～2019年10月13日　日本薬剤疫学会・第25回学術総会・第12回国際薬剤疫学会アジア会議(ACPE)　京都府京都市（みやこめっせ）	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	幾田　慧子
90	2019年9月28日～2019年9月29日　日本臨床疫学会 第3回年次学術大会　福岡県福岡市	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井　翔
91	2019年10月11日～2019年10月13日　ISPE’s 12th Asian Conference on Pharmacoepidemiology and 25th Japanese Conference on Pharmacoepidemiology joint meeting　京都府京都市	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース	増井　翔
92	2019年8月3日～4日　日本看護学教育学会第29回学術集会　京都府京都市	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	森西　可菜子
93	2019年10月12日～13日　第6回日本糖尿病医療学学会　京都府京都市	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	森西　可菜子
94	2019年6月21日～22日　緩和医療学会第24回日本緩和医療学会学術大会　神奈川県横浜市	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	宮園　めぐみ
95	2019年10月20日　緩和医療学会第2回関西支部学術大会　和歌山県和歌山市	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	宮園　めぐみ
96	2020年2月22日～23日　日本がん看護学会第34回学術集会　東京都	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	宮園　めぐみ
97	2019年8月20日～21日　日本看護研究学会第45回学術集会　大阪府大阪市	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	石川　恵子
98	2019年8月3日～4日　日本看護学教育学会第29回学術集会　京都府京都市	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	石川　恵子
99	2019年11月3日～4日　第40回日本肥満学会　東京都	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	石川　恵子
100	2019年6月21日～22日　第２４回日本緩和医療学会学術大会　神奈川県横浜市	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	文岡　礼雅
101	2019年6月21日～22日　緩和医療学会・第24回日本緩和医療学会学術大会　神奈川県横浜市	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	山﨑　万梨子
102	2019年6月1日　日本CNS看護学会　愛知県名古屋市	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	鈴木　帆奈
103	2019年8月3日～8月4日　日本看護教育学会　京都府京都市	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	鈴木　帆奈
104	2019年8月20日～8月21日　日本看護研究学会　大阪府大阪市	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	鈴木　帆奈
105	2019年11月2～11月3日　日本循環器看護学会　東京都港区	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース	鈴木　帆奈
106	2019年4月11日～14日　第117回日本医学物理学会学術大会　神奈川県横浜市	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	柿野　諒
107	2019年4月11日～4月14日　第117回日本医学物理学会学術大会　神奈川県横浜市	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース	足立　孝則

【三重大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	第81回日本血液学会学術集会、東京　2019.10.11-13	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	西村　廣明
2	第81回日本血液学会学術集会、東京　2019.10.11-13	ライフステージに応じた集学的治療を担う腫瘍内科専門医養成コース	蜂矢　健介
3	第13回日本緩和医療薬学会年会、幕張　2019.5.31-6.2	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本　明大
4	第24回日本緩和医療学会学術大会、横浜　2019.6.21-22	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本　明大
5	第32回医療薬学フォーラム2019第27回クリニカルファーマシーシンポジウム、広島　2019.7.13-14	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本　明大
6	第32回日本サイコオンコロジー学会総会、金沢　2019.10.11-12	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本　明大
7	第29回日本医療薬学会年会、福岡　2019.11.2-4	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本　明大
8	日本緩和医療学会第2回東海・北陸支部学術大会、三重　2019.12.7-8	ライフステージおよびゲノム情報に応じた個別化医療を推進するがん専門医薬剤師コース	岡本　明大
9	第119回日本外科学会定期学術集会、大阪　2019.4.18-20	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋
10	第27回日本乳癌学会学術総会、東京　2019.7.11-13	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋
11	第20回乳癌最新情報カンファランス、小樽　2019.8.23-24	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋
12	第16回日本乳癌学会中部地方会、名古屋　2019.8.31-9.1	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋
13	第81回日本臨床外科学会総会、高知　2019.11.14-16	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	東　千尋
14	第292回三重外科集談会、三重　2019.6.23	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	吉川　美侑子
15	第27回日本乳癌学会学術総会、東京　2019.7.11-13	ライフステージに応じた乳癌診療を担う人材養成コース	吉川　美侑子
16	第24回日本緩和医療学会学術集会、横浜　2019.6.21-22	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース	山口　久美子
17	第71回日本産科婦人科学会学術集会、名古屋　2019.4.11-14	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	吉田　健太
18	第61回日本婦人科腫瘍学会学術集会、新潟　2019.7.4-6	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	吉田　健太
19	第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会、京都　2019.9.12-14	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース	吉田　健太
20	第81回日本血液学会学術集会、東京　2019.10.11-13	小児がん治療専門医養成コース	伊藤　卓洋

21	日本放射線腫瘍学会第32回学術大会、名古屋　2019.11.21-23	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	南平　結衣
22	日本放射線腫瘍学会第32回学術大会、名古屋　2019.11.21-23	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	間瀬　貴充
23	日本放射線腫瘍学会第32回学術大会、名古屋　2019.11.21-23	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	大森　千輝
24	日本放射線腫瘍学会第32回学術大会、名古屋　2019.11.21-23	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース	谷口　彰人

【滋賀医科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	2019年4月19日　日本外科学会学術集会　大阪府大阪市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
2	2019年6月13日～2019年6月14日　日本肝胆膵外科学会学術集会　香川県高松市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
3	2019年10月24日～2019年10月25日　日本癌治療学会学術集会　福岡県福岡市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
4	2019年9月14日　近畿膵疾患談話会　大阪府大阪市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
5	2019年7月18日～2019年7月19日　日本消化器外科学会学術集会　神奈川県横浜市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
6	2019年6月22日　琵琶湖消化器外科懇話会　滋賀県草津市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
7	2019年8月23日～2019年8月24日　日本膵切研究会　岐阜県下呂市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
8	2019年7月12日～2019年7月13日　日本膵臓学会学術集会　東京都	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	前平　博充
9	2019年4月18日～2019年4月20日　日本外科学会　大阪府	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	安川　大貴
10	2019年7月19日　日本消化器外科学会　東京都	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	安川　大貴
11	2019年4月18日～2019年4月20日・第119回日本外科学会定期学術集会・一般ポスター・大阪府・大阪国際会議場	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森　治樹
12	2019年10月3日～2019年10月4日・第55回日本胆道学会学術集会・一般ビデオ演題・愛知県名古屋市	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	森　治樹
13	2019年5月25日～2019年5月26日　第36回日本TDM学会学術大会 東京都	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野　哲一郎
14	2019年7月13日～2019年7月14日 医療薬学フォーラム2019, 広島県広島市	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	磯野　哲一郎
15	2019年5月25日～2019年5月26日　第36回日本TDM学会・学術大会参加、日本、東京	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	小川　暁生

16	2019年5月31日～2019年6月1日　第22回日本臨床救急医学会・学術大会参加、日本、和歌山	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース	小川　暁生

【大阪医科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	2019年4月11～14日、日本産科婦人科学会、愛知県名古屋市	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	宮本瞬輔
2	2019年7月4～6日、日本婦人科腫瘍学会、新潟県新潟市	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	宮本瞬輔
3	2019年7月31日～8月2日、患者由来がんモデル研究会、東京都中央区	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	宮本瞬輔
4	2019年9月12～14日、日本産科婦人科内視鏡学会、京都府京都市	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	宮本瞬輔
5	2019年9月26～28日、日本癌学会、京都府京都市	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	宮本瞬輔
6	2020年1月18～19日、日本エンドメトリオーシス学会、山口県下関市	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	宮本瞬輔
7	消化管学会 、2020年2月7日	ライフステージに応じた 化学療法専門医養成コース	石塚　保亘
8	2019年4月11日～14日　日本産婦人科学会　愛知県名古屋市	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	上田　尚子
9	2019年7月4日～6日　日本婦人科腫瘍学会　新潟県新潟市	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	上田　尚子
10	2019年9月12日～14日　日本産科婦人科内視鏡学会　京都府京都市	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	上田　尚子
11	R1年7月4日～R1年7月6日、第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会、新潟県新潟市	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
12	R1年9月12日～R1年9月14日、第59回産科婦人科内視鏡学会学術講演会、京都府京都市	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
13	R1年11月2日～R1年11月3日、第34回日本女性医学会学術集会、福岡県博多市	婦人科腫瘍治療における ゲノム医療従事者養成コース	丸岡　寛
14	臨床腫瘍学会　2019年7月	ライフステージに応じた 化学療法専門医養成コース	青木　雅彦

【京都薬科大学】

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏　名
1	1年5月11日～12日、第44回日本骨髄腫学会学術集会参加、愛知県名古屋市	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献する がん専門薬剤師養成コース	角　陽子
2	1年7月18日～20日、第17回日本臨床腫瘍学会学術集会参加、京都府京都市	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献する がん専門薬剤師養成コース	角　陽子
3	1年10月11日～13日、第81回日本血液学会学術集会参加、東京都千代田区	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献する がん専門薬剤師養成コース	角　陽子
4	1年11月2日～4日、第29回日本医療薬学会年会参加、福岡県福岡市	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献する がん専門薬剤師養成コース	角　陽子
5	2019年9月26-28日、第78回日本癌学会学術総会、京都府京都市	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献する がん専門薬剤師養成コース	友金　眞光
6	令和元年9月26日～令和元年9月28日、日本癌学会学術総会参加、京都府京都市	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献する がん専門薬剤師養成コース	髙木　寛子
7	令和元年10月19日～令和元年10月20日、第13回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム参加、岐阜県岐阜市	ライフステージに応じた個別化がん治療 における全人的医療に貢献する がん専門薬剤師養成コース	佐野　友亮

8	令和元年9月26日～令和元年9月28日、第78回日本癌学会学術総会参加、京都府京都市	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	佐野　友亮
9	第78回日本癌学会学術総会, 京都, 2019.9.26-28	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤　翔太
10	第9回 4大学連携研究フォーラム（京都), 2019.11.12	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	安藤　翔太
11	2019年9月26日～2019年9月28日、第78回日本癌学会学術総会、京都	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山　千愛美
12	2019年11月12日、第9回4大学連携研究フォーラム、京都	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース	茂山　千愛美

学生短期研修

学生短期研修

近畿地区３拠点合同フォーラム

令和元年度　「5大学連携海外合同教育セミナー」

●訪問日：2019年6月22日～24日

●相手機関

フランス国パリ

ワールドワイド・イノベーティブ・ネットワーク（WIN）コーソシアム

「WIN　Symposium2019」

●目的

国際交流・人材交流プログラムの一つとして実施し、

がんプロ履修生自身が海外でのがん研究における最先端医療研究機関等での

研究者を前にして研究成果を発表し、その研究の方向性への指導を受け、意見交換する機会を提供します。

●過去実績

平成29年度：2018年3月12～13日「米国テキサス州立大学MDアンダーソンがんセンター」

平成30年度：2018年5月13～19日「GAP　cnference2018（ストックホルム　カロリンスカ研究所）」

●参加者一覧

大学名	氏名	所属・職名・専攻名・学年・がんプロコース名
【教員】		
京都大学	金井　雅史	医学研究科　特定准教授
京都大学	今井　哲司	医学研究科　講師
【学生】		
京都大学	三谷　洋介	医学研究科 D4 プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
京都大学	田中　直	医学研究科 D4 ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
三重大学	永春　圭規	医学系研究科 D4 ライフステージに応じた集学的診療を担う腫瘍内科専門医養成コース
滋賀医科大学	神谷　貴樹	医学系研究科 D4 ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース
大阪医科大学	寺田　信一	医学研究科 D3 婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース
京都薬科大学	友金　眞光	薬学研究科　D2 ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬学師養成コース

6/22 Work shop in Paris

6/22 Work shop in Paris

6/22 懇親会

●研修内容

・6月22日　令和元年度「5大学連携海外合同教育セミナー」Work shop in Paris

会場：Conference room , Novotel Paris Centre Tour Eiffel Hotel

Time	Seminar	Speaker	University	Title
1500–1515	Self-introduction			
1515–1530	Student presentation	三谷　洋介	Kyoto	Cell-based functional analysis of a HER2 VUS identified by clinical NGS in a colorectal cancer patient
1530–1545	Student presentation	田中　直	Kyoto	A peptide with the conserved amino acid residue of integrin α6 suppresses metastasis via disturbing complex formation in breast cancer cells
1545–1600	Student presentation	永春　圭規	Mie	Neutrophil alkaline phosphatase is a valuable prognostic tool for JAK2 mutation in myeloproliferative neoplasms.
1600–1620	Lecture: Instructor	今井 哲司	Kyoto	Instructor Lecture
1620–1635	Student presentation	神谷　貴樹	Shiga Medical	Exacerbating factors for poor oral intake associated with hematopoietic stem cell transplantation
1635–1650	Student presentation	友金　眞光	Kyoto Pharmaceutical	The relationship between anti-tumor activity of γδT cells and PD-1/PD-L1 axis for γδT cell immunotherapy
1705–1730	Discussion			

1800–2100	懇親会

・6月23～24日「 WIN　Symposium2019」

会場： Novotel Paris Centre Tour Eiffel Hotel

「WIN　Symposium2019」に参加し、最新の研究情報の収集等、及びポスター発表

6/22 Work shop in Paris

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	●●●	氏　名	●●●
所属コース	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース		

研修等の名称	令和元年度 海外合同教育セミナー （WIN 2019 Symposium）
研修等期間	令和元年 6 月 21 日から 6 月 25 日
研修等目的	令和元年度がんプロ事業として、フランス国パリにて「５大学連携海外合同教育セミナー」を実施
研修等内容	上記のセミナーに参加し、「Workshop in paris」にて研究発表、及び意見交換を行う。また、「WIN 2019 Symposium」に出席し、がん個別化医療における最新の研究成果に関する情報収集、及び研究発表を行う。
セミナー開催機関	ワールドワイド・イノベーティブ・ネットワーク（WIN）コンソーシアム
開催期間	令和元年 6 月 22 日から 6 月 24 日
発表の場合の題目	Cell-based functional analysis of a HER2 VUS identified by clinical NGS in a colorectal cancer patient

●研修等参加による成果

このたび、フランスで行われた５大学連携海外合同教育セミナーに参加させていただき、WIN 2019 symposium に参加し上記題目で発表させていただきました。私はがんゲノム医療に興味がありがんゲノム解析とそれに基づく治療が研究テーマであることもあり、同様のテーマをもった同学会に興味をもっていたところで、このたび参加する機会をいただいたことを大変嬉しく思っております。

パリに到着後、6 月 22 日には参加した大学院生と教官を交えて workshop を開催いただき、英語で自分の研究内容の発表、質疑応答を行いました。英語に自信がなくやや不安ではありましたが、教官方のサポートもあり、充実したディスカッションをすることができ、また有意義なアドバイスを多数いただきました。今後の研究に生かしていこうと思っております。

6/23-6/24 の間、WIN 2019 symposium に参加し、ポスターセッションで発表を行いました。米国から参加された学生や研究者の方に大変興味を持っていただき、研究内容や今後の研究の方針に関して説明し、熱くディスカッションをすることができ大変貴重な経験が得られました。

WIN2019 のレクチャーは有名な先生方の講演が続き、とくにゲノム編集技術の研究や臨床における応用などに関する講演は自分が思っていたよりずっと発展したもので大変印象深く感じました。私の研究テーマでもあるがんゲノム医療における展望や各国（USA, ヨーロッパ、アジア）の抱える現在の状況や問題点、それに対する工夫などに関する講演が続き、非常に考えさせられるのとともに今後この医療分野が発展する可能性を直に感じることができました。

このような貴重な経験をさせていただき、このセミナーの開催にあたってご尽力いただいた諸先生方、同行いただいた教官の先生方、またがんプロ事務局の皆様に心より御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	●●●	氏　名	●●●
所属コース	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成コース		

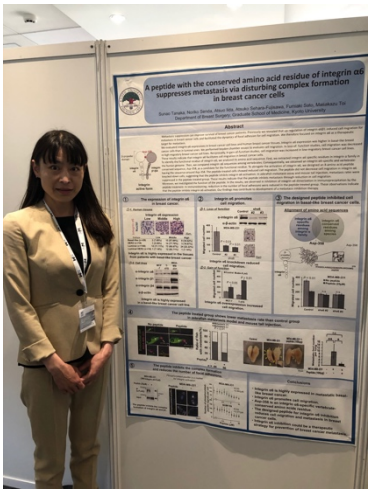
研修等の名称	令和元年度 海外合同教育セミナー　（WIN 2019 Symposium）
研修等期間	令和元年 6 月 22 日から 6 月 24 日
研修等目的	令和元年度がんプロ事業として、フランス国パリにて「５大学連携海外合同教育セミナー」を実施
研修等内容	上記のセミナーに参加し、「Workshop in paris」にて研究発表、及び意見交換を行う。また、「WIN 2019 Symposium」に出席し、がん個別化医療における最新の研究成果に関する情報収集、及び研究発表を行う。
セミナー開催機関	ワールドワイド・イノベーティブ・ネットワーク（WIN）コンソーシアム
開催期間	令和元年 6 月 22 日から 6 月 24 日
発表の場合の題目	A peptide with the conserved amino acid residue of integrin α6 suppresses metastasis via disturbing complex formation in breast cancer cells

●研修等参加による成果

今回の海外研修では癌プロ大学院生の研究発表、講師の研究講義が行われた Workshop in Paris と 2 日間にわたる WIN 2019 Symposium に参加しました。

1 日目の Workshop in Paris ではそれぞれの研究内容の紹介を行いました。Symposium のメイントピックである癌個別化医療とは分野の異なる研究発表も多くさらに研究分野が多岐にわたっていたため、興味深い反面専門外のトピックスにおいては発表を通してだけでは理解が難しいところもありました。しかし Q&A セッションでの discussion を通してそれぞれの研究の面白さ・奥深さを共有することが出来、多くの刺激を受けた大変有意義な Workshop となりました。

2 日目・3 日目に参加した WIN は学術・製薬・バイオテクノロジー・患者支援といったそれぞれの分野において卓越した組織が加入する世界的なネットワークとなっており、WIN 2019 Symposium では最先端のゲノムに基づく癌研究について多くの研究成果発表がありました。早くからゲノム医療を推進してきた米国など海外の臨床試験やゲノムの基礎研究の成果などは癌患者に癌個別化治療における進歩の恩恵をもたらすものになると期待できるものが多く非常に刺激を受けました。



今回の海外研修に参加したことで、今後の研究へのモチベーションに繋がる大変素晴らしい時間を過ごすことができ、また海外留学などを含めてさらに自身の活躍の場を広げていこうと思いました。5 大学合同海外研修のため全く面識のない方ばかりでしたが、Workshop in Paris や懇親会・移動中に他大学の大学院生と研究について disucussion 出来たことによって大変実りのある研修となり、人との大切な繋がりも得ることができました。このような機会を与えて頂いたことに感謝し、今回の経験を日々の研究に活かして今後も精進をしていきたいと思います。

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	●●●	氏　名	●●●
所属コース	ライフステージに応じた集学的診療を担う腫瘍内科専門医養成コース		
研修等の名称	令和元年度 海外合同教育セミナー （WIN 2019 Symposium）		
研修等期間	令和元年 6 月 21 日から 6 月 25 日		
研修等目的	令和元年度がんプロ事業として、フランス国パリにて「５大学連携海外合同教育セミナー」を実施		
研修等内容	上記のセミナーに参加し、「Workshop in paris」にて研究発表、及び意見交換を行う。また、「WIN 2019 Symposium」に出席し、がん個別化医療における最新の研究成果に関する情報収集、及び研究発表を行う。		
セミナー開催機関	ワールドワイド・イノベーティブ・ネットワーク（WIN）コンソーシアム		
開催期間	令和元年 6 月 22 日から 6 月 24 日		
発表の場合の題目	Neutrophil alkaline phosphatase is a valuable prognostic tool for JAK2 mutation in myeloproliferative neoplasms.		

●研修等参加による成果

個別化医療における「WIN 2019 Symposium」、「workshop in paris」に参加し、３日間にわたり各公演・ポスター掲示による学術的交流を行った。個別化医療の現在の潮流を知ることができ、また自らの発表についても expert 達との discussion の機会を得ることができた。学会は講演が主体であったが、予防医学、診断学、治療それぞれの分野でエビデンスの蓄積が進んでいる。いずれの分野においても、遺伝子学的な解析・治療介入の進展が強調されており、各研究は質の高い研究が主流となっている。以下は印象に残った研究を要約する。

○生活態度が悪性腫瘍に与える影響　Dr. John Mendelsohn

アメリカ合衆国の人口 75%は肥満に該当し、過去の報告にあるように肥満と悪性腫瘍の発症には関連があり、kidney, uterus tumor の発症率が上昇する(NEJM 2003;348:1625, JAMA intern med 2016; 176: 816)。米国で肥満治療として bariatric surgery が本邦より多く実施されており、この結果、腫瘍の発症率は抑制されるというデータが紹介され、肥満の悪性腫瘍との関連性が強調されている。心血管イベントとは異なり、悪性腫瘍の発生にはサプリメントによる抑制効果は現時点では証明されていない(JAMA 2009; 301: 39)。

○頭頚部腫瘍の ex vivo の抗がん剤感受性 assay

現在治療薬の治療効果はランダム化試験の結果に基づくことが多い。しかし、ランダム化試験の結果を目の前の患者にそのまま適用することはできない。このため、治療薬の効果を予想するための感受性試験が求められている。これまでの研究では、検体量や時間的な問題があり、臨床的に応用できていない。今回は、生検材料を用いてマウスへ移植し、検体量を増幅した後、培養条件下で治療効果判定を予測する。

旧来の殺細胞性薬物のみならず cytokine や特定の receptor に対する阻害剤においても効果を示している。しかし、培養条件下での治療効果判定である以上、抗体を介した ADCC 活性などは把握できない欠点がある。

○STAT3 inhibitor の臨床的応用　MD Anderson Cancer Center

STAT3 の dysregulation が固形癌とくに肺腫瘍で指摘されている。今回は STAT3 の inhibitor の臨床的応用を目的とした phase I/II 試験が紹介された。他分野への応用の視点からは、造血に影響する因子であるため、副作用の詳細が今後 phaseI/II 試験の結果として明らかになっていくであろう。今後血液疾患への臨床応用も検討されているとのこと。

日本からの出席者の内容も素晴らしく、特に各疾患の基礎分野ではエビデンスを作り、リードし得る立場だと感じた。しかし、個別化医療の臨床においては、他国は日本のように臓器別の腫瘍認識のみならず、各遺伝子異常や分子機構の異常に基づく、より横断的な取り組みが増加している。本邦においては個別化医療は経済・倫理的な問題があり、十分な進展とは言えない。今後のさらなるエビデンスの蓄積が期待される。

今回の研修内容を活かして、自らの研究をさらに充実させたい。

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	●●●	氏　名	●●●
所属コース	ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース		

研修等の名称	令和元年度 海外合同教育セミナー （WIN 2019 Symposium）
研修等期間	令和元年 6 月　21 日から 6 月 25 日
研修等目的	令和元年度がんプロ事業として、フランス国パリにて「５大学連携海外合同教育セミナー」を実施
研修等内容	上記のセミナーに参加し、「Workshop in paris」にて研究発表、及び意見交換を行う。また、「WIN 2019 Symposium」に出席し、がん個別化医療における最新の研究成果に関する情報収集、及び研究発表を行う。
セミナー開催機関	ワールドワイド・イノベーティブ・ネットワーク（WIN）コンソーシアム
開催期間	令和元年 6 月 22 日から 6 月 24 日
発表の場合の題目	Exacerbating factors for poor oral intake associated with hematopoietic stem cell transplantation

●研修等参加による成果

WIN 2019 Symposium に出席し、がん個別化医療における各国の現状や、将来を見据えた世界的な展開について知ることができた。自身ががん治療における予防や栄養療法について興味を持っており、本シンポジウムでも複数のパネリストより、治療だけでなく予防のレベルにおいても体重管理や食事、ライフスタイルの重要性について述べられていた。

特に悪性腫瘍のリスク低減のための体重管理、身体活動、栄養学的介入の疫学的な関連や肥満とがん発症リスクとの関連についての講演は、今後の自身の研究の方向性に対して大きな示唆を与える内容であった。上記以外には WIN コンソーシアムの主要成果として WINTHER 試験、SPRING01 試験について紹介された。本邦でも遺伝子パネル検査が実施されている。知識は十分とはいえないものの、包括的な腫瘍プロファイリングについて理解を深めることができた。

ポスター発表では、海外発表経験を積むとともに、質疑応答によって自身の研究を発展的に進めるための有用な知見を得た。

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	●●●	氏　名	●●●
所属コース	"婦人科腫瘍治療におけるゲノム医療従事者養成コース"		

研修等の名称	令和元年度 海外合同教育セミナー （WIN 2019 Symposium）
研修等期間	令和元年 6 月　23 日から 6 月 24 日
研修等目的	令和元年度がんプロ事業として、フランス国パリにて「５大学連携海外合同教育セミナー」を実施
研修等内容	上記のセミナーに参加し、「Workshop in paris」にて研究発表、及び意見交換を行う。また、「WIN 2019 Symposium」に出席し、がん個別化医療における最新の研究成果に関する情報収集、及び研究発表を行う。
セミナー開催機関	ワールドワイド・イノベーティブ・ネットワーク（WIN）コンソーシアム
開催期間	令和元年 6 月 22 日から 6 月 24 日
発表の場合の題目	New approaches using extracellular vesicles for cancer treatment to improve radiosensistivity.

●研修等参加による成果

学会前日の意見交換は用務のため出席できませんでした。

6 月 23 日からの学会に参加しました。近年、oncolgy の分野において precision medicine が非常に進歩してきている。肺癌や悪性黒色腫をはじめとした様々な癌腫において日々目まぐるしく新しい治療法が出現しており、自身の属する婦人科においても BRCA 変異に対する PARP inhibitor などの薬剤が保険適応など非常に注目されており、今回の学会は非常に有意義なものになった。

学会では初日の lifestile によるエビデンスに基づいた肥満やω3 脂肪酸、ビタミンなどのリスクなどから始まり、非小細胞肺癌の脳転移の予測因子における遺伝子発現に関してや、他国の研究や臨床試験など、婦人科癌以外の最近の動向や現状を知る良い機会となった。特に今回初めて耳にしもともと細菌などの適応免疫を利用した CRISPER-cas9 システムに関しては今後期待できると感じた。

また内容以外にもパネルディスカッションでは非常に多くの先生が質問・議論しておりそれを見ても非常にモチベーションの上がる内容であった（実際その翌週の日本での学会で今まではあまり行わなかった質問も多くでき、有意義に過ごせた）。

私自身は英語が堪能ではなく、内容を十分理解できていない部分が多くあったが参加による意義は大きかったと考えられた。

海外合同教育セミナー報告書

大学・専攻	●●●	氏　名	●●●
所属コース	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース		

研修等の名称	令和元年度 海外合同教育セミナー （WIN 2019 Symposium）
研修等期間	令和元年 6 月 20 日から 6 月 25 日
研修等目的	令和元年度がんプロ事業として、フランス国パリにて「５大学連携海外合同教育セミナー」を実施
研修等内容	上記のセミナーに参加し、「Workshop in paris」にて研究発表、及び意見交換を行う。また、「WIN 2019 Symposium」に出席し、がん個別化医療における最新の研究成果に関する情報収集、及び研究発表を行う。
セミナー開催機関	ワールドワイド・イノベーティブ・ネットワーク（WIN）コンソーシアム
開催期間	令和元年 6 月 22 日から 6 月 24 日
発表の場合の題目	The relationship between anti-tumor activity of γδT cells and PD-1/PD-L1 axis for γδT cell immunotherapy

●研修等参加による成果

＜Workshop in Paris＞

パリに到着した翌日 6 月 22 日に行われたワークショップでは、自分の研究について英語で発表させていただき、皆様から質問と意見を頂くことができました。具体的には、標的としている PD-L1 に対する中和抗体関係なく、抗原密度の高いがん抗原に対する抗体を処置して同様の検証を行ってみたらどうかと助言を頂きました。今後の研究を進めるにあたって参考にしていこうと感じました。また、他大学の先生方の発表も拝見させていただき、医師として現場で活躍される中でがんゲノムの変異について in vitro の細胞レベルに落とし込んだ研究や薬学部・病院薬剤師として活躍される中でタキサン系抗がん剤の副作用である末梢神経障害に関する研究と幅広く様々な目線から学ぶことができ、とても興味深いワークショップでした。

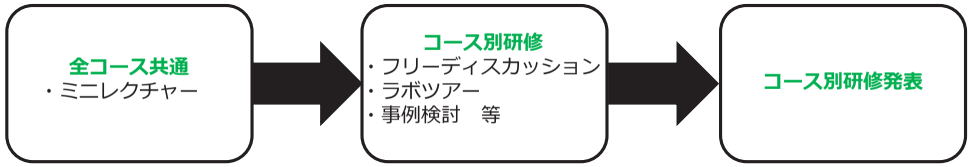
＜WIN 2019 Symposium＞

6 月 23 日から 24 日の 2 日間は、WIN 2019 Symposium に出席し、がん個別化医療における最新の研究成果に関する情報収集と自身の研究発表を行ってまいりました。1 日目の Presidental Lecture では、CRISPR-Cas のゲノム編集を開発したジェニファー・ダウドナ先生による講演が最も興味深いものでした。私自身 CRISPR-Cas システムを用いて遺伝子のノックアウト編集した実験は行っていないのですが、日ごろ論文で目にしていたゲノム編集技術の原理も映像を通してとてもわかりやすく講演されていました。また、この遺伝子編集技術を「鎌状赤血球症」の治療薬として応用されていることも発表されていて、技術の進歩を感じる貴重な講演を拝聴することができ、とても感銘を受けました。2 日目のセッションでは、Keap1 の変異により遊離した Nrf2 が活性酸素種 (ROS) からの刺激により活性化し、それにより抗がん剤耐性や放射線耐性を生じる機序があることや、腫瘍から産生された VEGF および IL-6/10 によって腫瘍細胞内の STAT3 活性化に伴う増殖や未成熟樹状細胞内での STAT3 活性化による樹状細胞活性化の抑制が起きることから STAT3 を阻害する低分子化合物と免疫チェックポイント阻害薬の併用療法の効果についてなど多岐にわたって最新の研究内容の情報を収集することができました。その他にも、東京医科歯科大学の池田貞勝先生による本邦でのがんゲノム医療についての講演も拝聴することができました。私自身、本学のがんプロコースの在宅医療研修において同様のがんゲノム変異の検査を行い、その結果に基づいた分子標的薬治療を遂行し、効果を示した症例を経験したこともあり、とても興味深く感じました。一方、研究発表では個別化医療の内容とは少し離れた内容の研究テーマでしたので、あまりディスカッションをする機会に恵まれなかったのは残念に感じました。しかし、この 2 日間を通して最先端の研究内容を幅広く学ぶことができ、情報を集めることができました。初めての海外研修でしたが、本学以外の先生方の意見も踏まえて自身の研究を進めてまいりたいと思います。

令和元年度　５大学連携学生短期研修プログラム

〇研修日時・場所
　日時：令和2年2月13日（木）13:30～2月14日（金）12:00
　会場：三重大学医学部附属病院　外来棟5階　大ホール（その他関連施設）

〇研修の概要
　「学生短期研修プログラム」は、連携大学間での取組事業として、5大学からがんプロ履修生を選抜し、1泊2日の合同研修に参加することで、連携する学生同士でのがんプロ教育を受ける上での共通意識の向上を図りました。



〇研修生参加者：18名
　（コース別内訳　　ゲノム医療：6名、　放射線：6名、　緩和ケア：6名）

○研修内容（1日目）

２月１３日（１日目）						
13:00	受付開始					
13：30～13：45	開講式・自己紹介					
13：45～15：15	ミニレクチャー（30分×3講義） （会場：医学部附属病院　外来棟5階　大ホール） ・「ゲノム検査とがんゲノム医療」　医学部附属病院・教授　中谷　中 ・「緩和医療と放射線治療」　医学系研究科・教授　野本　由人 ・「がん治療の変化と緩和ケア」　医学部附属病院・助教　松原　貴子					
15：15～15：30	休憩					
コース別研修	ゲノム医療コース		放射線コース		緩和ケアコース	
	15：30～16：30	がんゲノムに関するレクチャー	15：30～16：30	画像誘導小線源治療に関するレクチャー	15：30～16：30	緩和ケアに関する事例検討
	16：30～17：30	クリニカルシークエンス演習	16：30～17：30	小線源治療見学	16：30～17：30	緩和ケアに関するフリーディスカッション
18：00～20：00	情報交換・懇談会（病棟12階　レストラン四囍折々）					

ミニレクチャーⅠ「ゲノム検査とゲノム医療」
医学部附属病院　中谷　中　教授

ミニレクチャーⅡ「緩和医療と放射線治療」
医学系研究科　野本　由人　教授

ミニレクチャーⅢ「がん治療の変化と緩和ケア」
医学部附属病院　松原　貴子　助教

2月13日　情報交換・懇談会

○研修内容（2日目）

2月14日（2日目）						
9:00	集合					
コース別研修	ゲノム医療コース		放射線コース		緩和ケアコース	
	9：10～10：10	ラボツアー	9：10～10：10	治療計画実習	9：10～10：10	緩和ケアチーム回診
	10：10～10：20	休憩	10：10～10：20	休憩	10：10～10：20	休憩
	10：20～10：50	研修内容のまとめ	10：20～10：50	研修内容のまとめ	10：20～10：50	研修内容のまとめ
10：55～11：40	各コースごとに研修内容を発表　（1コース当たり　発表：10分、質疑応答：5分）					
11：40～12：00	各コースコーディネーターからの総評・閉講式（外来棟5階　大ホール）					

2月14日　コース別研修発表

○研修生からの声

・大変勉強になりました。これまで気づかなかった事を気づかせていただきました。
・最後のディスカッションが良かった。
・多職種の人が参加されるのが良かった。また、医師同士でも他の大学の研究室の意思と関わることができ、良かった。
・他大学との交流は新しい発見があり、大切だと思った。是非継続して続けてほしいと思う。

○参加者一覧

大学名	氏名	研究科/専攻名	入学年度	教育プログラム・コース
【①ゲノム医療コース】　6名（京都大3名、三重大1名、滋賀医大1名、京都薬大1名）				
京都大学	齋藤　伴樹	医学研究科/ 医学専攻	H30	プレシジョンメディシンに対応できるがんゲノム医療従事者育成コース
京都大学	高松　士朗	医学研究科/医学専攻	H30	婦人科腫瘍におけるゲノム医療従事者養成コース
京都大学	増井　翔	薬学研究科/薬学専攻	H31	ライフステージに応じた高度ながん薬物療法および支持療法を推進するがん専門薬剤師養成コース
三重大学	山口　久美子	医学系研究科/看護学専攻	H29	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース
滋賀医科大学	森　治樹	医学系研究科/医学専攻	H30	ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース
京都薬科大学	友金　眞光	薬学研究科/薬学専攻	H30	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース
【②放射線コース】　6名（京都大3名、三重大2名、京都薬大1名）				
京都大学	藤井　康太	医学研究科/医学専攻	H28	希少がん及び小児がんに対する放射線治療を担う人材養成コース
京都大学	足立　孝則	医学研究科/人間健康科学系専攻	H31	ライフステージに応じた最先端放射線治療の実現を担う医学物理士養成コース
京都大学	波々伯部　絵理	医学研究科/医学専攻	H30	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
三重大学	南平　結衣	医学系研究科/生命医科学専攻	H29	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース
三重大学	谷口　彰人	医学系研究科/生命医科学専攻	H31	ライフステージに応じた放射線治療・集学的診療を実践する人材養成コース
京都薬科大学	杉山　雄輝	薬学研究科/薬学専攻	R1	ライフステージに応じた個別化がん治療における全人的医療に貢献するがん専門薬剤師養成コース

○参加者一覧

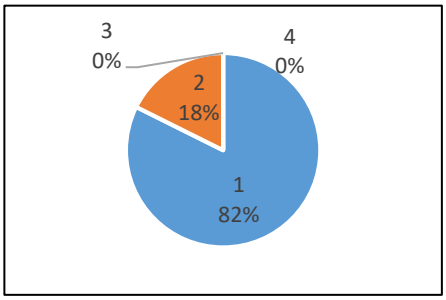
大学名	氏名	研究科 /専攻名	入学 年度	教育プログラム・コース
【③緩和ケアコース】　6名（京都大2名、三重大2名、滋賀医大1名、大阪医大1名）				
京都大学	宮園　めぐみ	医学研究科/人間健康科学系専攻	H30	ライフステージに応じた緩和ケアを実践する人材養成コース
京都大学	吉田　真也	医学研究科/医学専攻	H30	ライフステージと多様なニーズに応じた外科治療、集学的診療を担う医療人養成
三重大学	岡田　まり	医学系研究科/看護学専攻	H30	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース
三重大学	谷口　真里	医学系研究科/看護学専攻	H31	地域包括ケアのもとでライフステージに対応したがん医療を担う看護師養成コース
滋賀医科大学	中村　正子	医学系研究科/医学専攻	H23	先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース
大阪医科大学	石塚　保亘	医学研究科/医学専攻	R1	ライフステージに応じた化学療法専門医養成コース

5大学連携学生短期研修　アンケート集計結果

問1 今回の研修をどのようにお感じになったのかお尋ねします。

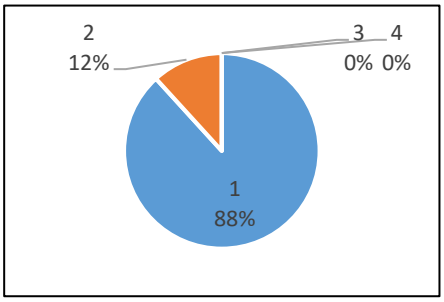
① 全コース共通（ミニレクチャー）

項目	反応	人数
良かった	1	14
	2	3
	3	0
悪かった	4	0
	合計	17



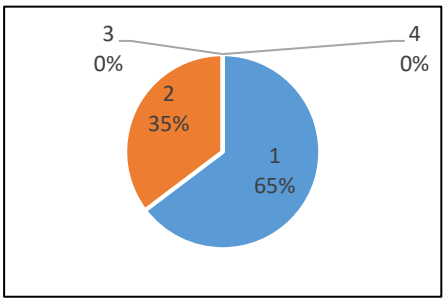
② コース別研修

項目	反応	人数
良かった	1	15
	2	2
	3	0
悪かった	4	0
	合計	17



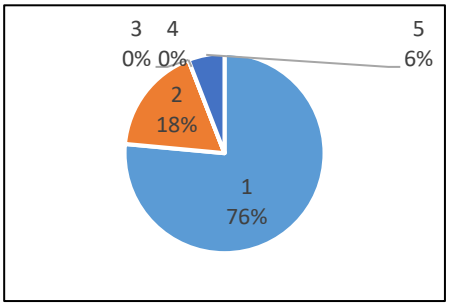
問2 あなたは研修全般について理解することができましたか。

項目	理解度	人数
理解できた	1	11
どちらかといえば理解できた	2	6
どちらかといえば理解できなかった	3	0
理解できなかった	4	0
	合計	17



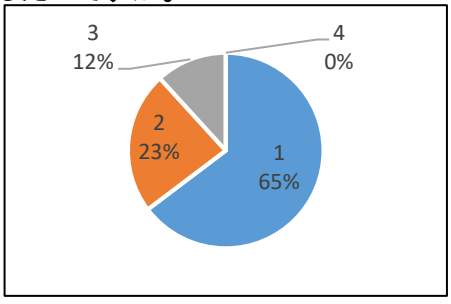
問3 今日のような研修を実施する必要があると思いますか。

項目	必要性	人数
そう思う	1	13
どちらかといえばそう思う	2	3
どちらかといえばそう思わない	3	0
そう思わない	4	0
無記入	5	1
	合計	17



問4 あなたは、来年以降このような研修を開催した場合に参加したいですか。

項目	参加意欲	人数
参加したい	1	11
	2	4
	3	2
参加したくない	4	0
	合計	17



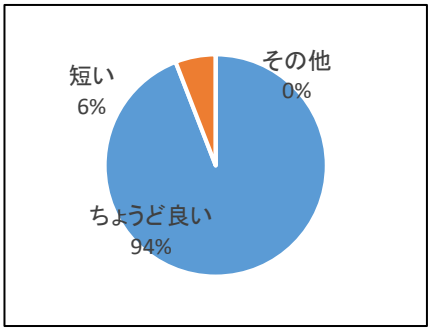
問5　次回はどのような内容を希望されますか。

・緩和ケアの回診が出来ればと思います。
・「見学」をもっと体験したい。もう少し長い期間で参加したいと思いました。
・非常に充実した内容で大変良かったです。
・症例ベースでの検討
・医師が多いのでNSやコメディカル主体の研修内容
・実際のエキスパートパネルに参加など
・多職種の具体的な役割・仕事内容
・がんゲノム医療は来年も続けてほしいと思いました。
・多職種で開催されるカンファレンス（どのように活発な建設的な対話ができるか）
・がん看護外来、生殖医療（がんに関わる）

問6 研修期間について

① 日数

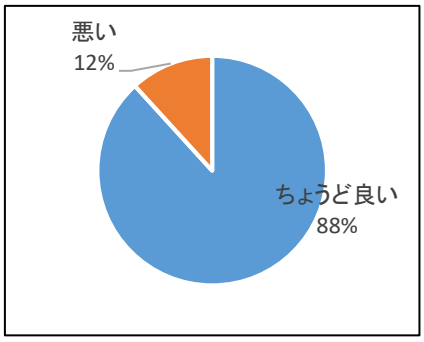
項目	反応	人数
ちょうど良い	1	16
短い	2	1
その他	3	0
	合計	17



開催日数に関する意見（1名）
・5日間を希望

② 開催日

項目	反応	人数
ちょうどよい	1	15
悪い	2	2
	合計	17



開催時期に関する意見（1名）
・8，9月頃を希望

問7 その他、ご意見、ご要望、ご感想等お聞かせください。

・大変勉強になりました。これまで気づかなかった事を気づかせていただきました。
・最後のディスカッションが良かった。
・多職種の人が参加されるのがよかった。また、医師同士でも他の大学の研究室の医師との関わりも良かった。
・事前学習用の資料等があれば背景知識ありきで研修に臨めます。
・他大学との交流は新しい発見があり大切だと思った。是非継続して続けてほしいと思います。
・名札等があれば声がかけやすく良いかと思います。
・情報交換会5000円は少し高いと思いました。
・緊急連絡先をもう少しわかりやすいところに明記して欲しい。
・懇親会にアイスブレイクがあるとよいと思います。

評　価　結　果　表　（取りまとめ）

1．各項目評価

※ 採点は、A：優、B：良、C：可、D：やや不十分、E：不可の5段階評価

区分	項目番号	達　成　目　標　（評 価 項 目）	評価1	評価2	評価3	評価4	評価5	評価6
【教育プログラムコース】								
	1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み	A	A	A	A	B	A
	2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか	A	A	A	A	A	B
	3	コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか	A	A	A	A	A	B
	4	がんに特化した講座（平成24年度以降の新設講座）の活動状況	A	A	A	B	A	A
	5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	A	A	A	A	A	A
	6	医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、新たな整備数	A	A	A	B	A	A
	7	多職種が共同で参加できるキャンサーボード等の整備数、	A	A	A	B	A	A
	8	医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組実績	A	A	A	A	A	B
	9	コース履修者の医療チーム・キャンサーボードの開催数、期間等	A	A	A	B	A	A
	10	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	A	A	A	A	B	A
	11	コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数	A	A	A	B	A	A
	12	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	A	A	A	A	A	A
	13	コース履修者の国内学会、和文誌への研究論文発表数	B	A	A	A	A	A
	14	コース履修者の国際学会等への参加者数	B	A	A	A	A	B
	15	コース履修者が国内学会等への参加者数	A	A	A	A	A	A
【シンポジウムやセミナー等の実施】								
	16	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	A	A	A	A	A	A
	17	社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）	A	A	A	A	A	B
	18	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	A	A	A	A	A	A
【がん医療のグローバル展開を見据えた海外の関係機関との連携】								
	19	コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	A	A	A	A	A	B
	20	国際交流プログラムの実施数	A	A	A	A	A	B
	21	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	A	B	A	B	A	A
【がん医療人材養成拠点間の枠組みを越えた協力体制の構築】								
	22	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	A	A	A	B	A	A
	23	多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況	A	A	A	A	A	A
	24	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	A	A	A	B	A	A
	25	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	B	A	B	B	A	B
【事業の運営体制（実施、評価、連携）】								
	26	連携5大学での事業責任体制、各大学の取り組み事業の実施体制	A	A	A	B	A	A
	27	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか	A	A	A	A	A	A
	28	連携5大学による「合同フォーラム」の開催状況	A	A	B	A	A	A
	29	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	A	A	A	A	A	A
	30	連携5大学　コース履修者の e－learning 受講登録率	B	B	B	B	B	C

※ 採点は、A:優、B:良、C:可、D:やや不十分、E:不可の5段階評価

区分	項目番号	達 成 目 標 （評 価 項 目）	評価1	評価2	評価3	評価4	評価5	評価6
	31	新たな e－learning 講義科目の提供の取組みについて	B	A	B	B	B	A
	32	主幹大学での事業支援事務組織体制	A	A	A	B	A	A
【事業の普及】								
	33	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか	A	A	A	A	A	C
	34	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	A	A	A	A	A	B
	35	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	A	A	A	A	B	B
	36	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	A	A	A	A	A	B
	37	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み	A	A	A	B	A	B
	38	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況	A	A	A	A	A	A
	39	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	A	A	A	A	A	A

2. 講 評

講 評 （ 1 ）
本がんプロのアクティビティは、以前より盛んであるとの印象を受けていたが、令和元年度も、引続き多くの研修生が幅広い分野で所属し、積極的に研究及び学習しておられる。同時に彼らを指導しているスタッフも、定員が限られる中、たゆまぬ努力をされていることが、この報告書から窺える。うまく運営できている要因と考えられる。また本年度は主管の京都大学だけではなく、三重大学や滋賀大学などでもがんプロの活動が軌道に乗ってきており、さらなる成果が今後期待される。令和元年度は最後の頃に新型コロナウイルス感染症の影響で、中止される活動も出てきているが、それまでは大変順調であった。次年度に向けて国内外との交流が限られているのは、研修生にとっては残念であり、かつ大変なことあるが、うまく対応されてこの活動をさらに伸ばしていってほしい。講義や授業はリモート化されると予想されるが、それにより、今年度低かったe-learningの受講率も向上することが期待される。研究活動（論文執筆・学会発表）も引続き頑張ってほしい。

講 評 （ 2 ）
事業3年目である令和元年度も全体的に順調に遂行されている。まず、各コースの充足率(1)は前年度の97%から120%に増えており、今年度はA評価とした。毎年充足率が向上していることは、コース参加者の評価や満足度が高いためと推察される。また、コース履修者が関与したプロトコール(11)は、全体の件数が前年度30件から56件に増加しており、今年度はA評価とした。ただし、主幹大学である京都大学以外では目立った増加は見られておらず、主幹大学から連携大学への波及効果を期待する。 e－learning 受講登録率(30)は登録者数が増加しており、前年度のC評価を今年度はB評価とした。 新型コロナ肺炎の影響によりオンライン講義が急速に普及するなか、e-learningの役割や位置付け（利用法）が変化しており、リアルタイムのオンライン講義をどのように活用していくかも課題となるだろう。 今後も京都大学がリーダーシップを発揮しつつ、大学間の連携を深め、本事業のアクティビティがさらに向上することを期待する。

講 評 （ 3 ）
専門医の育成数、プロトコール作成数も増加し、「がんプロ」事業の趣旨に則った質の高い医療人養成が実現されていると評価されます。人材育成に資する主幹校と連携校との共通の教育基盤も順調に形成され、高いレベルでのコンソーシアムの運営が実現されています。いくつかの項目においては取り組みの課題の再点検が望まれます。

講 評 （ 4 ）
拠点全体の受入目標総人数37人に対して、45人を受入している点が素晴らしく、国際学会への参加支援など充足率を高めるための努力が十分なされていることが伺える。本事業のホームページも非常に見やすく、各大学で取り組まれている研修会等が一目でわかるよう工夫されている。また、「5大学医療フォーラム」の内容が映像として一般公開されていることも、社会への普及活動として高く評価できる。 一方、取り組みの充実度に5大学間で差が感じられる部分もあるため、特に附属病院を持たない薬科大学においては、多職種が在籍する大学との連携を密にすることで、さらに発展が期待できると考える。

講　　評　　（ 5 ）
今季の事業も3年目となり、高度ながん医療を担う人材育成に積極的に取り組まれ、成果を創出されていることが良く理解できました。 各コースの学生受入れにつきましては、総数としては目標数を超えるとの評価ですが、大学ごと、コースごとにみていくと、受け入れ目標数が0で経過しているコースが3つあります。残り2年間となりましたので、学生確保にむけて一層、尽力していただければと思います。 また、e-learningにつきましては、大学ごとの差もあるように感じました。さらなる受講率の向上とコンテンツの作成に取り組んでいただき、学生の学習が進むような環境整備をしていただければと思います。地域完結型医療体制の構築につきましては、がんプロの取り組みとして目指すところを資料から読み取ることが難しく、評価がしづらいところがありました。 高度ながん医療人材育成においては、医療の中心となる患者さんを理解することが大切かと思います。そのような取り組みを評価する項目があってもよいのではないかと感じました。 さらなる事業の発展を祈念しております。

講　　評　　（ 6 ）
本事業は、京都大学を主幹として5大学が連携協力しながら、高度がん医療を先導する医療人の育成を目指すための取り組みを進めており、がん研究基盤の発展構築に向けた取り組みに見られるように、日本を代表する高度ながんプロである。 全般的に 5 大学連携がんプロの事業は、ほぼ順調に推進できており、特にがんプロ養成講座は、全 24の多様な教育プログラムコースが開設され、多数の履修生を輩出している点は評価できる。しかし、主幹校と他の大学の取り組みにギャップが見られる点も散見される。評価項目のなかには、目標値と実績の対比に関する記載がないところもあることから、PDCAサイクルを回し改善を進めるためにも連携大学がんプロのマネジメント体制強化に向けた施策も積極的に進め、ギャップの解消に努めていただきたい。 国内外の学会、イベント関係ではコロナの影響から開催も参加も難しくなっているが、ITに強い「がんプロ」ならでは対応策も考慮し事業を進めていただきたい。 e-learning講義科目の取り組みでは、新たに6本の講座を開設するなど充実度を増しつつある。受講登録率は主幹校が82%のところ、連携4大学の受講登録率が34%に留まっていることからさらなる努力に期待したい。 本事業ではホームページを開設し積極的な情報公開を行い、社会の理解を得るとしているが、「5大学連携医療フォーラム」のビデオは公開されているが、それ以外のイベントはHPにチラシが掲載されているだけである。それだけでは、広く社会にがんプロに関する理解を深めることに繋がるとは言い難いので、特に市民公開講座などは、ビデオ公開、講演資料のHP配布なども考慮し、本がんプロがリーチできる裾野を広げる努力もしていただきたい。 県内でのがん対策への貢献にかんする取り組みについても、積極的活動している点は評価できる。また、ITを用いた効率的な連携に関しても、三重大学の地域医療連携ネットワークの取り組みは評価できる。 さまざまな先進的な取り組みが進められている本がんプロ事業であるからして、ゲノム医療、希少がんや小児がん、ライフステージにあわせたがん医療に対応できる医療人の育成とともに、社会のニーズにマッチしたとても重要なトピックでもあるので、ネット時代にふさわしい方法での情報公開を積極的に進め、がんプロ事業の役割への社会の理解を深めていただきたい。非常にレベルの高い「がんプロ事業」である。

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

高度がん医療を先導するがん医療人養成

京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科大学・京都薬科大学

京都大学医学研究科　がんプロフェッショナル養成プラン事務局
〒606-8501　京都市左京区吉田近衛町
TEL　075-753-4654　FAX　075-751-2180
E-mail　060ganpro@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp